

～100 人会議サポーター企画～

新・常滑市民病院の
基本設計に関するワークショップ

平成24年11月

目 次

1. 基本設計ワークショップについて	… 1
2. 各回のワークショップの概要	… 2
(1) 第1回 オリエンテーション	… 2
(2) 第2回 南生協病院視察	… 2
(3) 第3回 八千代病院視察	… 3
(4) 第4回 意見交換会①	… 3
(5) 第5回 意見交換会②	… 4
(6) 第6回 グループ別意見交換会	… 4
3. ワorkshopシートとりまとめ	… 5
(1) 新病院の設計に求めること	… 6
(2) 先進病院視察で印象に残ったこと	…14
(3) 新病院基本設計（案）に対する意見など	…28
(4) テーマ別意見交換会	…46
4. 「新病院設計ワークショップ」を終えて	…63
5. 今後の新病院の建設に向けて希望すること	…67
6. メンバーの声はここに反映!!	…72
7. 資料の紹介	…83

1. 基本設計ワークショップについて

(1) 基本設計ワークショップとは

新病院の基本理念である「コミュニケーション日本一の病院」を目指した取り組みの一環として、昨年開催した「みんなで創ろう!!新・常滑市民病院 100 人会議」に参加いただいたメンバーの方を対象に「新病院設計ワークショップ」を開催しました。ワークショップとは一方通行的な伝達ではなく、参加者自らが参加・体験しグループの相互作用の中で学びあったり、創りだしたりすることのこをいいます。今回の基本設計ワークショップにおいても、病院（建築）の構成・要素に関するオリエンテーションを行い、先進病院の視察したのち、事務局で作成中の基本設計（案）についてグループワークを行い、ご意見をいただきました。

(2) ワークショップメンバー

●市民メンバー

NO.	氏名
1	赤崎 友理子
2	明壁 智代美
3	飯尾 美智子
4	磯村 薫子
5	磯村 智恵子
6	片山 涼子
7	中村 恵美
8	西本 成子
9	増田 美紀
10	山田 紀子
11	山中 和子
12	飯尾 歩
13	犬飼 正志
14	檜尾 治良
15	神原 富雄
16	高谷 達之輔
17	瀧田 知多夫
18	土田 和男
19	山本 晋作

●行政メンバー

役職	氏名
院長	中山 隆
副院長	鳥山 高伸
看護部長	久米 淳子
事務局長	皿井 敬治
総務部長	山口 学
企画部長	伊藤 宣之
福祉部長	大岩 久晃
保健予防課長	梅田 雄史
保健師	入山 佳代子
保健師	堀内 康世

●事務局

市長	片岡 憲彦
副市長	山田 朝夫
管理課長	澤田 勝則
業務課長	皿井 栄一
日建設計	野崎 庸之
日建設計	村田 政人
日建設計	荒川 康弘
新病院建設室	

(3) 開催内容

次頁の「2. 各回のワークショップの概要」参照下さい。

2. 各回のワークショップの概要

(1) 第1回目 オリエンテーション

▼開催日時 平成24年8月18日(土) 14:00~16:00

▼資料など【資料①】プログラム

【資料②】ワークショップ(趣旨・進め方)

【資料③】ワークショップシート①

オリエンテーションとして、事務局より、100人会議からこれまでの経過および市民病院の現状説明を行いました。また新病院の設計者である株式会社日建設計からは、今後の病院視察の基礎知識として、病院に必要な機能(部門)の説明がありました。当日は、オリエンテーションにも関わらず、冒頭の自己紹介から市民メンバーの方々の新病院に対する熱い意気込みが感じられました

▼当日の様子



(2) 第2回目 先進病院視察

▼開催日時 平成24年9月1日(土) 13:00~17:00

▼開催会場 南生協病院(名古屋市緑区大高町)

▼資料など【資料④】プログラム

【資料⑤】ワークショップシート②

名古屋市緑区大高町にある南生協病院を視察しました。南生協病院は、市民の共同で作る「健康なまちづくり支援病院」をコンセプトとしており、組合員の方々が数十回の会議を行いながら、自分たちの病院を作り上げていきました。その中には現在もボランティアとして病院で活躍される方がたくさんみえます。視察当日も、ボランティアの方が設計の会議や現在の活動などでの経験をもとに病院内をご説明下さり、大変参考になりました。ワークショップメンバーの方も視察中たくさんの質問をされるなど何か感じられるものがあったのではと思います。

▼当日の様子



(3) 第3回 先進病院視察

▼開催日時 平成24年9月 8日(土) 13:00~17:00

▼開催会場 八千代病院(安城市住吉町)

▼資料など【資料⑥】ワークショップシート③

第3回目は安城市にある八千代病院を視察しました。八千代病院は平成21年度には愛知県の「人にやさしい街づくり賞」を受賞しています。すべての人に優しい待合い椅子や院内各所にある手づくりの案内サイン、屋上庭園によりどの病室からも緑が見えるなど随所に工夫がされています。また地域の人々が運営に参画する仕組みが整えられています。院内にたくさんある絵画はボランティアの方の作品ですし、院内の案内から日曜ミニコンサートまで、多くのボランティアの方が活躍されています。当日は八千代病院の設計者である今井康治さまより病院をご紹介いただきました。単なる病院の案内にとどまらず、現在の使い勝手からの反省点まで、実際に八千代病院で働く今井さまならではの話を聞くことができ大変参考となりました。

▼当日の様子



(4) 第4回 意見交換会

▼開催日時 平成24年9月22日(土) 14:00~16:00

▼資料など【資料⑦】ワークショップシート④

第4回は、新病院の基本設計(案)を初めて公開しました。メンバーの方には3つのグループに分かれて大判の平面図や建築模型を囲んで意見交換を行っていただきました。初めて見る新病院の基本設計(案)にたくさんのご意見やするどいご指摘をいただきました。事務局ではなかなか気付かないような、患者目線・市民目線でのご意見もあり、いつもながら大変参考になります。予定の終了時刻を延長しても活発な意見交換を続けるグループや次回の開始時刻前に集まって意見交換を行おうというグループもあり、「自分達の病院を創るんだ!!」という熱い思いが感じられました。

▼当日の様子



(5) 第5回 意見交換会

▼開催日時 平成24年10月6日(土) 14:00~16:00

▼資料など【資料⑧】プログラム

【資料⑨】ワークショップシート⑤

【資料⑩】第6回テーマ紹介

第5回は、はじめに東日本大震災発生時における石巻赤十字病院の初動記録を上映した後、(株)日建設計の設備担当者より非常時における新病院の電気・ガス・水道などのライフラインの確保の計画案の説明がありました。また第4回に続き、グループ毎に基本設計案に対する意見交換を行いました。皆さま図面に慣れてみえたためか、前回以上に細かい点までご指摘がありました。最後は、各グループの代表者による発表を行い、防災から設備や運用面まで幅広いご意見をいただきました。

▼当日の様子



(6) 第6回 テーマ別意見交換会

▼開催日時 平成24年10月20日(土) 14:00~16:00

▼資料など【資料⑪】プログラム

【資料⑫】ワークショップシート⑥

【資料⑬】①コミュニケーション グループワーク資料

【資料⑭】②ボランティア グループワーク資料

【資料⑮】③アメニティ グループワーク資料

第6回は予備日の予定でしたが、皆さまのご協力により開催が決まりました。メンバーによる進行のもと「①コミュニケーション日本一の病院」「②ボランティアの活躍のためには」「③患者・来院者・地域住民等のアメニティ向上のためには」に分かれてグループワークを行いました。「コミュニケーション日本一の病院」にするためにこれから何を行っていくと良いのか、新病院でどのような病院ボランティアが考えられるか、また新病院に向けてどのような準備が必要となるか、売店・コンビニや喫茶、レストランから病室や病棟について運用から募集のことまで、たくさんのご意見をいただきました。

▼当日の様子



3. ワークショップシートとりまとめ

各回のワークショップ後に、メンバーの皆さまにはワークショップシートの提出をお願いしました。新病院に対するさまざまなご意見や、他のメンバーの意見を聞いて考え直したこと、その後に思いついた意見などたくさんのご意見をいただきました。いただいたご意見はフロアやテーマ毎にとりまとめ、事務局での現時点での考え方を（→**ゴシック体（太字）**で表記）お答えしたうえで、メンバーの皆さまにお渡しし、次回のワークショップにご活用いただきました（お渡しした各回のとりまとめにつきましては市民病院のホームページよりご覧いただけます。）。ここでは、第1回から第6回までのワークショップシートでメンバーの皆さまからいただいたご意見（当日のグループワークでいただいたご意見も含んでいます。）を①新病院の設計に求めること、②先進病院視察で印象に残ったことなど、③新病院基本設計(案)に対する意見など、④テーマ別意見交換 の4つに大別し、それぞれフロアやテーマごとにとりまとめました。

なお、各回のワークショップシートの質問内容は以下のとおりです。

(1) ワークショップシート①【資料③】

1. 新病院の設計に望むことがあれば書いてください。
2. 「1」のご意見に関して、本日のワークショップに参加して自分なりの問題意識が変わったりつけ加わったりしたことがあれば書いてください。

(2) ワークショップシート②【資料⑤】

1. 南生協病院さんの施設見学や説明を通して感じたこと、印象に残ったことを書いてください。
2. 今後のワークショップに望むことがあれば書いてください。

(3) ワークショップシート③【資料⑥】

1. 八千代病院さんの施設見学や説明を通して感じたこと、印象に残ったことを書いてください。
2. 今後のワークショップに望むことがあれば書いてください。

(4) ワークショップシート④【資料⑦】

1. 新・常滑市民病院の設計(案)の説明を聞いて、どう思われましたか。あなたのご意見をお書きください。
2. 次回のワークショップの進め方について、ご意見があればお書きください。

(5) ワークショップシート⑤【資料⑨】

1. グループワークを終えて、新・常滑市民病院設計(案)に対するあなたのご意見をお書きください。
2. 第6回ワークショップにおいて意見交換したいテーマを、次の①～③の中から第1希望、第2希望の順に選択してください。

(6) ワークショップシート⑥【資料⑫】

1. あなたのグループのテーマは何でしたか。
2. グループワークを終えて、今日のテーマに対するあなたのご意見を書いてください。
3. 「新病院設計ワークショップ」を終えて、感じたことやご意見を書いてください。
4. 今後の新常滑市民病院の建設に向けて希望することを書いてください。

(1) 新病院の設計に求めること

ワークショップを開始する前にメンバーの皆さんから新病院の設計に求めることを書いてきていただきました。

【外構、配置計画】

病院へのアクセス

▼駐車場から入口までが遠いのは具合の悪い病人にはつらい。

→敷地の制約があり病院の入口と駐車場が少し離れた場所にあります。可能な限り配慮したつもりでおります。詳細につきましては、今後のワークショップ内で、実際の図面を見てご意見をいただければと思います。原案では、正面玄関すぐに車イス専用の駐車場を10台確保する計画です。また送迎の場合は正面玄関まで車寄せをしていただき、付添の方が車を置いて戻ってくるまでの間は、患者さんをボランティアの方をお願いするなどの検討方策を考えています。

▼救急患者に迅速な処理が出来るよう配慮（設計の分野でも）

▼予防診療と急患との仕切り

→救急患者の動線は一般の患者さまの動線と交差しない設計です。またもし緊急オペとなっても、救急の処置室近くのエレベーターでオペ室のある階層にすぐ搬送できます。

▼巡回バスなど交通アクセスを充実

→新・常滑市民病院基本構想において「交通弱者の病院へのアクセス確保について、十分配慮する」と明文化していますが、現在、公共交通機関の乗入れやコミュニティバスなど関係機関の調整等を含め検討中です。どのようなアクセスが適当なのかについてはワークショップで議論していただきたいと思います。

【1階フロア】

エントランス、情報ライブラリ

▼広い玄関ロビー

▼総合案内コーナーの充実

→病院の顔となるエントランスホールにつきましては、吹き抜けのある可能な限り広いスペースを確保したいと思っています。内装や案内表示などはこれから計画していくこととなりますので、わかりやすく、充実した素敵なエントランスとなるよう、患者目線での皆様のご意見をワークショップの中でいただければと思います。

▼医療についての一般的な相談ができるコーナー又は部屋

→新病院では保健センターを合築する予定です。ワークショップには保健師も参加しますので、保健センターと市民病院とでどんなことができるかをワークショップの中でみなさまと考えていきたいと思っています。なお、入院中・通院中の患者様につきましては、入退院の相談ができるP F M室（地域連携室）や栄養相談室、救急や中央処置室にある説明室やオペ室の面談室、病棟の各階にある面談室など患者様と病院スタッフがご相談できるス

ペースが数多くあります。いずれも個室でプライバシーについては十分配慮しています。

- ▼PRコーナーの設置（顧客コミュニケーションの強化のため）
- ▼医療情報、市民病院のPRのための掲示板、資料等の設置
- ▼「病院友の会」等、市民病院のファン拡大
 - 「コミュニケーション日本一」の病院を実現するため、どのようなPR施設を設け、どのようなPRをしていけば効果的なのか、ワークショップで皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

コンビニ、喫茶

- ▼コンビニや、喫茶店とカフェコーナーを希望
- ▼検査や診察待ち時間に過ごせる場所。（周辺に喫茶店がないので、海が見えて食事ができる所）…ガスト等と連携するとか？
- ▼待時間を過ごしたりおしゃべりするのほっとできるような空間
- ▼売店の充実を
- ▼病気に関する書籍もそろえてドクターが患者に進めては。自己管理がしっかりできないと病状悪化を防げない。
- ▼新病院の近くにはスーパーやコンビニがあって便利なようだが外出時間を短くしたい通院患者や付添者にとって院内売店は必需品。
- ▼レストラン・喫茶の充実。魅力ある売店を誘致。外から入れるよう配慮。
- ▼病棟ごとの談話室はもちろん、付き添いの人やボランティアさん、はたまた直接病院とは関係ない人が来やすくなるようなスペースがあると良いと思います。
 - 売店や喫茶、食堂、コンビニについては今後、「委託契約」を考える中で話し合い、広く募集を行います。現在の基本設計案の段階では、エントランスホールの周りにコンビニと喫茶、最上階の海の見える西側に食堂のスペースを確保しています。業者選定の際は、魅力のある提案者を選びたいと思います。

外来診察室、待合

- ▼待合スペースの充実
- ▼受付・会計・窓口・診察室・特に待ち時間長くなっても苦痛を感じない待合室。
 - 各外来の待合は、窓があり自然の光が差し込み明るく、緑が見られる優しい空間となっています。待合にディスプレイを設置して様々なコンテンツ情報を流すことなどを提案する業者などがありますが、そういったアメニティについては今後、委託業務の検討の中で話し合っていたきたいと思います。今後、デモ機を待合に設置するなどして皆様のご意見・ご感想をいただきたいと思っています。
- ▼プライバシーが確保できる 中待合の工夫など
 - 新病院では中待合は設置いたしません。また新病院では診察室は天井まである壁で仕切り、現在のようなカーテンの入口ではなく引き戸を考えています。現在の病院のように診察室での会話の内容が隣の診察室や待合にいる他の患者さんに聞こえることがないように配慮します。

- ▼小児科待合の充実、子どもが飽きないよう、絵本やおもちゃを用意
 - 小児科の待合には、お子様のためのプレイルームを予定しております。また、他の外来にきた大人の動線となるべく交差しない位置を考えております。遊具やしつらえなどにつきましては、充実したプレイルームとなるよう、ワークショップの中でみなさまからご意見をいただきたいと思っております。

とこなめホール

- ▼分割使用できる会議室をつくり、地域の方々にも利用していただくようにする。
 - 新病院では各種イベントや教室、会議などが行える「とこなめホール」を計画し、分割使用できるよう検討いたします。病院や保健センターの会議等で使用していない時は、地域の方々には開放したいと考えています。

ボランティアステーション

- ▼ボランティアを充実するために休憩所となる部屋を設置。屋外からも入れるように。
- ▼ボランティアが動きやすいように
- ▼院内ボランティアの活用（万一の事故に対する安心も考慮）
- ▼ボランティアの拡充、ボランティアの人数拡大と講座開設
- ▼ボランティアの配置拡大と研修による室の向上
- ▼ボランティアコーナーの設置
- ▼ボランティアの待機コーナー又は部屋
 - 1階のエントランスホール付近にボランティアの方々がお休みしたり、打合せをしたりするスタッフルームを計画しています。病院敷地の花壇等の手入れからはじまり、院内の案内役まで、他病院を見ても病院で活躍されるボランティアの方は多くみえ、病院はボランティアの方に支えられています。当院でも、ボランティアの皆さんにどのように活躍していただくかについて、今後真剣に考えていきます。第1回目のオリエンテーションでご意見のありました、外から入ることができる仕様につきましては検討いたします。

患者の動線

- ▼私の母は緑内障の手術を受け今でも顔面を絶対にぶつけてはいけません。2か月に一度、〇〇病院に定期検査を受けに連れて行くが、眼科へ到達するまでに他診療科の待合席や受付機の間をすり抜けなければならない。
- ▼エレベーターへの曲がり角も見通しが悪く、人とぶつかりそうで気が抜けない。学校のような横並び型より放射状配置の方が人の移動は安全か？
 - 新病院では患者さんの動線に配慮した設計を行っていきます。他科とは異なり特殊な検査室のある眼科や耳鼻咽喉科、100人会議の中で他の外来からは見えにくい配置の希望が多かった婦人科につきましては、2階への配置を考えています。2階の外来には、正面玄関を入るとすぐ2階専用のエレベーターと階段を配置するなど、内科などの他の患者さんの動線と交差しないよう配慮していきます。
- ▼どの病院に行っても迷路みたいなので、玄関に入ったら各科がすぐ分かるようにしてほしい。

- ▼受付から外来、検査室など動線をなるべく短く、しかも解りやすいのがいい。
- ▼人の流れを考えた間取りを
- ▼昔の設計の建物では増築・増設を繰り返す、通路なのか待合場なのか区別がはっきりしない。
- ▼ロビーから各科が見渡せるつくり
- ▼患者の動線が短いように
- ▼患者の動線の短縮に知恵を
- ▼距離的動線の短縮（患者の歩く距離の短縮）
- ▼時間的動線の短縮（受付⇒診察⇒結果通達⇒投薬（処方箋渡し）⇒清算）
- ▼動線を短く機能的な配置
 - 新病院では、患者さまの動線に配慮した設計を行っていきます。基本設計の原案では、正面玄関を入るとすぐ目の前に総合受付があり、そこから南にメインとなる廊下が伸びています。廊下の東側に外来診察室、西側に中央処置、生理検査、放射線が並びますので、外来診察室から各種検査への距離も短く、現在の市民病院に比べると分かりやすく、ぐるぐるあちこちを回らずに済むよう考えています。詳細につきましては、今後のワークショップで基本設計案をお見せいたしますので、そちらを見ていただいた上で、ご意見をいただきたいと思います。

感染対策

- ▼感染時の受診。車内で受診を待つことができるように、専用駐車場と車用PHSの整備
- ▼予約システムを改善し、待合にいる時間を短くすることで、感染リスクを下げる。
 - 予約システム等を利用した、自家用車への連絡につきましては、今後、医療情報システムの中で検討となります。またパンデミック（ある感染症が全国的に大流行した状況）時には一般患者とは動線を別にした専用待合ができるよう設計しております。

【4、5階フロア】

デイコーナー

- ▼談話室は出来る限り広くし、各フロアの中央に配置する。
- ▼海が見える休憩所。（面会の人と話をする場所）
 - 各病棟の中央にあるスタッフステーションまわりに2ヶ所、デイコーナーを考えています。特に、最上階の回復期リハビリテーションの病棟については広いスペースを取っています。病院の配置上、海は西側のデイコーナーからしか見ることはできませんが、360°開放的な景観ですので、どのデイコーナーの見晴は良いと思います。

【その他設計に関すること】

アメニティー

- ▼ベビーベッド、授乳室、オムツ替え台の設置
 - 1階のコンビニの隣と小児科待合に授乳室を計画しています。授乳室にはベビーベッドやおむつ替え台、ミルク用の給湯器などを設置する予定です。
- ▼受診時の託児。子どもの保護者や兄弟が受診するとき、健康な子どもをあず

ける場所が欲しい。

- ▼病気でない子、しかし家に置いてこられない子を預かることができる部屋、子ども（乳幼児）用のベッドを待合に（トイレだけでなく）。
- ▼病児保育が可能だと良いが…
 - 受診時の託児につきましては検討課題です。待合には乳幼児用ベッドを設置いたしますが、病児保育の実施につきましては今のところ考えておりません。

デザイン

- ▼明るいムードの色を、全体的に使って欲しい
- ▼各科の区別を子供でも判断しやすく、はっきりした色か動・植物にしてはどうか。
- ▼明るく
- ▼エントランスホールやその周辺は「病院」らしくない、ちょっとおしゃれな雰囲気を目指す。
- ▼機能美を追求してスッキリしたデザインに
- ▼古くてみすぼらしい病院は患者を不安にさせる。でも商業施設ではないからチャラいデザインは不必要。特にガラスの多用には問題が多い。
 - 内装をはじめとするデザインにつきましては、今後のワークショップの中でみなさまにご意見を伺いたいと思います。たくさんのご意見がいただけるのを楽しみにしております。ガラスにつきましては、採光や建物の強度、保温性とのバランスを考えながら検討していきます。
- ▼明るさと清潔感あるいは自然と癒しの空間を取り込んで欲しい
- ▼緑を多くして欲しい（市民に寄付してもらって、木を植える）
 - 各外来の待合は窓があり自然の光が差し込み明るく、緑が広がる空間を考えています。各病室はベッドごとに窓があり、病院の周囲には高い構造物はありませんので、ほとんどの病室からは開放的な景色が見られます。

ユニバーサルデザイン

- ▼受診を待つ椅子の工夫
- ▼バリアフリーの徹底
- ▼高齢者、障がい者、お子さん連れなど弱い立場の方の利用しやすい施設（広い通路・難聴者や外国人の手助けなど）
- ▼高齢者、身体障がい者、妊婦、幼児、病人、けが人、あらゆる角度から検討したバリアフリーであることと貴職員スタッフの利用面との整合性から素案を作成してほしい。
- ▼聴覚障がい者のため手話やノートテイクする人材が待機できるコーナー
- ▼案内（電光）掲示板には外国語も表示できること
- ▼レベルの違う患者に合わせた道具の提供
- ▼エレベーターにまったく手が使えない車いすの人が押せる足元ボタンを
 - 新病院ではバリアフリーを含めたユニバーサルデザインに十分配慮いたします。またボランティアの方の配置や設備、道具類についても、今後のワークショップの中で、利用者目線でのみなさまのアイデアをお聞きしたいと思います。

維持管理、空調、清掃など

- ▼窓ガラスも空調を考えたときはほどほどに
- ▼広すぎるガラス窓は省エネ効果：低
- ▼病室の南ブロックは昼夜の温度変化が大きく患者は生活し辛いまた、病人の目に直射日光は強すぎるので大抵の患者はカーテンを閉めている。息子が入院した時、私はわざわざ北ブロックを希望した。
- ▼病棟は一年中一定温度キープなのでガラス窓は小さい方が省エネ効果が大きい。ガラスは割れると凶器になる。強化ガラスが事故や災害にどの程度耐えられるのかわからないが、性能の良い物ほど高価なのは。
- ▼できた後の維持管理にあまり費用がかからないような設計
- ▼空調や清掃などに配慮して
- ▼メンテナンスを考慮し無駄なデッドスペースをつくらない。
 - 基本設計案では入院患者さんのアメニティ向上の観点から全ての病室に窓を設けることを目指しました。このため、窓が多くなっていますが、現在は空調負荷の低減のため、断熱性の高い複層ガラスや庇やバルコニーによる日射の遮蔽、外壁の乾式タイル工法などにより西日を遮るなどさまざまな技術があります。また、日建設計は常滑市民病院以外にも数多くの病院の設計を手掛けており、完成後の維持管理を考えた設計のノウハウがありますので、詳細につきましては、ワークショップで日建設計より説明を聞き、話し合っていきたいと思えます。

熱源システム

- ▼再生可能エネルギーの導入
- ▼万一の電源喪失に備えて、太陽光発電・太陽熱発電・燃料電池等を備えておく必要がある。
 - 太陽光をはじめとする再生可能エネルギーの利用については今後、「設備」に関する打合せの中で、設置費用や導入費用、運用費用やメンテナンス費用など費用対効果を比較しながら計画していきたいと思えます。なお、災害時につきましては、非常用発電機などの設置により、電源が止まってしまうことのないような熱源システムを計画しています。
- ▼りんくう NEDO や県内の大学などと提携し、実証実験の名目で補助金をゲットして格安に設備を作れないだろうか。売電収入も見込めるし。
 - 各機関と提携については検討いたします。また国や県からの補助金につきましては、少しでも建設費が安くなるよう情報収集してまいります。

将来を見込んだ設計

- ▼財政難で、市民の意見は建設に対して、必ずしも賛成の方ばかりでは無い状況です。その様な中で、予定地の飛香台は人口増加も見込まれ、万が一の地震に遭っても津波の心配は無く安心です。今後、50年100年後を見越し、又、市民が気軽に集える交流の場も兼ねた設計を望みます。
 - ご指摘のとおりです。病院と市民の方々と、どのような交流のあり方がよいのかにつきましては、ワークショップ内で考えていきたいと思えます。
- ▼時代の変化に対応できるように可動式壁の採用もありうるのでは？(30年後のリフォーム余地)

- ▼現在の病院の改善レベルではなく、将来を見すえた設計を望む
 - ご指摘はごもっともです。ただ医療の将来予測は難しく、国の政策により大きく変わるものでもあるため、全ての可能性に備えようとするとは過大投資となるおそれがあります。基本設計案では、病院内の間仕切りを変えることができるよう、柱など支点（構造物を支持する点）の間隔を大きくとった大スパン構造を採用し、また将来的な拡張を予定した建物の配置や各部門の配置を計画していきます。
- ▼将来、老人施設を隣接できるように考慮した配置。
 - 建設予定の医療福祉ゾーンのうち新病院建設には3.0haを予定しております。残りの1.3haの土地については、具体的な施設は決まっておりますが、将来何らかの施設がくることを予定して、新病院の配置計画を進めております。介護施設との連携は、今後とも重要な課題であると考えておりますが、施設が隣接しているべきかどうかにつきましては、ワークショップで検討していきたいと思っております。

その他設計全般

- ▼赤字経営から黒字へ持っていける病院になるような設計を
 - 過大な投資となりすぎない範囲で、施設・設備の改善による医療の質の向上や患者さまのアメニティの充実を目指します。
- ▼身の丈にあった病院（シンプルで使いやすい。機能重視）
 - 80億円の予算を超えないよう身の丈に合ったシンプルで使いやすい病院の設計に努めてまいります。またワークショップなどを通して、みなさまからのご意見をいただき、患者さまの目線に立った、わかりやすく機能的な病院を目指します。

【病院の運営に関すること】

保健予防への取組

- ▼体操やミニ講座など保健予防活動のできる場所
- ▼地域住民の健康を守る、治療だけではない健康維持・増進の機能を持つ市民病院を望みます。
- ▼予防医学
 - 新病院では、市民のための保健活動、健康づくりの拠点である保健センターの合築を予定しております。第1回ワークショップで保健予防課長から説明がありましたとおり、様々な健康講座や乳幼児健診・生活習慣病予防の健診など、今以上に、多種多様な健診機会の提供と、病院と連携した予防活動を行っていきたくと思っています。
- ▼健康診断など気軽に受けられる体制作り
 - 新病院では、新たに健診センターを計画しています。健診センターは一般の患者さんとの動線が分かれるよう、他の患者さんとは別の入口と駐車場を設けたいと思っております。

新病院の基本理念

- ▼コミュニケーションのとりやすさを配慮した病院（病院の職員同士、患者と病院、地域の医療機関、行政
- ▼「コミュニケーション日本一」の実現に向けて患者の側に立った目線での設計を望みます。
- ▼小さいからこそ実現可能な「日本一コミュニケーションのいい病院」
 - 設計段階では、病棟では患者様の顔がみえるオープンなスタッフステーション、また病院職員同士のコミュニケーションのため、管理部門に医師・看護師・事務職員が集まるラウンジなどを考えております。また保健予防について市役所との連携を強化するために保健センターを合築します。患者様とのコミュニケーションについては今回のワークショップでみなさまから患者さま目線でのご意見をお聞きしたいと思っております。

病診連携

- ▼病診連携の拡大と充実
- ▼診療所から紹介された人々がスムーズに診療が開催される体制
 - 新病院におきましては「連携」がキーワードだと思っております。ハード面というよりは、ソフト面での課題が大きいと思われまますので、今後、ご指摘いただいた内容で考えていきます。

病院の方針・経営改善

- ▼「新病院の基本方針」のぶれない堅持、実践。
 - 実践達成のための各項目ごとのブレイクダウンした具体策の明示とプラン・ドゥー・シーを加味した工程表作成、メンテナンス。
- ▼新病院開業後も来院者への積極的声かけ（来院者が望む声の聞き取り）から血の通った市民目線の頼られる病院への改善継続
- ▼病院目線ではなく、患者目線での対応
 - 今回の設計に関するワークショップに限らず、今後ご指摘のような機会を設けていきますので、患者さま目線でのご意見をいただければと思っております。
- ▼市民病院に行くと「一日仕事」からの解放
- ▼待時間の解消
 - 待ち時間の解消につきましては、多くの患者さまよりご意見をいただいております。大きな課題であると考えています。医師の不足や急患など、いかんともし難い点もありますが、なるべくストレスなくお待ちいただけるような工夫を考えてまいります。また情報機器の導入による解消につきましても今後検討してまいります。

(2) 先進病院視察で印象に残ったこと

新常滑市民病院の基本設計(案)について話し合っていた前にも、八千代病院と南生協病院の2つの先進病院を見学いただきました。その中でメンバーの皆さまが印象に残ったことなどをテーマごとにとりまとめています。

【外構、配置計画】

駐車場

- ▼(南生協病院は)たくさんの車が停められて、屋根のある駐車場がうらやましく思う

【1階フロア】

エントランス、情報ライブラリ

- ▼(南生協病院の)総合待合の雰囲気がよく利用者にとってわかりやすいつくり(ここで医療と健康づくりの両方が見渡せる)。
- ▼(南生協病院は)まずはロビーに病院の匂いが無いのに驚いた。日建設計の同行者に尋ねると、偶然ではなく、空調と機密性、空間の取り方など、設計上の工夫があったとのことという。“病院らしくなさ”は、五感全体で感じられてこそ本物だと知らされた。
- ▼(南生協病院は)玄関ロビーや検診ロビーに置かれているイスが、一般的な病院に置かれているものと違い、デザイン性が重視されている。
- ▼(南生協病院は)エントランスホールの出入口が自動扉で2カ所併設されている。風対策等を考えると素晴らしい設計と感じた。
- ▼(南生協病院は)全体に窓が多く広く設置されており、夏の熱さ対策を少し危惧したが、全く心配いらぬ状況であった。
- ▼(南生協病院は)入院患者さん用のクスリを作る場が二階の目立たないところにあって、そういった特有の臭いが一階など病院内にないこと
- ▼(南生協病院は)正面玄関を2つ持ち、病院利用者以外のエントランス通路をつくり、病院外も含めた動線にもこだわりを持たせおりました。
- ▼(南生協病院は)中に入るとすぐに、レストラン&ショップがあり、エントランス通路は、患者さん以外にもJRの駅を利用する会社員や学生さんが22:30まで利用しているとの事。市民の交流の場として、使い易い机と椅子が置いてあり、長椅子は見かけませんでした。
- ▼(南生協病院の)床は当初の設計を変更し、弱視の方の意見を取り入れ床が浮き上がって見えないものになっているとうかがい、細かい所まで患者さんの意見が取り入れられている事に感心しました。
- ▼(八千代病院は)どうして正面玄関がまん中にならぬのか不思議に思ったが、駐車場が病院の建物をぐるりと囲むような配置になっているので、東の玄関と西の売店出入口の二カ所を設けた方が来院者に都合がよいとわかった。
- ▼(八千代病院の)待合いの長いすは特注品で、工夫がいっぱいだった。ワンタッチで出るキャスターで簡単移動、収納できる肘掛け、後ろ席のための手すり、点滴スタンド差し込み、交換できる横板など。災害時に背もたれを倒

してソファベッドにするための新製品を開発中という。背もたれは色も柄も落ち着いていてよかったが、残念なのは座面の色。3色（赤・青・薄緑）あって元は場所別になっていたのが混じってしまったようだ。運用の効率を考えれば同じ物を大量注文した方が良かったのでは。

- ▼（八千代病院のように）正面玄関を入れてすぐの部屋、車いすを置いてあったところに、少して良いから待合の椅子があるといいと思った。高齢者など一人で行動しにくい人を車で連れてきた場合、駐車場に車を移動させる間、とりあえず座れる椅子があると、素早く車を移動させられるので助かる。上記の場合、もしボランティアの人が付き添いをして、総合受付の待合まで連れて行ってくれるのなら、それでも良い。
- ▼（八千代病院の）総合受付の待合椅子は、せっかく特注の可動なのだから、ベッドになるとより良いのでは？と思ったが、コスト面などで不合理な点があるのだろうか。
- ▼（八千代病院のように）時間外に総合受付のシャッターが閉まるのは、安全であり、またコンサートのときなどは雰囲気をよくすると思う。
- ▼（八千代病院の）ロビーのソファは考えられていてよかった。移動でき、ベッドにもなり、点滴もできる。災害時を考えてのことらしい。また、ソファの後につけられた手すりは、後の席の足の力の弱った人にとっていいと思う。
- ▼（八千代病院の）ロビーはコンサート会場になり、移動式の特注の椅子など、ロビーから工夫が感じられた。
- ▼（八千代病院の）病院臭のない空調、圧迫感・ストレスのない空間

コンビニ、喫茶など（南生協病院は付属施設も含む）

- ▼（南生協病院は）喫茶コーナーやコンビニなどがある明るく、広々とした玄関スペース
- ▼（南生協病院には）スポーツジムや旅行社、人気のパン屋さんや有機野菜を使用したレストランがある。
- ▼（南生協病院は）地域の人が利用できるカルチャーセンターのような施設がある。
- ▼やや（南生協病院から）離れた助産所の建物に行ったが、自宅に帰ってきた気分になるような部屋があったこと
- ▼（南生協病院には）保育所が院内と、院外にあること
- ▼（南生協病院は）有名な石窯パンの店やカフェが隣接した、ショッピングモールのような「ここが病院？」と思わせる外観が迎えてくれました。
- ▼（南生協病院には）フィットネスクラブがあり、最新鋭の機器で多くの会員さんが汗を流していました。
- ▼（南生協病院は）病院機能以外の店舗等も充実しており、地域との一体感があった。
- ▼外部からレストランに入りやすくするには、病院内のエレベーターでというのは難しい。保健センターの方のエレベーターで最上階まで行けるようになるか、南生協病院のように隣にあった方がいい。
- ▼（南生協病院の）おいしいパン屋さんも大変人気のようで、何か人が集まる

工夫も大切であると思いました。実際にとてもおいしかったです。

- ▼（八千代病院は）コンビニ内が車いすで通れるよう広がったのは素晴らしいが、その隣でなくて逆方向にレストランがあるのは疑問にのこった
- ▼（八千代病院では）365日営業のコンビニは8時から20時まで外から一般の方も自由に入れるようになっていた

外来診察室、待合

- ▼（南生協病院は）患者の動線が良く考えられており、外来部門はコンパクトな設計であった。（通院患者がいるときの流れを確認する必要があるが。）
- ▼（南生協病院は）外来の通路が広く、又病院独特の病院臭が全くない。
- ▼（南生協病院は）最近できた博物館や記念館のように、各フロアの色使いが柔らかく、落ち着いた雰囲気があり、また、案内表示や診察室に番号を付け、新患でも分かりやすい病院だと思った。
- ▼（八千代病院は）良いと思った主なところは、各科が良い並びに配置されていることと、待合のソファが明るくて機能的にできていることです。
- ▼（八千代病院は）小児科の待合スペースも狭く、無駄がないと言えるかもしれませんが、ここで大人しく子どもたちは待っていてくれるのかな、と思いました。感染用の待合は増築の際改められると聞きました。大人用の感染待合も作るそうです。

患者の動線

- ▼（八千代病院は）患者の導線については、南生協病院と同様よく考えられていた。
- ▼（八千代病院は）導線は直線で見渡しやすいが、高い位置に案内板が少なく、診療科が分かりにくいのではないかなと思った。
- ▼八千代病院も南生協病院も玄関前にバス停があった。当然！今の常滑市民病院、患者をどれだけ歩かせるんだ！
- ▼（八千代病院では）増築すると駐車場が足りなくなるといわれていた。敷地が狭いとそういう問題が出る。新市民は広いので、遠くに駐車すると、歩くのが大変。半田市立は立体にして便利になった。景観に遜色ない側に立体の駐車場はできないものか。

薬局

- ▼待ち時間削減のために院外処方主流であるが、八千代病院は全て院内処方だ。病人や高齢者は外の薬局まで行くこと自体が困難な人もいる。少し時間がかかっても1カ所で済ませたい人もいる。本来なら患者の選択に任せるべきだろう。院外処方にするなら玄関から雨に濡れずに行けるくらいすぐ隣に薬局を作って欲しい。
- ▼（八千代病院は）お薬が、院内処方だった点（その訳は高齢者など、院外処方なら取りに行くのが大変になると考えたからとか）

付属施設について

- ▼新病院内併設予定の保険センター、検診センターとのかわりには、市組織内に属しており病院とハード面、ソフト面両面共に一体運営が望ましいと考えます。（疫病、早期治癒予防の連携、人事交流、諸費用の軽減等効果期待大）、

八千代さんでは、検診センターと人間ドッグ検診が組み合わされ一体感がありいいなと感じました。

- ▼（八千代病院の）総合健診センターは、診察室も含め、エリア自体、狭い印象を受けました。
- ▼（八千代病院の）血液浄化センターでは、スタッフステーションを中央に配置し、その周りにベッドを配置しているところが良いなと思いました。
- ▼（南生協病院は）検診センターも、落ち着いた雰囲気の中、すべての検診室がワンフロアに、コンパクトに配置されていて、テンポよく検診が受けられると思った。待合の白い1人用イスも、個人的に気に入りました。
- ▼（南生協病院には）メンタル患者のデイ・サービスがあり、畳スペースと簡単な料理が作れる部屋があったこと
- ▼新常滑市民病院の産科分娩は出来ない予定とのこと、核家族の場合、退院後・ケア・助け手が必要。（南生協病院は）助産院「はあと」のような施設が併設されているといいと思う。できれば住む（入院する）ことができれば他市からでも需要があると思う。

【4、5階フロア】

病室・病棟

- ▼設計上の細かいことであるが、（南生協病院は）病棟（4人室）内の間仕切りカーテンの上部（1.8m以上）は網目状になっており、少しでも明るくするという配慮が感じられた。
- ▼（南生協病院の）お金をかけないアイデア。入院部屋の名札、スタッフの顔写真付き紹介（CDケースを使って）
- ▼（南生協病院は）病室の窓も、各ベッドに1カ所は設置されている案も大賛成です。
- ▼（南生協病院の）緩和病棟に、ご家族が泊まる部屋があったこと
- ▼一部しか見ていないが（南生協病院は）内部スタッフにとっても使い勝手の良い設計となっている印象。
- ▼（南生協病院は）小さな窓にまでカラフルな色が使われていて、患者たちの痛みや暗くなりがちな気持ちを明るくするような細かな配慮がある点
- ▼（八千代病院の）設計者の反省1「エレベーターが狭かった。」ストレッチャー用の大型は別にあるけれど、外来と病棟が共通利用するとなると狭いかも。感染症予防のためにも病棟専用エレベーターがあると良いと思った。
- ▼（八千代病院は）「病床は患者にとって医療空間であると同時に生活空間である」という認識に立って、病院っぽい薬品臭の換気とかおいしい食事の献立とかに、とても気を遣っているようだ。
- ▼（八千代病院は）随所に緑があり、患者の心は和むだろうが、ベッド上の患者は動けない限り、空だけ見ることになる。窓の高さが問題。窓を低くすると空調の効率、安全上問題ありになりそう。今話題の「あなたへ」の小説にも入院中、空しか見えない、何とかしてほしいとあった。
- ▼（八千代病院を見て）個室にシャワースペースが必要と痛感した。最近の若い方はシャワーが必要です。特に女性には必須であると強く感じた。

- ▼（八千代病院の）個室は利用者の方のニーズに応じた広さやユニットが工夫されていて、入院患者の生活スタイルに合わせた対応がよいと思った。家具や収納も工夫され、トイレも全車いす対応などの配慮もされた病院であった。
- ▼（八千代病院の）特別室では、革張りのソファが目に付いた位で、室料に見合う金額とは感じなかった（この感覚が民間病院かな?）
- ▼（八千代病院で）高級な家具があり広い個室をみたが、（常滑市民病院には）まったく必要ないと思えた。
- ▼（八千代病院で）最高（1日¥25,000）の特別室を見せてもらったが、広すぎて無駄があると感じた。
- ▼（八千代病院の）特別個室、豪華。最後の看取りの時はこんな部屋がいい。しかし、通常の入院には、個室っぽい4人部屋という今のコンセプトのほうが、優れている。
- ▼（八千代病院は）各病棟における、各病室の中心に配置されたスタッフステーションや血液浄化センターの中心に配置されたスタッフエリアのように、患者さんへの対応が迅速にできる設計だった。

デイコーナー

- ▼（八千代病院は）病棟の突き出た奥が大きな窓になっていて、そこに、外を観渡たせるように机と椅子が配置されていた。
- ▼（八千代病院は）病棟のデイコーナーの感じが良かった。食堂談話室といい、入院中苦痛にならない工夫は見習うべきと思う。
- ▼（八千代病院は）外来患者の休暇室があり、パソコンを使用できるようになっていたこと
- ▼（八千代病院では）隅っこだったが日差しにあたるデイコーナーで、理学療法士と軽くりハビリをやっていたところ。
- ▼（八千代病院の）病棟の食堂&談話室は明るく、ゆっくり出来る感じでよかった
- ▼（八千代病院は）病棟のあちこちにゆとりを持った談話スペースが設けられていた。患者同士のコミュニケーションの場として大事なことだと思う。ただ、大部屋でもカーテンを閉めっぱなしにしていたり、個室にこもりきりになったりする患者さんは多いと思うので、意識的なはたらきかけが必要になってくると思う。
- ▼（八千代病院は）3、4、5階にゆったりとした食堂談話室がありいろいろなことに利用できると感じた。
- ▼（八千代病院の）各病棟通路端にあるデイコーナー。
- ▼（八千代病院は）各階にライブラリーコーナーが設けてあった。
- ▼（八千代病院は）病棟の廊下が広くて、窓のあるところにソファや椅子・テーブルが置かれ、デイコーナーがたくさん設けられていた。各階にデイルームが隣り合って2カ所あり、1つは椅子なしの車いす用ルーム、もう一つは椅子のある談話室だった。以前に私が付き添った病院ではデイルームが1カ所しかなく、要介護者の食事に占領されていた。歩ける患者でもカーテンを閉めてベッドで孤食するしかなかった。また、付き添い者の居場所が無く、とても窮屈で体力的にも大変だった。八千代病院のようなゆとりを患者にとっての必需品ととるか贅沢ととるか、患者の声をしっかり聞く必要がある。

【その他設計に関すること】

アメニティー

- ▼（八千代病院は）屋上庭園に大きな木！がたくさん植わっていて驚いた。他の庭園にも木がたくさんあった。根を横に張らせて固定する処置をすれば、表土の厚さは30cmでいいとのこと。病院の周りは市街地なので、この緑の森は本当に目にやさしい。ただ、「虫が発生するので時々消毒をしないとイケない。」そうなので、窓に近すぎる木はどうだろう。
（八千代病院は）屋上庭園があることによって外に出られない患者さんも風を感じる事ができる。
- ▼屋上緑化は今や必須と感じた。
- ▼（八千代病院では）窓からは絶えず緑が見え、また、全体的に明るく、院内環境の良さが目立った。
- ▼八千代さんの中庭は癒し効果大と見受けました。（贅沢ではあるが一考の価値あり）
- ▼（八千代病院のように）どこの階からも緑が見えるというのは、とても心が安らぎ、病気も早く治りそうな気がします。退院を渋られる方の気持ちも分かる気がしました。
- ▼（八千代病院の）あちこちの窓から、植物が見えるような癒やしの工夫
- ▼環境都市安城らしくあちこちに緑化が施されていた。
- ▼（八千代病院では）緑が病室から見えるのは癒されて良いのはわかりますが、維持費等のコストを考えると必要ないと思います。建物の周りに木を植える程度で充分ではないでしょうか。
- ▼（八千代病院は）庭園が多く、中庭の部分が特に素晴らしかった。
- ▼（八千代病院の）病室の窓からは、庭園が眺められ、リハビリ室から庭園のウォーキングができるなど、独自の癒しの空間の工夫が感じられた。
- ▼（八千代病院では）緑化スペースがリハビリに有効利用されていることは素晴らしいと思う。
- ▼南生協病院でも花壇がボランティアの方々できれいに整備されていましたが、八千代病院でもコンクリートの上にこんな大木が育つの？と感心する程の木々が育っていて、庭園が各部屋から鑑賞できるようになっていました。
- ▼（八千代病院では）各階ともに屋上庭園が楽しめてステキだった。
- ▼（八千代病院の）椅子、カウンター、蛇口には、かなり凝った製品が使用されている印象であった。
- ▼ネット回線使用可能は今の時期は当然となってきた。
- ▼家具については高価なものより、シンプルで使いやすく、掃除しやすく、加えて清潔を保てるものが良いではないでしょうか。
- ▼（八千代病院の）病院の印象はコンパクトですが、テラスの緑や照明など優しさを感じました。
- ▼（八千代病院の）待合等の注文して作ったという長椅子が華やかで可愛い色遣いでキャスター式に変えられるものもあり移動に便利（1脚70万円）。
- ▼（八千代病院の）椅子はオリジナルで移動しやすく使いやすくできていた
- ▼（八千代病院では）照明が明るさ、色、間接など細かい工夫がされていた。
- ▼（八千代病院は）食堂や壁面の掲示物、カウンター上の備品や置物にもこだわりを感じた。

デザイン

- ▼（八千代病院は）廊下が広く、そのあちこちに椅子があり、疲れやすい病人には、良いのではないかと思った。
- ▼（八千代病院では）通路が直交しているので、移動中に方向感覚が失われにくく安心できた。
- ▼（八千代病院の）壁面など、市民が描いた絵が飾られていた点
- ▼（八千代病院は）掲示板が多く、情報を提供しやすいように思った。
- ▼（八千代病院は）廊下がひろーい。→ 額が飾れて展示会場になっている。
- ▼（八千代病院の）廊下の壁面が絵画で飾られていて、素敵な空間になっていました。
- ▼（八千代病院は）通路に余分・余計な物がなく、広々と使われていた。
- ▼（八千代病院の）廊下の照明は、間接照明を主にし、色調を含め柔らかな照明がなされていた。この柔らかな照明の効果と思われるが、やさしい雰囲気全体に漂っていると感じられた。

ユニバーサルデザイン

- ▼（南生協病院の）利用者に配慮した設計。トイレの手すりのつけ方、手すり・テーブル付のイス、そうじのしやすい材質、外来待合の順番案内の表示（目でも耳でも分かる）、ネーミング
- ▼バリアフリーとユニバーサルデザインの違いを学びました。
- ▼エントランス等のスペースが大きくなると手すりの導線が途切れがちになります。（南生協病院は）玄関受付から診察室あるいは一番近いトイレまでの導線、また病棟から検査室までの導線を考慮して手すり位置が考えられているとは残念ながら感じられませんでした。その点は逆に旧来の廊下真っ直ぐの病院の形状のほうが手すりの導線が作り易いのですが、ベンチやテーブル、固定看板もデザイン機能を持たせれば立派な手すりになることはユニバーサルデザインの視点からは当たり前のことです。目線を「誰のために」向けて考えているのか常に心がけてもらいたいものです。
- ▼（南生協病院は）案内看板が親しみやすい言葉になっている。
- ▼（南生協病院は）文字をなるべく少なくして、マークなど誰でもわかりやすい表示になっている。
- ▼（南生協病院の）多目的トイレは、整形外科の病棟にあるものが良いように感じたので参考に…！！
- ▼（南生協病院は）受付から受診科に行く時も、番号で大きく表示されていて迷いにくくなっていた。
- ▼（八千代病院は）階段のノンスリップと手すりが紅色で、白っぽい階段や壁とのコントラストがくっきりして、私の老眼でも見やすかった。
- ▼（八千代病院は）階段が歩きやすかった。白っぽい色と手すりステップの端の赤が、コントラストがはっきりしていてわかりやすくよい。高さもよかった。
- ▼南生協病院に比べ（八千代病院は）手すりの導線が有効かつスムーズに感じられた。長椅子の背もたれの手すりは是非参考にさせていただきたいと思った。
- ▼男性が立って用を足せる手すり付き便器まであった、（八千代病院の）多目

的トイレ

- ▼（八千代病院で）いやだなと思った主なところの一番目はトイレです。広さは充分だと思えますが、流すのがレバー式になっていて、力のないお年寄りや弱っている人、点滴中のために片手を使えない人には、ボタン式にしたほうが助かります。
- ▼（八千代病院では）多目的トイレの便座が高く普通以下の身長では足がつかない。
- ▼（八千代病院は）どのトイレも車イス可能。ドアも開閉が簡便そうだった。
- ▼（八千代病院は）水道の蛇口が、丸く下に伸びて固定されたものが多く、伸縮式のシャワー水洗がよいと思った。

災害対応

- ▼（南生協病院では）災害の対策も配慮。出入口の広さ、大きすぎる程の案内番号表示など
- ▼耐震構造が常滑は免震、南生協さんは制振とのこと、どちらが地震に強いのでしょうか。

維持管理、空調、清掃など

- ▼（南生協病院は）鉄骨造のデザイン上生じる、梁上や階段脇、階段下、柱とガラスの空間、アール部と直線部の取り合いといったデッドスペースにおける埃溜まりが仕事柄この施設でも気になりました。病棟と地域共有スペースが区分されている分まだマシでしょうが緩和ケア部分でも見受けられたので建築の段階で作らなくてもよい埃や細菌ウイルスの逃げ場所溜まり場所は見直されるべきだと常々思います。
- ▼（南生協病院は）明るい色使い、採光スペースの多さは素敵だと思いました。その一方でメンテナンスが大変そうだなと、特に鉄道が近い分より一層感じました。そこにもボランティアか、組合員参加が活かされ施設維持に貢献していることが素晴らしいと感じました。
- ▼（南生協病院は）とてもオープン（日頃から利用することが将来につながる卓球台）であるが、職員しか入れない場所の管理は徹底
- ▼（南生協病院は）オープンスペースが多くあったにも拘らず、セキュリティや省エネも考慮して、間仕切りが考えられていた。
- ▼（南生協病院で）一番印象に残ったことは施設の清潔さです。新しいということもあるかもしれませんが、トイレも含めてどこも掃除が行き届いていて気持ちよく見学させていただきました。
- ▼やはり鉄骨造とくらべデッドスペースの気になる点が少なかったと思う。またスタッフがスペースの有効利用に苦心している姿勢が窺われた。

将来を見込んだ設計

- ▼（八千代病院の）設計者の反省2「設計段階で整合性を考えすぎると実際には窮屈すぎた。」というわけで増築予定。急性期中心から療養期にも対応するためだという。上に積むのか横に広げるのか、聞いておけば良かった。どんな建物でも長年使えばリフォームは避けられない問題だ。新市民病院は改

築可能な柱の入れ方をする設計なので、ちょっと安心だ。敷地に余裕のある分は駐車場や花壇などとして残しておくべきだろう。

- ▼（八千代病院の）今井設計士さん中心に最良の設計をされたが、その後の月日の経過により問題点・課題が多く浮かび上がってきた。この一つ一つを今度の設計に活かさなければならない。「現在の最適・将来の不最適」となる。経験上、予測が難しければ余裕を見込んだ設計が必要となる。
- ▼開院後の院内レイアウト変更への配慮要。（部屋は大きく、壁は最小限に等）
- ▼24時間生活の場提供も大切。
- ▼将来の医療の姿を見据えて建設することは重要ですが、予測しきれない事態は起こりうると思います。八千代病院に増築スペースがあったことは、幸いだと思いました。
- ▼（八千代病院を見て）完成型より拡張型を設計コンセプトに位置付けることはこれからの時代変化の速度からいって必要不可欠の要素であると考え。計画段階にない診療科目の増幅やスタッフボランティアの増加あるいは縮小や減少に備え、必要な場合の流動的設備配置転換が可能な設計プランを目指してもらいたいと感じた。
- ▼（八千代病院では）最初の設計に、「将来の医療の変化に対応できる余裕を見込め」というが、難しいが対応しておきたいこと。
- ▼八千代病院の今井さんの話の中で、「設計を考え過ぎた。例えば、看護師や職員の数、機材も増え対応するために、来年増築することになっている。機能の変化に対応できる設計にすることが大切」と話された。この話を聞き、時代の流れの変化に対応できる設計、働く職員もほっとできる空間が大切なのではないかと思った。同時に設計は、細かく仕切ってしまうより、様々な場面に対応し、変化できる空間も必要だと感じた。
- ▼（八千代病院では）在320床ですが更に100床増やす予定や、看護体制が7：1になり職員の増加に伴い更衣室の確保が困難な事を挙げて、看護部長が「病院の状況は色々と変化していくので、将来を考えて拡張できるスペースの確保、余裕のあるものを！」とのお話は、病院は作ったら終わりではない！事を学びました。

【病院の運営に関すること】

病院の経営に関すること

- ▼（八千代病院は）経営幹部が改善に向けて常に前向きな意識を持っている。常滑市立病院は今も努力の真っ最中なのでやる気満々だけれど、何年か後にも意欲を継続できるようなバックアップ組織を作っておくべきだと思う。
- ▼（八千代病院の）自前主義－専門職職員（建築士がデザインしたイス、編集者が作った広報誌などや、システム管理も全て職員でというのがすごい!!）
- ▼病院経営上、経費節減するために業務委託が常識とされているが、（八千代病院は）委託業務を施設管理（清掃）と厨房のみとし、他は安易に委託に走らず、いろいろな工夫をして直営の努力をしているところは、大いに学ぶべきであると感じた。
- ▼（八千代病院の）院長の自前主義で医師確保に精力を注がれているようですが（産婦人科医8人）新病院においても最重要課題ととらえ、総力を上げて確保すべきと考える。
- ▼民間病院ということもあるが、（八千代病院は）医局側と事務局側との連携ができており、病院経営に関して一貫性を感じた。

- ▼（八千代病院の）自前主義、大いに結構。専門職の職員の活用、委託業者にも常駐の人を設けるなど、見習う点があった。
- ▼（八千代病院では）スタッフの確保は固定費削減からパート・アルバイト・ボランティア多用と適材適所活用（教育・訓練等必須）の検討要。両病院職員は民間扱いであり人件費は低く黒字に寄与。
- ▼（八千代病院では）“自前の職員”による、助け合いの連係プレーの良さも、今回の視察で垣間見ることが出来ました。職員のみんなで病院運営を支えている姿は、大変好感が持てました。

新病院の基本理念

- ▼（南生協病院は）建設時の基本方針として「街作りのなかに病院を置く」という基本理念が確立している。地域の方々に、病院の敷地内や建物の中に気軽に入ってもらえるような工夫が色々なされている。これは素晴らしいことと強く感じた。
- ▼南生協病院理念：「共に歩む医療で、笑顔と「ありがとう」が溢れる病院を目指す」「みんながいて、みんないい、一人ひとりの命輝くまちづくり」、新常滑市民病院の理念：「小さいからこそできるコミュニケーション日本一の病院を目指す」のコミュニケーションでは抽象的で解りづらい、日本一とはどのような姿を描くのか、もっと具体的な行動ができるように表現する必要を感じた。
- ▼（南生協病院は）①急性期医療ゾーンから⑩みなみ安心まちづくりゾーンと10のゾーンをつくり幅広い地域づくり、まちづくりの理念が活かされている。
- ▼（南生協病院の）新病院づくり『10のゾーン』の内容・テーマは完璧。何を目標しているのか、目的・狙いが見事に整理、集約されてぶれない具体策推進の要をなしていると感じました。
- ▼（南生協病院は）地域や組合員の病院としての理念がはっきりしていて、すばらしいと思いました。その理念により、多くのボランティアが病院の開院時の内覧会や、開院後の普段の診療、運営に大変積極的に参加されており、それがまた病院のよい特徴を支えてみえるのだと感じました。今後市民病院が市民に支えられた、また市民が誇れるような病院になれるようにしたいと思いました。
- ▼（八千代病院は）地域の基幹病院としての基本方針（地域に求められる、良質、人を大切にする）が素晴らしい。そのために色々な努力をされていることがよくわかった。
- ▼（八千代病院は）毎週のコンサート開催等、地域密着という点が前回見学させていただいた南生協病院と同じく大変すばらしいと思いました。地域の健康を支える病院として、来院された患者さんだけでなく、地域全体の健康を支えているという理念が伝わってくるようでした。
- ▼（八千代病院の）地域の医療機関や介護施設との連携の中で、増床計画を決定したという、地域連携により患者さんに最良の医療を提供する基本方針は、新市民病院においても、参考にする事柄だと思います。

【ボランティア】

ボランティアの運用にかかると

- ▼今から37年前の昭和50年に「障害があろうとなかろうと共に住みよい地域社会づくり」を目指してボランティアグループを結成したが、南医療生協の基本理念「みんなちがってみんないい・・・」に通じるものを感じて、意を強くした。
- ▼当院においても、(南生協病院のように)新病院オープン前に「院内ボランティア養成講座」等を開催すれば、ボランティア育成と「自分たちの病院」の意識向上に大きく寄与するものと思う。(待っているのはボランティアは来ません)病院主体による「ボランティア養成講座」の開催を強く願う。
- ▼(南生協病院では)地域のボランティアさんが、さまざまな場面で活躍している点
- ▼(南生協病院では)会員・地域の方を中心に運営されていることです。図書・緑化ボランティアの方々が無償で病院を支えていて、花の苗や種も自分達で持ち寄り、四季折々に花が絶えることはないそうです。
- ▼(南生協病院では)手作りのベッドカバーやぬいぐるみも心が癒されました。組合員さんやボランティアさんの力で成り立っているようなので常滑市でも同じようにできるとは思えませんが、市民の関心をもっと集めることができれば、少しは近づけるのではないかと思います。
- ▼(八千代病院は)ボランティアルームの壁が可動式で、隣の図書室とつなげて広い部屋として使うことができた。小部屋がごちゃごちゃあるより使い勝手がよいと思った。壁の移動が簡単だといいいけど。
- ▼(八千代病院では)自由度の高いボランティアが活躍していた。玄関ロビーの毎週末コンサートは地元のエレクトーンの先生による企画で、アマチュアに発表の場を無料で提供し続け、すっかり地域に根付いた。外来の廊下は絵画グループの発表の場となっていた。常滑は創作活動の盛んな街だと思うので、展示スペースを貸し出すといえれば応募する団体がけっこういるのでは。
- ▼ボランティアの間に世代間ギャップがあるという。メンバーが固定化すると閉鎖的になる。新しい人材を加え続けるのは難しい問題だ。
- ▼(八千代病院での)ボランティアによる絵画の展示やコンサート(常滑にもエレクトーンは欲しい)
- ▼(八千代病院は)病院ボランティアの運営のために、ボランティアコーディネーターは事務長が担当しているとのこと。ボランティアの力や地域との関係を重視している表れであると感じた。我が新病院もボランティア活動を重視するなら、病院側の担当窓口もそれなりの人材を配置すべきである。
- ▼ボランティアセンターに求められる機能として、待機(休憩、控え)、更衣(作業用や舞台用衣装の更衣)、情報交換、打ち合わせ(ミーティング)、学習、研修等々が考えられる。整合性を十分顧慮して設計したが、結局狭すぎて拡張せざるを得なかったとの問題点を披瀝しておられた。我が新病院も必ずすぐに手狭になることが十分予測されるので、予算のぎりぎり許す限り、ボランティアステーションには余裕を持ったスペースを確保すべきである。また、コミュニケーションを大切に、患者ばかりでなく地域住民との交流を重視するなら、エントランスホール内の一角にステージ確保(移動可能)

は必須であると思った。

- ▼（八千代病院は）ボランティア活動では、毎週の定例コンサートは素晴らしく大変な活動と思ったが、それ以外は残念な状況と感じた。当院がボランティア活動を対応する時は、こんな状態にだけはしたくないですね。
- ▼（八千代病院は）プロ並みの方が絵画やコンサートのボランティアにかかわっていてすごいと思いました。
- ▼（八千代病院では）12年間にわたり毎日曜日にコンサートをしているそうで常滑も少しでもまねができたらと期待した。
- ▼（八千代病院では）毎週日曜日には、ロビーで演奏会等を開催し、患者さんをはじめ地域の方達も楽しみにされているそうです。毎週は大変だと思いますが、ここでもボランティアが全て手配、準備、運営までなされているそうで、ボランティアの大切さを実感しました。
- ▼（八千代病院の）地域ボランティアの管理によるリハビリ施設を兼ねた屋上庭園、病院通路の絵画、玄関ホールでの毎週日曜日のコンサートなど、患者さんに対するアメニティ重視の姿勢がうかがわれた。

【コミュニケーション】

地域とのコミュニケーション、病院への参加について

- ▼（南生協病院は）利用者の75%が組合員で地域密着型の病院であることが素晴らしい。（運営も経営も）50年の歴史があり、様々な人がかかわってきたからできたこと、組合員の班・支部・ブロックの地道な活動の成果
- ▼自分たち自身が身を削り（出資して）創り上げる、運営していくという生協病院と違い、市民病院（自治体病院）は時の市長が法律に基づいて建設、運営していくものであるため、市民自身が運営する、支えていくという意識は育ちにくい。これからは、機会あるごとに市民の自治意識、市民協働の精神を高揚させていく取り組み強化の必要性をあらためて感じさせられた。
- ▼（南生協病院は）エントランスホールが地域の通勤、通学の一部に利用されていること、卓球台が設置されていて地元の子供が利用しているところ、生活関連施設が併設・隣接している状況を見て、これからの地域の中で運営する病院のあり方を考える上で大変参考になった。
- ▼新病院づくりの企画・運営の勝利。（南生協病院は）組織・役割分担が明確化され且つそこに係わる生協・病院のコミュニケーションにも優れ一体感を持って進められた結果と想像しました。
- ▼常滑新病院建設には生協の組織に代わる何らかの体制整備が必要、事務局の皆様には開院後も視野に新病院と市民とのコミュニケーションをとりつづけ支えて行く役割を是非継続していただきたい。
- ▼研修用会議室の充実。南生協では市民とのコミュニケーションに病院棟以外の床面積を有効利用している。会議室等については市民とのコミュニケーションの要となる保健センター、検診センターとの連携共同利用で確保できないか？
- ▼組合員の積極的参加による病院づくりの一端を見ることが出来たと思う。こ

の様態を市民病院に置き換えて考えるとボランティア育成含め一から始めなければならないことが多いと感じられた。そのためにも市民参加機会をことあるごとに設け病院・役所・市民の垣根なく情報発信と情報共有が為されることを望む。たとえばこの市民会議もオープンで座席数に余裕があるのだから少々視察に参加したい人や会議を覗いてみたい人を随時募集していてもいいのではないかと思う。

- ▼（南生協病院は）医師や看護師の紹介カードを利用者に配布している。
- ▼（南生協病院は）病気でない中学生が卓球をして遊んでいた。
- ▼説明を地域理事（それも男性）が担当するというのは、常滑でもゴミ委員会で目指したところ。地域における有料化の説明会を、市民委員が見事こなしたことを思えば、驚くほどのことではない。
- ▼（南生協病院の）内覧会になんと10万人、新病院利用者確保保証。入場料を払っての10万人規模の内覧者確保に驚き、成功させようとの熱意の賜物。軌道に乗せる第一歩、このイベントは大変重要と感じました。
- ▼南医療生協は、組合員と職員を中心に地域の人々を取り組み、自分たち一人ひとりが地域を支えているという意識のもと、保健・医療活動によるまちづくりを行なう、自主的な組織だと言うことに驚かされました。市民協働、まちづくりを行なっていく上でのヒントが、そこにあるような気がしました。
- ▼南生協病院は生活協同組合が設置した病院で、組合員が主体の組織作りがしっかりできている。市民病院とは設置目的と方向が違うが、意識としては参考となる。
- ▼（南生協病院では）少年たちが元気に卓球をしてたのは印象的で、どなたにも気軽にスポーツなどが出来る新・常滑市民病院になってほしいもの
- ▼（南生協病院の）“みな1000運動”（知り合いの医師や看護師を紹介するにはびっくりしました。どこまでも、自分達の病院は自分達で守る！という精神、心構えが素晴らしい！と思いました。
- ▼（南生協病院の）組織の素晴らしさ、さまざまな視点から必要とされるものを病院以外にも備えている。すべてにおいて、まさしく人が創り上げていることにおどろかされた。新病院は、このとおりにはいかないまでも、よいところは部分的に取り入れることは十分可能性があると思っている。
- ▼（南生協病院では）医師・看護師不足の課題解決に、「みな1000運動（紹介カード）」で7/1を確保している。モルワールド（知人紹介で4人を経れば、アメリカ大統領にも会うことができる）の例のように、良い医師・看護師の獲得ができると確信した。特に、不足している産婦人科医師を総力（紹介）をあげて獲得したい。
- ▼（八千代病院は）職員同士のコミュニケーションを大切にして改善のための意見を言い合える環境を作るため、人員の自前主義を貫いている。厨房から清掃に至るまで正社員（一部専門職は外部委託）。担当部署以外でも働ける人材を自前で育成すれば結果として仕事の質が向上するというわけだ。
- ▼（八千代病院の）設備や清掃は委託であるが、〇×のマニュアル評価だけではなく普段のコミュニケーションを大切にしているという言葉が印象的。

- ▼（八千代病院では）案内していただいた建築士の今井さんという人に感動。「自分の仕事だけでなく他の所にも気を配りながら」という言葉が印象的。コミュニケーション日本一のためには人を大切にすることと同時に、人づくり（人育て）も大切であることを学んだ。
- ▼広報誌「やちよだより」は新常滑市民病院の目指す「コミュニケーション日本一」を具体化する一方法として、大変参考になる。ただ双方向の広報とするため、利用者の声も多く載せる必要があると思う。
- ▼（八千代病院で）休日に病院内にてミニコンサートなどを開催し、積極的に地域との関わりを持とうとしていることは大変参考となった。
- ▼（八千代病院のような）入院患者、通院患者の満足度調査は、是非やっていただきたい。
- ▼（八千代病院のように）病院内で働く全ての人、清掃担当やボランティアまで、心を込めて取り組んでいただけることが、患者や家族の満足につながると思う。
- ▼ここ（八千代病院）でも、市民を病院に取り込む活動がされていました。
- ▼（八千代病院での）市民による、定期的なミニコンサートの開催
- ▼今井さんは病院職員さんとのコミュニケーションの場も積極的につくって見えるとのこと。見習うことだと思いました。
- ▼（八千代病院では）開院当初よりかなり職員数が増加されたということで、ロッカールームや事務のスペースなどが手狭になっているとの説明でしたが、実際に見学していても、そのように見えました。今後、新市民病院も限られたスペースの中でカンファレンスルームやロッカールームの確保がどのように工夫されるのか？と思いました。日本一コミュニケーションがよい病院を目指すには重要な事だと思いました。

(3) 新病院基本設計(案)に対する意見など

第4回、第5回と事務局で作成した基本設計(案)を大判に印刷し、メンバーの皆さまには図面を囲んで、グループ毎に意見交換をしていただきました。当日のグループワークの中で出た意見を含め、ワークショップシート④および⑤の中でいただいたご意見をとりまとめています。

【外構、配置計画】

ロータリー

▼病院を訪れる多くの人たちがどう振る舞い、どう行動するかを想像したとき、気になった点として玄関口、駐車場への出入りアクセス、朝の通院ラッシュ時の混乱から渋滞、事故など引き起こす恐れあり、徹底した一方通行の動線に配慮していただきたい。

→ロータリーにつきましては可能な限り一方通行とし、来院者の安全な動線の確保を徹底します。また新病院では現病院より駐車場の数が大幅に増え、無料を予定し精算機を設けないため渋滞の心配はしておりません。

▼ロータリー→降車場→駐車場とロータリー→駐車場の動線がクロスするような気がする。混雑時間帯に交通整理係が必要なのでは。

→現在のところ、ロータリーに交通整理係を配置することは考えておりません。開院後のロータリーの混雑状況を見つつ必要に応じて配置を検討します。

▼ロータリーの交差する地点は安全面で考慮が必要

→ご指摘のとおりです。案内表示やレーンに色をつけるなど安全でわかりやすいロータリーとなるよう工夫します。

▼送迎車からゆっくり乗り降りできる安全なスペース（停車スペース）が欲しい。

→エントランス前は、タクシーやバスの待機所を分けることで送迎の自動車が4台縦列で停車できるのに十分な停車スペースを確保していますので、送迎車からゆっくり乗り降りしていただけます。

病院へのアクセス

▼新・常滑市民病院に通院が困らぬよう、患者のために送迎バスの実現はどうなっているか説明してほしい。

→常滑市民病院に乗入れをしている知多バスや市が運営するコミュニティバス、駅と病院を往復するシャトルバスなどさまざまなバスがありますが、こういった送迎バスをお考えでしょうか。1日の本数や路線などを含めてご意見いただければと思います。なお、公共交通機関につきましては関係機関との調整を含め検討中です。

▼最短距離で用事を済ますことのできる動線

→可能な限り動線が短くなるよう配慮します。

▼駐車場までの通路、屋根付きということですが風対策はどうか、風除けの壁等付く予定なのか気になりました。

- 風対策としては、風除けパネル(バス停にある透明なアクリル板の風除けのようなものなど)の設置が考えられます。送迎の車やバスの乗降がありますので立体駐車場からエントランスまでの通路全てに設置することはできませんが、どこに設置したら良いのかを含め今後検討していきます。
- ▼高低差については、長短あって、景観的には良いし、駐車場はうまく、配慮されたと思うが、高齢歩行者には不利であるし、冬場、雪が降ることもある。十分、対策しておきたい。
 - 立体駐車場からのアクセスにつきましては、二層目からエントランスへは段差や傾斜がありません(障がい者用駐車場からエントランスも同様です。)ので、一層目や屋上に駐車された場合は立体駐車場のエレベーターを利用して二層目まで移動いただければと思います。なお、ベイシアとの敷地の間の道路からエントランスへの歩道については勾配がありますが、新病院では高齢者が手すりなしでも大丈夫な緩やかな勾配(1/20 以下)を計画しています(なお、人にやさしい街づくり基準では屋外のスロープは 1/15 以下です)。
※スロープの 1/20 とは底辺 20 cm × 高さ 1 cm の直角三角形の斜辺をイメージして下さい。1/15 は底辺が 15 cm となります。
- ▼病院から院外調剤までのアクセスは、雨でぬれないようにして欲しい。可能であれば、院内処方と院外処方の選択ができるとうい。
 - 薬局につきましては、厚生労働省の通知により、「構造的、機能的、経済的に医療機関から独立していること」が求められていますので、医療機関の敷地内や建物内に計画することは難しいと考えます。また建築基準法上、建物は公道に面している必要があるため、新病院敷地が四方を公道に囲まれている形状であるため、民間の門前薬局は、道路を横断した向かい側の位置になってしまいます。院内処方につきましては、対応できるよう検討いたします。
- ▼敷地内の薬局へは雨がかりなく行けると良い。
 - 薬局につきましては、厚生労働省の通知により、「構造的、機能的、経済的に医療機関から独立していること」が求められていますので、医療機関の敷地内や建物内に計画することは難しいと考えます。また建築基準法上、建物は公道に面している必要があるため、新病院敷地が四方を公道に囲まれている形状であるため、民間の門前薬局は、道路を横断した向かい側の位置になってしまいます。

駐車場

- ▼立体駐車場は圧迫感を減らすために斜面を削って半地下にする予定。見えない部分は死角になるので、巡回警備員を回すことも必要。
 - ご指摘のとおりだと考えます。立体駐車場内については、交通整理を含め巡回の警備員を検討します。
- ▼障がい者用の駐車場の場所は、考える余地がありそう。入口から遠ければ役にたたない。
 - 障がい者専用駐車場(10台)をエントランスのすぐ北に計画しています。
- ▼南生協病院のような駐車場が希望ですが、それは資金的に無理なのでしょう

か。

→新病院では、南生協病院のような立体駐車場を計画しております。

▼傘を差さずに病院に入れる駐車場

→立体駐車場の一層目と二層目は屋根があり、またエントランスまでの歩道には庇(ひさし)がありますので雨がかりなく病院に入ることができます。なお、現病院の南駐車場の約 180 台に対し、新病院の立体駐車場は一層目と二層目合わせて約 300 台の駐車スペースを確保しています。

▼大震災でトリアージエリアが埋まってしまった場合、立体駐車場でも行えるとのことだが、立体駐車場も免震構造なのか。

→立体駐車場は耐震構造となっております。なお、免震構造が免震ピットにより地面の揺れを建物に伝えない構造であるのに対し、耐震構造は建物の躯体を筋交いや耐震壁などで強化し、頑丈な骨組みをつくることで地震の揺れに耐える構造とするものです。

緑化

▼緑化ボランティアの小道具は各自としても、大道具を入れるのはやっぱり屋外倉庫だろう。

▼「コミュニケーション日本一」の病院としては、医師やスタッフについてはよく考えられているが、サポーターとしての市民・病院に関わるボランティアの活動しやすさを考えた方がよい。ボランティアルームは出入り口近くにできないか。また、植栽・花壇の手入れのボランティアには、屋外に道具入れとともに独立した休憩所があるとよい。

→芝生や花壇の手入れなど屋外で活躍されるボランティアの方のための休憩室兼倉庫を屋外に設置します。

▼屋外で作業するボランティアの為に、屋外に面した手洗い場の設置をお願いしたい。

→芝生や花壇の手入れなど屋外で活躍されるボランティアの方のための休憩室兼倉庫を屋外に設置します。

▼今、使わない敷地は緑地として残せばいいけれど、手入れがとても大変だ。屋上庭園も含めて緑化ボランティアは絶対必要！常滑は季節風が強いので。屋上緑化は芝や花壇が中心になる予定。木は地面に植えて自然に大木に育てればよいと思う。道路から玄関に花の咲く並木道ができたらいい。

→緑化ボランティアの活動につきましては、敷地内のどの部分にどんな花や木々を植えたいかなども含め、第6回のワークショップの中でご提案下さい。

保健センター、健診センターへの動線

▼保健センター、検診センターの入り口が病院玄関の反対側なので、初めての人にはわかりにくい。大きな案内板や路面文字などの工夫が必要だ。

→ご指摘のとおりです。案内板など初めての人でも迷わず来られる工夫を考えます。

外観

- ▼常滑の病院なので、玄関ホールの一部に焼き物の壁面を取り入れて欲しい（イメージは体育館に作家のタイルが飾ってあるように）。
- ▼常滑は創作活動が盛んな街「陶都」をうたっているのなら、敷地内環境や病院の外壁などにもそれらしい工夫があっほしい。
- 陶器などを使った常滑らしいデザインについては今後、敷地内や病院のデザインも含め検討していきます。

【1階フロア】

エントランス、情報ライブラリ

- ▼1階の喫茶室はできる限りオープンにして欲しい（コーナーという感じで持ち込みOKで）。
- ▼1階のカフェコーナーですが、普通の喫茶店ではなくイートインスペース付きの手作りパン屋さんがあるとうれしいです。
- ▼玄関ホールの北側のスペースを利用して、喫茶談笑コーナーがあるとよいと感じました。
- ▼送迎や介護が必要な患者が、入口近くで座って待ってられる椅子が必要。ボランティアさんに出迎えや見送りをしてもらえたら最高。ボランティアさんも座って待機できる場所が必要だと思う。
- ▼玄関ロビーの人通りが多い一等地に情報ライブラリーがあるのは変。落ち着いて検索できない。ここは掲示板程度にし、コンビニ横の窓際喫茶コーナーを拡大して、その一角にライブラリーを設置すれば落ち着く。
- ▼喫茶コーナーにはコンビニや自販機の商品も持ち込み可とし、外を見ながらバスや送迎車の待ち合わせに気軽に利用できるとうい。
- ▼入ってすぐの情報コーナーは、もう少し考える必要がある！と思います。
- ▼「エントランスホールは情報コーナーの前以外は通り道として使い椅子は置かない」という説明だったので、情報コーナーの付近を長椅子をただ並べるだけでなく、ロビーの役目も果たせるよう工夫してほしい。
- コンビニや喫茶、情報ライブラリーといったアメニティに関してはそれぞれの配置やイメージも含め、第6回のワークショップの中でご提案をいただければと思います。
- ▼ホールから外来へのレイアウトが斜めになっており、斬新性がありますが、各室の出っ張りや柱などで見通しが悪くなり、閉塞感を抱くのではとやや気になります。
- ホールから外来へのレイアウトについては各室の角や柱を工夫して、見通しやすい直線的なホスピタルストリートとなるよう検討しています。
- ▼メインエントランスから診察室など南側を望んだとき、各室の角があって見通しにくいとおもうが。
- 第5回のワークショップにて、現在修正中の図面をお見せしましたとおり、頂いた意見をもとに角を取ったつくりへと修正しています。
- ▼エントランスホールでコンサートを開催ができるようにして欲しい。
- ▼医事課受付カウンターにはシャッターを設置して、シャッターを閉じている

ときには病院らしくないような雰囲気作りをして欲しい。

▼外来エントランスホールは、小イベントもできるように、外来受付はシャッターで閉める工夫が必要である。

→医事課の受付についてはシャッターを設置し、また中央待合のイスを動かすなどコンサートが開催できる設えを検討いたします。病院らしくない雰囲気作りにつきましては、どのようなアイデアがあるかも含めて、第6回のワークショップの中でご提案ください。

▼ボランティアの方が休憩できるようなイス・テーブルを配置して欲しい。

→ボランティアステーションにはボランティアの方が休憩できるように、イスやテーブル、ミニキッチンを考えています。またボランティアの方が実際に活動される場所にはイス等を用意します。

▼エントランスにコインロッカーを配置して欲しい（できれば保冷機能付きのコインロッカーとして、ベイシアで買い物したものを保管できるように）。設置に費用がかかるのであれば、ベイシアと協定して作ってもらったりはできないか。

→保冷機能付きのコインロッカーについては維持や管理を考えると病院側で提供することは難しいと考えます。スペースの問題はありますが、近隣の商業施設を含めて、ロッカーを扱う業者には、スペースを貸す形でいただいたご意見を提案してみたいと思います。

▼手すりを設置できない場所でも固定イス・ベンチを使って、手すり代わりにできるようにして欲しい。

→手すりや案内板については今後の検討事項となりますので、どこにつけるのが効果的かなど、ご提案いただけるとありがたいです。ご提案の手すり代わりにする固定イスやベンチについては、今後、什器等を選定する際に参考とさせていただきます。

▼災害時にエントランスホールがトリアージエリアとなるのであれば、2階の吹き抜け部分から見下ろせる形になると良いと思う。

→トリアージエリアの一つとして予定しているエントランスホールは吹き抜けとなっていますので2階から見下ろすことができます。なお、災害時にエントランスホールと、とこなめホールのどちらを優先してトリアージエリアとするかについては今後検討いたします。

▼雨の日など傘はそこにおくのかという質問があったが、設計者より傘置場などは作らず、袋などで滴が垂れない工夫をすること

→傘は頭の痛い問題です。傘につきましては、傘立てを設置するのであれば、鍵をつけるなど盗難防止の対策が必要ですが、鍵の紛失や、紛失による使用不可など問題があります。一方、傘袋の設置に関しても、滴を院内に持ち込ませないためにも傘袋の使用を外来患者に徹底することが必要ですし、患者が傘を持って院内を歩き続けなければならない問題もあるため、今後取扱いを検討していきます。

コンビニ、喫茶

- ▼コンビニで買ったものを食べるスペースを確保して欲しい。
- ▼喫茶コーナーでは、喫茶店としてのスペースではなく、院内コンビニやベイシアで購入した物を食べることができるスペースとして利用したい。例えば、コンビニと喫茶コーナーの壁を取り払う等。ただし、喫茶を利用したい方のために、6階の外来レストランでは喫茶を兼ねた運用ができるとよい。
- ▼喫茶が単独での募集が難しいようであれば、コンビニとの壁を無くして店ではなく、自由に食べられるスペースとしてはどうか。喫茶が利用したい人は6階の外来レストランを利用してもらったり、そこから1階に運んでもらったりするのはどうか。
 - コンビニや喫茶、情報ライブラリーといったアメニティに関してはそれぞれの配置やイメージも含め、第6回のワークショップの中でご提案をいただければと思います。

外来診察室、待合

- ▼外来各診療科の間の通路に待合い椅子があり、どちらの科から呼ばれるのか紛らわしいと心配する声があったが、部屋の配置を見ると一方は診察室、もう一方は処置室などになっていて、混乱はしないと思った。だが、通路の真ん中に椅子を配置するのは良くない。車いすやけが人などが奥の診察室に安全に通って行けるように、待合い椅子は目的の診察室側に寄せて呼び出しの電光掲示板がよく見えるようにし、通路は十分な広さを確保して欲しい。
 - 限られた待合スペースに少しでも多くの椅子を確保するため、また各診察室へのベッド搬送のスペース確保のために椅子を中央に寄せていますが、椅子の間隔や診察室前の通路幅につきましては、車椅子患者や、付添いが必要な患者が介助者と並んで通るのに十分な広さを確保します。
- ▼待合イスは、通用のイスの他に、足が曲がらない患者のためのイスの設置も必要である。
 - 足が曲がらない患者のためのイスとは、南生協病院にあるイスの事だと思われれます。南生協病院に確認後、導入を検討いたします。
- ▼小児科を利用する患者は待っているのが大変であるので、建物南側から呼ばれたらさっと入れるようにして欲しい。職員駐車場の一部を小児科専用指定してはどうか。
 - 自家用車への連絡につきましては医療情報システムの中で、病院南側へ小児科専用駐車場を整備することにつきましては運用面も含めて今後検討していきたいと思えます

薬局

- ▼はじめのとおり薬局を一階にするなら、高齢者や体に障がいのある者にとって、生協病院のように薬局が隣にあっても雨の日など困るし遠慮する気持ちが増えるから！！その点を考えた八千代病院はよかったと思うし、患者側にたって院内処方要望
 - 多くの病院が院外処方に移行していったのは薬剤師の不足や人件費、在庫リスクや患者様への服薬指導の機会の増加など病院にとってメリットが多いため、院外処方と院内処方の混在自体は制度的には可能です。ただ病院の

経営にかかわる大きな内容となりますので、今後、幹部や薬局を中心に検討したいと思います。

- ▼院内に薬局が欲しい。院内処方か院外処方か選択できるようにしてほしい。障がい者は雨に濡れると大変である。
→院内への民間薬局の配置につきましては、前述しましたように厚生労働省の通知により難しいと考えます。院内処方につきましては、対応できるよう検討いたします。

エレベーター

- ▼病棟エレベーターの位置が玄関からわかりにくい設計になってしまったと反省。全ての施設が玄関から一目でわかる設計など不可能。来院者をうまく誘導するために高速道路のようなはっきりわかる案内板を設置すればいいのでは。玄関の総合案内に大きな院内図を設置すると同時に、特に開院当初は病院地図（ぺらぺらの紙一枚でよい）を手渡せるよう準備すると良い。
→案内板についてはわかりやすい表示を、また院内は壁の色を変える、数字や図柄のサインを使用するといったグラフィックデザインを採用するなど、初めての人でも分かりやすい案内を考えます。
- ▼病院を訪れる多くの人たちがどう振る舞い、どう行動するかを想像したとき、気になった点として、エレベーターの配置、エレベーターは建物内玄関口、一般エレベーターの利用者は外来患者か見舞い客、メイン通路の配置になるレイアウトが望ましい。
→病棟が西側と東側の2看護単位である以上、エレベーターは各フロアの中央部に必要です。当初のプロポーザルの提案では、メインエントランスが北側であったため、エントランスから入って正面に見舞客用の一般エレベーターを配置できましたが、常滑の北西からの強風対策として、メインエントランスを東側にする必要があるので、現在の配置となってしまいました。事務局もご指摘と同じ考えで、何とかならないかと試行錯誤しましたが、結局、原案のようにならざるを得ませんでした。
- ▼エレベーター前に椅子を置いては？ エレベーターを待つ間も座りたい人がいると思う。ホテルのように、エレベーター内に腰かけがあっても良いかも。
→エレベーターホール付近への椅子の配置は検討します。エレベーター内の腰かけについては車椅子の方の乗車を考えると難しいと考えます。
- ▼見舞客が利用する一般用のエレベーターの配置は変えることは難しいと聞いたが、中央待合を通らずに行けるように保健センター側の出入口か、時間外の出入口が日中も空いているならそちらから入れないか。
→保健センターの出入口からは階段(またはエレベーター)で2階のホールに行くことしかできません。中央待合を通ることで感染を心配される方は時間外出入口から入っていただければ、中央待合を通らずに行くことが可能です。
- ▼6階のレストランへ行くためには一般のエレベーターの配置が分かりにくいのではと思う。

→病棟が西側と東側の2看護単位である以上、エレベーターは各フロアの中央部に必要です。当初のプロポーザルの提案では、メインエントランスが北側であったため、エントランスから入って正面に見舞客用の一般エレベーターを配置できましたが、常滑の北西からの強風対策として、メインエントランスを東側にする必要があるため、現在の配置となってしまいました。事務局もご指摘と同じ考えで、何とかならないかと試行錯誤しましたが、結局、原案のようにならざるを得ませんでした。

トイレ

▼外来のトイレの数は足りているだろうか？

→下表に現時点での各フロアにある外来の方が使用するのトイレの数をまとめましたので、第6回のワークショップ時に図面を見ながら足りない場所などご提案下さい。

フロア	1階				2階		3階		4階		5階		6階			
場所	外来 エリア	放射 エリア	小児 専用	救急 エリア	外来 健診	婦人 専用	外来 客	4人床	外来 客	4人床	外来 客	4人床	外来 客	4人床	食堂	
男	大	2	2	1	1	3	—	—	5	2	10	2	8	—	7	2
	小	3	3	1	2	2	—	—						—		
女	3	4	1	1	5	1	—	2	2	2	2	2	—	7	2	
多目的	1	1	—	—	1	—	1						—			—

▼お手洗いの個室はベビーカーが入れる大きさにしてほしい。

→現時点で計画しているトイレの個室にはベビーカーを入れられるスペースはありませんが、折り畳みのベビーキーパーの設置は考えています。多目的トイレは、ベビーカーはもちろん、車椅子が旋回できるスペースを確保していますのでそちらをご利用いただければと思います。

▼女性トイレ（男性も）に子どもの男子用の便器をつけてほしい。

→小児科や保健センターのトイレを除いては、トイレのスペースも限られているため、こども用の小便器ではなく、ストール型小便器（床置きで縦に長い形のもの）を考えています。なお、女性トイレへの設置は難しいため、付添いが必要な場合は多目的トイレをご利用いただければと思います。

▼小児科の共同トイレで洗面所を使う時、子どもが感染症の場合の利用の仕方（子どもは上手に、おしっこ・うんち・洗口したりできないので）、他の人への配慮に工夫が必要な気がします。

→小児科でもトイレの男女分けは必要ですので感染用のトイレを作るとなると面積が倍必要になります。小児科の医師とのヒアリングの中で感染専用のトイレの話もありましたが、スペースの都合上、感染待合や処置室などの病院機能を優先しています。運用面でどのような配慮ができるかは今後も調査し検討していきます。

▼個室にトイレがないと、子どもが下痢の時や、目が離せない子どもの付き添いの大人が困る。

→新病院の個室には全てトイレを設置します。

▼病院の洋式トイレの座面がやたら高くて、小柄な女性は足がブラブラはなせだろうと思っていた。南生協病院で「車いす用に高さを合わせてあるけれど、

本当は普通の高さで十分だった。」と聞いた。思い込みで不適切な物を押しつけていないか、今の市民病院でいいから患者や付き添いが使う器具について、現場の声を集めて総点検しないと。改善するチャンスは今しかない！
→今後便器等を選定する際に、いただいたご意見を参考にいたします。

とこなめホール

- ▼大会議室を1階に置くことによって、ホール化・市民利用に繋がっているのが良いのでは。病院サイドで使うのが制約されないように、運用面の基本的な処を理解されるように。
→基本的には病院および保健センターの一機能として講演や会議、教室などで利用し、病院で使用していない時は一般に開放して使っていただくといった運用を考えています。
- ▼常滑ホールを大規模災害時の治療室として使うために、西側の救急車入り口の隣に配置する予定ため、間にコンビニが入って玄関ホールと一体の活用ができない。イベント時には廊下空間にも雰囲気作りの工夫が必要だと思う。
- ▼「とこなめホール」を患者・市民とのコミュニケーションの場として多目的な使い方ができるように考えるとよい。例えばミニコンサートをするとした場合の使い勝手を考え、使用を予想できる複数のグループに最低でも必要と思われるものを聞くとよい。
→とこなめホールの活用の仕方やイベント時の雰囲気づくりについては、第6回のワークショップの中でご意見をいただければと思います。
- ▼「とこなめホール」という名称は、コンサートホールのようなイメージを持ったため、名称変更した方がよい。市民から名称の募集をしてはどうか。
→病院や保健センターの機能の一部ではありますが、未使用時は一般に開放して使っていただく運用を考えておりますので、その際はコンサートなどもできます。「とこなめホール」という名称につきましては変更や市民からの募集も含め、今後検討します。
- ▼とこなめホールでイベントを行う場合、出演者の更衣室が必要であるが、現在設置されていないように思える。ボランティア室に更衣スペースがあれば、そこを活用してもよい。
- ▼講師の控室がない。倉庫の一部を利用してはどうか。
→病院が行う会議や講演等の講師の方々につきましては、開始までは、2階管理区域内の応接室でお待ちいただき、職員が会場までご案内することになると考えます。ホールに控室があるのが望ましいのですが、ホールのスペースを狭めてしまいます。病院での会議からコンサートまで、またトリアージエリアの一つとして有効に活用できるようにホールのスペースはなるべく広く確保したいと考えます。コンサートなどの出演者の着替えにつきましては、ボランティア室の隅に更衣スペース(デパートなどの更衣室をイメージして下さい)などを利用するなど、運用面の工夫で対応できないでしょうか。
- ▼ロビーを通らずに行けるようとこなめホールへは保健センター側から入れると良い。

- ▼ホール利用者のうち車イスの方が利用するトイレがホールからかなり遠い。
→ご指摘はごもっともです。とこなめホールに一番近いトイレのまわりには救急や中央処置室など病院に必要な機能が多くのため、多目的トイレを確保するのは難しいと考えます(確保するためには、ボランティアステーションが狭くなります)ので、少し遠くなりますが、外来の多目的トイレ(ホール出入口から 20m程度の距離)をご利用いただければと思います。

【2階フロア】

管理区域

- ▼医局の奥に会議室、研修室がありました。看護実習生等が使うスペースという説明だったのですが、地域の医師会の先生方も使えるようなスペースになると、病院と地域医療機関との連携もますます強化できるのではないかと思います。(たとえば病院の先生方と勉強会など)セキュリティの問題もあるかと思いますが。
→会議室や研修室につきましては利用していないときは、使っていただけるような運用を考えます。第6回のワークショップでは地域の医師会との連携の強化のためのアイデアも含めて、コミュニケーション日本一に対するご提案をいただければと思います。

保健センター

- ▼保健センターの入り口付近にベビーカーを数台(たんで5台くらい)おけるスペースがあるとよいと思いました。
→保健センターへは下足しての入室を予定しています。保健センターのロビーに入ると履き替えスペースがあり、そこに開いた状態のB型ベビーカーが10台置ける広さのベビーカー置き場を計画しています
- ▼2階の保健センター部分にも、医師会事務局との同居等、数々の配慮を感じた。院内会議室の活用を含め、医師会員、市民、病院関係者との連携を深められるよう、一層の努力が望まれる。
→病院職員と他機関のコミュニケーションについては、第6回のワークショップの中でどのようなコミュニケーションのあり方が考えられるかご提案下さい。
- ▼例えば、予防医学の観点から料理教室を開催する際、ミニコーラス等とコラボレーションして企画をすることも想定しているため、移動距離があまりないよう保健センターエリア内でスペースが確保できないか。
- ▼病院スタッフも多く勤務されているため、ある程度のスタッフレストランススペースの確保は必要である。そのため、2階保健センターの多目的室の一角に調理コーナーを設け、使用しない時は扉を閉める等、スペースを確保してはどうか。
→6階の調理コーナーにつきましては、保健センターや栄養管理室が行うさまざまな事業で使用を考えていますので、保健センターや栄養管理室の意向を聞きつつ検討していきます。また多目的ホールへの配置につきましては、保健センターの職員の意見も聞きつつ第6回のワークショップにてご提案いただければと思います。
- ▼保健センター職員より休日診療の定点化を医師会を通じて検討していき

いとの話があった。

→休日診療の定点化につきましては、保健センターの職員より説明がありましたとおり、今後医師会を通じて検討していきます。

【4、5階フロア】

病棟、病室

▼シャワー利用可能な数が不足していると思った。

▼病室の問題ですが、シャワー付きの個室が少ないと思います。個室のグレードを何段階か選択できるように増やして欲しいです。

▼病室、シャワーのある個室があった方が良くと思う。特別室ではなく、一般の個室に。

→全ての個室にはいきませんが、シャワー付きの個室を整備します。

▼新しい病院ができたなら個室に手洗い場や洗い物ができるような設備があると良い。入院中に洗い物や手を洗いに行くことがむずかしかったです。(子どもが不穏になってしまう。)

→個室には必ず洗面がありますのでそちらでお願いできればと思います。

▼要望として、病棟のトイレは可能なかぎりシャワートイレにしてほしい

→予算の都合上、病棟のトイレの全てをシャワートイレとすることはできません(グレードもあるので単純な比較はできませんが、シャワートイレにするには1か所あたり10万円程度追加でかかります。)が一部の個室につきましてはシャワートイレを検討しています。

▼ベッドサイドのスペースが医師、看護師、患者が十分に行き来できるスペースを確保して欲しい。

→次回、第6回のワークショップでは、4床室の寸法入りの図面をご用意しますので、そちらを見ていただき、必要なスペースについてご意見をいただくと幸いです。

▼シャワー有の個室を設けて欲しい。

→全ての個室にはいきませんが、シャワー付きの個室を整備します。

▼建築段階で病室等を実体験できるモデルルームを製作して欲しい。

→予算との都合もありますが検討いたします。なお、工事の中で一部屋だけ仕上げを早く済ませることで対応することなども考えられます。

▼個室は急にドアを開けた時に室内が見えてしまうので、カーテンをつけて欲しいという意見に対して、設計者よりカーテンの設置をすることはできるとのこと。

→入室の際は必ずノックをするなど職員に徹底させますが、個室のドアを開けた際に中が見えてしまうことがないようにカーテンの設置はいたします。

▼小児科病室には、ちょっとした洗い物ができるようなシンク等の設備を整備して欲しいとの意見に対して、設計者より室内の手洗いで対応していただき

たいと回答があった。

→病室内に洗濯機などを設置するのは難しいです。個室にある洗面で対応していただき、無理な場合はコインランドリーの利用をお願いしたいと思います。

▼グループ内で出た、患者は全てデイ食堂を利用するのかという質問に対しては、看護部長よりデイ食堂は、介助が必要な患者の食事をしたり、お見舞いの人々が来た時に利用したりすること、また回復期リハビリテーション病棟に限っては主にデイルームで食事をしてもらう運用を考えていると説明があった。

デイコーナー

▼病棟について、デイコーナー等の具体的なスペースが確定していないようですが、広い場所よりも狭くても良いので何箇所か、できれば明るい窓際に設けて欲しいです。

▼各階、廊下の端は窓にすると明るいので、椅子と小さなテーブルを置いて、簡単な談話コーナーにすると良い。

→各病棟の突き当りをデイコーナーとして利用できるよう計画しております。なお、各病棟には西(または東)の突き当りに2カ所、病棟中央部北に1カ所、スタッフステーションの向かいに1カ所など、計4~5カ所のデイコーナーを計画しています。

▼病棟の突き当りをデイコーナーにしたいが、病室に聞こえないように防音にすることも必要。

→病棟突き当りのデイコーナーは災害時の避難経路や消火活動等で使用することがありますので、パテーションで仕切ったり、防音仕様の部屋とすることはできません。他の方に聞かれない会話をなさる場合は、スタッフにお声をかけていただければ、空いている面談室や宿泊室などをお貸ししたいと思います。

家族待合

▼病棟各階の面談室表示は、実は家族控え室の間違いだった(本当?)。私の体験から、完全看護とはいえ術後の数日間は24時間付き添ってあげたいし、付き添いがいる間は看護師も他の仕事に手が回ると思っていた。家族が少しでも体を休める場所があることは本当にありがたい。

→図面の表示の誤りにつきましてはご迷惑をおかけしました。4階と5階にはそれぞれ付添いの家族の方が泊まっていくことのできる宿泊室(6畳+ミニキッチン+押入)を計画しています。

その他

▼ランドリーを6階に集約して、空きスペースをシーツなどの倉庫にする予定。住宅でも収納スペースの確保は機能的な生活のために大変重要だ。多くて困ることはない。スペースの間仕切りは現場の裁量に任せて、使いながら変更できるように可変式棚などを採用した方がよいと思う。

→ランドリーにつきましては6階に集約し、空いたスペースはリネンや褥瘡マットなどの倉庫とします。棚をはじめとする倉庫の設えにつきましては、現場で働く看護師の声をもとに検討していきます。

【6階フロア】

リハビリ

▼子どもがケガで某病院に入院したとき、機能回復のためにリハビリルームのエアロバイクを利用させてもらった。有酸素運動の高齢者ばかりの中でカロリー消費に励む若者の姿は異彩を放っていた。「すごいスピードやね。」と声をかけてくれる人もいた。老若男女が一つの部屋で頑張ると互いの刺激になると思う。「若者はリハビリしなくても大丈夫。」といわず、理学療法士がトレーニング器具の時間調整をして、若者をもっとリハビリルームに送り込むというのはどうだろう。

→若者と高齢者とを一緒に時間のリハビリにするために時間調整をすることまでは難しいですが、リハビリが必要な患者については老若問わず、医師のオーダーの下、リハビリを行っています。

職員食堂、外来レストラン

▼6階レストランに、調理実習もできるような栄養指導のエリアを作る予定があったようなので、もっと詳しく聞きたいと思いました。

▼屋上庭園があり、そこを眺めながら食事のできるレストラン

▼6階の食堂については、市民の方により多く利用して頂くためにどのような工夫がひつようかと話ができました。その中で、『タニタ』などいま話題のヘルシーな食事を提供できたら、話題になるのでは。」という意見ができました。この話より、『ワタミ』は介護食なども手掛けられているし、地域の話題性や介護の方や家族での飲食など値段面も考えて『ガスト』もカロリー表示がされ人気もたかいので、どうかと思いました。

▼食堂は、いろいろな意見（案）が出ていましたが、タニタ食堂のような食堂が希望です。カロリーや脂質や塩分を抑えたメニューやお年寄りでも食べやすい消化の良いメニュー、また、糖尿病の人でも食べられるメニューとか・・・おしゃれなレストランよりも患者さんや入院患者さんの付き添いの人とか、ほっとできるようなスペースであって欲しいと思います。

▼6階の職員食堂の隣に一般の食堂も設けるといことでよいと思います。とかく病院食は美味しくないと言われていますが、美味しくて評判になるような業者選定をお願いしたいと思います。

▼6階の展望レストラン、外部の人向けには経営が難しいだろう。この程度の展望は知多半島では珍しくもないので売りにならない。職員食堂中心で採算性を確保し、一部席を外来者にも開放するという条件の方が業者を呼べると思う。充実した食堂で職員のコミュニケーションを図ることも立派な投資だと思う。また、普通の人にはわざわざ6階まで上がろうとは思わないから、良くない条件地の有効活用というべきか。職員は6階まで階段利用を義務づければ健康にも良い。

→職員レストランや外来レストランにつきましては、第1回のワークショップからたくさんのご意見をいただいております。運営やテーマなど第6回のワークショップの中でさまざまなご提案をいただければと思います。

▼入院患者も気分転換に外来レストラン（喫茶）等を土日に利用したい。

→業者の募集の際に、土日に喫茶や外来レストランを営業することを病院側で決

定してしまうことで、手を上げる業者がいなくなってしまうといった問題もありますので、今後の業者の募集や選定の中で検討していきます。デイルームなどに自動販売機を設置するなどの検討はしたいと思います。

▼現在、6階の調理コーナー（8人程度用）を設計されているが、恐らく10～12人程度が同時に調理することになるため、調理コーナーを少し広くとり、スタッフ用レストランを多少狭くすることはできないか。または保健センターの多目的ホールに設置し、使わないときは隠しておけるようにはできないか。

→6階の調理コーナーにつきましては、保健センターや栄養管理室が行うさまざまな事業で使用を考えていますので、保健センターや栄養管理室の意向を聞きつつ検討していきます。また多目的ホールへの配置につきましては、保健センターの職員の意見も聞きつつ第6回のワークショップにてご提案いただければと思います。

【その他設計に関すること】

アメニティ

▼授乳室は小児科にだけ？ 小児科以外の外来も、小児科の授乳室を利用？

→小児科外来以外にも時間外の出入口近くにも1ヵ所（2名利用）計画しております。また乳幼児を連れた利用者の多い保健センター内にも授乳室を考えております。

▼1階から動線を考えながら見させていただきましたが、配置は概ね良いと思います。気になったのは、手すりの有無とか、案内板とか、細かい内容までは聞けなかったので知りたいと思いました。

→手すりや案内板については今後の検討事項となりますので、どこにつけるのが効果的かなど、ご提案いただけるとありがたいです。

▼入り口のところに傘置き場はできると思うのですが、コインロッカー（できれば保冷機能付きの）があるとうれしいです。隣にスーパーがあるので待ち時間に買い物して・・・というのも有りかな～と思いました。

→保冷機能付きのコインロッカーについては維持や管理を考えると病院側で提供することは難しいと考えます。またスペースの問題はありますが、近隣の商業施設を含めて、ロッカーを扱う業者にいただいたご意見を提案してみたいと思います。

▼授乳室は小児科の他にも時間外出入口の近くにあるとのことでしたが、できれば病棟にもあった方がいいのではないかなと思う。

→授乳室につきましては、小児科待合の他に、時間外出入口にもあります。病棟には設置しておりませんので、お見舞にみえた方で授乳室をご利用の場合は、そちらをご利用頂ければと思います。

聴覚障がい者への対応

▼京大付属病院では耳の聞こえない人、聞こえにくい人を対象に、PHSの貸出しを行っている。聴覚障害者は、診察の順番待ちのとき自分がいつ呼ばれるか分からないため、トイレに行く等その場を離れることが出来ない。また、

薬をもらう順番（番号）を読み上げても分からない等の不都合がある。

- ▼病院ボランティアの対応で、院内の案内等は可能と思われるが、それ以上の医師の診察時の対応等は命に関わることも多分に出てくるので、しっかりした通訳者を確保して欲しい。半田市立半田病院では、患者に対する説明責任があるとの考えから、病院の負担（派遣依頼費用）で通訳者の確保をしている。派遣依頼の契約先は「知多地区聴覚障害者支援センター（いるかの家）」（半田市内）である。
- ▼検査室でバリウムを飲んで撮影する場合、医師からの指示事項（左を向いて、右を向いて、台が倒れます等々）はマイクを通して行われるが、聴覚障害者に対する先行例では、被検者の顔の近くにモニター（I・Pad等）をセットし、絵や図を画面に表示する。また、レントゲン撮影時に息を止めなければならないが、そのタイミングを照明灯を消す、点けるの動作で示す等々である。上記のように、聴覚障害者は検査の時に困ることが多い。
→聴覚障がい者の方への対応については、ご指摘をもとに事務局で調査し、可能な限り対応していきます。

警備、セキュリティ

- ▼防犯カメラを設置する予定だが、警備員を置くかどうかは決めていない。私は夜間外来入り口にはいて欲しいと思う。やっぱり不安だから。今は院内暴力がしばしばあるそうだ。新病院は警察から遠くなるので、職員のためにも警備員の常駐が必要だ。
- ▼1階各出入口は、正面玄関も含め各々機能的な配慮がなされていると感じた。しかし、各出入口の警備体制（ガードマン等）の説明がなかった（聞き漏らしたか？）ことが残念であった。
→現在の病院では、時間外は守衛がいるものの、日中に関しては職員で対応に当たっているのが現状です。全国的に院内暴力は増加傾向にありますので、警察OBなどによる警備体制や院内暴力対策も含め、開院までに検討していきます。

免震構造、災害対策

- ▼免震構造は地震に対してとても有効だけれど、定期的に免震装置のゴムを交換しなければならない。つまりずうっとメンテナンスが必要なのだ。備品や消耗品は入札になるが、ただ安いというだけで選んで欲しくない。値段・簡単お手入れ・壊れない がそろわなければ。できれば地元企業に頑張ってもらいたい。
→50年は劣化しないと言われていますが、ご指摘のとおり、竣工5年後と以降10年毎に定期点検が必要となり、また、大地震、強風、水害、火災などを受けた場合には免震装置の応急点検を行い、異常がないかチェックする必要があります。交換は免震装置の両側に油圧ジャッキを入れて建物を仮受けした状態で交換するという大規模なものになりますので地元企業の中で行える企業があるかという問題はあります。いずれにせよ病院の基盤に関わる部分ですので、業者の選定は慎重に行う必要があると考えます。
- ▼南海トラフ地震が起きたとき、新病院は立地条件から石巻赤十字病院のような立場に置かれる可能性が高い。建物自体は免震構造で守られても内部の医療器具等は散乱しないだろうか。また自家発電設備を入れるそうだが、広域

災害では燃料の補給は困難になるだろうし、外部からの救援も遅れると思う。やっぱり再生可能エネルギーの導入を考えるべきでは？

→第5回のワークショップで石巻赤十字病院の初動体制の様子を見ていただき、被災時の免震構造の建物の様子がわかっていただけたかと思います。また日建設計の設備担当者より新病院のライフラインについて説明がありましたとおり、非常用電源や受水槽など災害時でも病院機能を維持できるよう今後も計画を進めていきます。また再生可能エネルギーにつきましては、屋上に設置できるスペースを確保し、今後検討していきますが、太陽光発電の場合は病院機能の4%程度の発電しかできないため、あくまで補助的な物としてお考えください。

▼建物西側の救急車入り口に大きな庇を付け、防風壁も設置する。災害時には庇と防風壁の間にシートやパネルで壁を造り、救護所として利用する予定。そのための資材を院内に保管するのは不可能。どうしたって屋外倉庫が必要だろう。防災倉庫の計画はあるのか？

→ご指摘のとおり災害時のため防災倉庫が必要と考えます。どのような防災倉庫にするのかも含め今後検討していきます。

▼屋上ヘリポートは造らない。近くの消防署や、常滑中学校グラウンドを利用する予定。屋上にヘリを降ろすためには屋上を強化しなければならないからお金がかかるし、常滑は強風地帯だから狭い屋上に着陸すること自体が危険かもしれない。よその施設を当てにするからには日頃から連携が大切だ。現在、消防署の西側は更地だが、ヘリポートとして利用する計画にちゃんとなっているのだろうか？

→ドクターヘリの着陸のためのヘリポートとして認められるためには、ヘリの進入平面上に電線や構造物がないことが必要です。またヘリの騒音や巻き上げる塵ほこりのことも考えると、現在と同じ常滑港や、新病院の近くですと常滑中学校がヘリポートとなると考えています。なお常滑港の埠頭ではヘリの搬送の実績があり消防との連携も取れています。詳細につきましては第6回の冒頭で説明します。

▼屋上にヘリポートは作らないのか。立体駐車場に降りることはできないだろうか。

→屋上ヘリポートを含め、病院敷地へのヘリポートの計画はしておりません(常滑市民病院ではドクターヘリによる搬送は2-3年に1度、それに対して設置費用は2~3千万円かかり、また毎年数百万円の維持費も必要となります)。なお、ドクターヘリの着陸時には15トン以上の荷重がかかるため立体駐車場には着陸することはできませんので、常滑中学校などを予定しています。

▼災害時の運用として、冒頭の設計者の説明のほかに、ロータリーや救急の庇の下に仮設のテントを設置したり、トリアージエリアを赤・黄・緑に区分することなども考えられるとのこと。

▼ヘリポートを設置しないのなら、常滑中学校では遠いので将来施設用の空スペースを利用できないか。

→ヘリポートの新設には、消防本部より運輸局を通じて国土交通省の許可を得る必要があり、その際は、ヘリの進入平面に構造物がない空域が必要である

などの厳しい条件もあります。しかし、病院の近隣にヘリポートは必要だと考えますので、常滑中学校を含め将来施設用の空きスペースをヘリポートとして許可が得られるか検討していきます。

- ▼井水は周囲の状況から 150mほど掘れば出るそう。ろ過器などを通して飲料にする予定であり、井戸を管理する業者から水を買う形となるとのこと。
→井戸にいては、災害時のことも含め掘る予定ですが、病院で管理を行うのか、施設の設置・管理を含めて業者に委託して水を購入する形にするかにつきましては、コストの比較をしながら今後検討していきます。
- ▼災害時の予備ベッドはどれくらい確保しておく予定なのか。
→予備ベッドの台数や保管場所も含め医療機器整備の中で検討します。
- ▼ベシアと協定し3日分の食料確保をお願いできないか。
→ベシアと協議していきたいと思います。
- ▼時間外出入口に車イスを置くスペースはないのか。
→時間外出入口には車イスを置くスペースを用意します。

将来を見込んだ設計

- ▼限られたスペースと予算の中で、様々な工夫設計がなされていると感じましたが、前回の八千代病院様のスタッフの方から、「設計を考え過ぎた。」という話です。時代の流れとともにスタッフの数や事業内容も変化しその時々ニーズに応じて施設環境も変化していく必要があるとおもいます。限られた面積の中に様々な部屋が密集され、自由空間が少ない？ように感じました。
- ▼私のグループの方からの意見より、将来的に産科病棟等新たな科や新設の事業を始めようとした場合にはすべてを改装しなければ今のスペースではできないので、さらに予算は必要になってなかなか時代の流れに対応しにくいのではないかという疑問を感じました。
→限られた予算とスペースの中で空きスペースを作っておくのは難しいため、将来の増築を考えての配置計画を進めています。

その他設計全般

- ▼図面がいつまでたっても9月5日時点のものだが、その後自分たちの意見を反映したことが分かる最新の図面はないのか。反映されていないようで心配。
- ▼意見を考慮したあとの図面を見せて欲しい。できれば一般へ公表される前に見たい。
→皆さまからいただいているご意見の中で、可能なものは最大限反映し図面を修正しているところではありますが、毎回図面が変わると変更箇所の確認に時間をとられてしまったり、混乱してしまわないかと考え、9月5日時点の図面を使用し続けています。また第5回のワークショップにて1階の外來部分の修正中の図面をお見せしたように、現在部門ごとに修正の作業を行っていますので、現在ワークショップで使用している大きさのフロア毎の図面はございません。完成が10月中下旬と聞いておりますので、第6回のワークショップまでに完成が間に合

いましたら、ワークショップにてお見せしたいと思います。

【コミュニケーション】

コミュニケーションを配慮した設計

▼コミュニケーションスペースとしてエントランスホール以外にレストランと屋外庭園を考慮できる運用設計を目指して頂きたいと思う。

→エントランスやレストラン、屋上庭園を利用して、どのようなコミュニケーションのあり方が考えられるのかなど第6回のワークショップでご提案下さい。

【ボランティア】

ボランティアの運用に関すること

▼新病院では電子化が進み、自動受付機や支払機などが導入される予定。使い方の分からない人がたくさん出るに違いない。某病院の検査室受付は患者が集中する場所にもかかわらず職員が一人で、てんてこ舞いだった。ボランティアの人数に余裕があれば、医療行為に関わる職員と案内ボランティアの複数体制にすればスムーズに流れると思う。

→再来受付機や自動支払機の操作の手伝いをボランティアの方にやって頂けるのはとても助かります。医療行為を行わないこと以外はボランティアの活動に関し規制はありませんので、院内のさまざまな案内も含めて、ボランティアの方がどんな場面で活躍できるかを第6回のワークショップでご提案いただければと思います。

(4) テーマ別意見交換会

第5回目でのワークショップシートをはじめとするご意見の中で特にご意見を多くいただいた①コミュニケーション、②ボランティア、③アメニティについてテーマ別の意見交換をする場を設けました。ここでは各テーマのグループワークでいただいたご意見を含め、ワークショップシート⑥でいただいたご意見をとりまとめています。

①コミュニケーション日本一の病院

(A) 顧客コミュニケーション、(B) スタッフ間のコミュニケーション、(C) 地域連携コミュニケーションという3つの観点に分け、グループワークを行いました。司会の犬飼さまより大判のワークシートの提案があり、そこに各自の意見をポストイットに書いて貼っていききました。みなさまの意見の詰まったワークシートは表にまとめたものを最後に掲載しています。

(A) 顧客コミュニケーションについてのご意見・ご提案

【もしもしナースなどの出張講座】

- ▼適切な情報提供として今行っている「もしもしナース」はよい例で、アンケートにより市民が知りたい情報を提供している。短い時間だが有効に機能し、コンビニ受診の防止に役立つと思う。病院に来てもらっての講座も良いが、このようにスタッフに出向いてもらう出張講座もぜひ続けてほしい。
- ▼納税者としての市民（顧客）全体の要望に応えるためには、地域コミュニティとの連携が欠かせない。いろいろな団体の場に出かけよう。対象が絞られるとより具体的な情報を提供できるので、参加者の満足度が高くなる。質疑応答で市民の生の声を聞いてこよう。ついでに病院の説明もすれば、賢い受診の仕方が広まる。まずは、市民病院や保健センターが出前講座をやってくれるということを市民に知らせないといけない。各団体が年間活動計画を立てる時期に、市役所各課は是非アドバイスをしてほしい。
- ▼「もしもしナース」というのを、具体的に教えてほしいと思います。そこに一般市民が出席や、傍聴はできないのでしょうか？
 - 「もしもしナース」は子育て中のお母さん方を対象に市民病院の看護師が出張して行う小児医療に関するミニ講座で、事前にいただいたアンケートの中から各回テーマを決めて子育てに関する不安や疑問にお答えしています。対面式で行うためお母さん方から看護師に直接質問ができますし、看護師にとっても子育て中のお母さん方の生の声を聞けるととても良い機会でもあります。常滑市子育て総合支援センターで行っており、参加申込は不要ですのでどなたでもご参加いただけます。次回開催は11月29日(木)10時30分からの予定で3月までの開催を予定しております。今後は「もしもしナース」の評判や効果を検証して、小児医療以外の出張講座の企画も考え実施していきたいと考えます。

【調理実習室】

- ▼保健センターには調理実習室が必要。今までは隣の中央公民館を利用でき

たので、なくても良かったが、新病院には必要だと思う。6Fの調理実習室はリハビリには十分かもしれないが、離乳食教室や糖尿病教室には、最低3~4台の調理台が欲しい。

- ▼6Fはデモンストレーション専用にし、保健センターに実習専用の複数の調理台を備えた部屋を作ることにはできないものか。保健センターにはスペースがないとのことだが、公民館に出向いて実習を行うことにするのか、釈然としない。
- ▼リハビリ用の調理実習室となると、普通の家庭用のシンクと車いす対応の可動式調理台が必要になる。計画されていたかどうか確認していない。
- ▼レストランは、職員用のスペースが広く取られていましたが、もう少し職員用スペースを狭くして、調理実習室を広くすることは出来ないことなのではないでしょうか？
- ▼6階レストラン隣の料理実習室が狭いことについて協議した。保健センターの事業には料理実習もあり、現在は中央公民館の料理室を使用していて、中には30人ほどの参加があるそうだ。なのに、担当者が、料理室を広くしたいという希望を言わないのが不思議だった。私たち市民は、予算もスペースも実感を伴わずに希望だけを述べているのかもしれない。しかし、行政の担当者としての意見が聞きたかった。

→ **調理実習室につきましては、保健センターでの事業（「パパママセミナー」内での離乳食実演、就園前児の保護者を対象とした「すくすく健康生活」、一般向けの「ヘルシークッキング」）や市民病院の健康管理室が行う様々な事業（糖尿病食や嚥下対応食の教室）での使用を考えていますので、設えや運営のあり方も含めて、保健センターと協議して検討していきたいと思えます。なお、中央公民館で文化教室やシルバースクール、市民講座として行われている料理教室につきましては生涯学習課の催しとなります。**

【医師の診察について】

▼コミュニケーションとしては、患者と医師の間が最も重要と考えるが、患者が「自分の体は自分で守る」という意識を自覚することが大事であり、患者の意識の成長を促す医師が大切と思っている。

→ **ご指摘のとおりだと考えます。コミュニケーション日本一の病院を目指す中での課題の一つとしてご意見を参考にいたします。**

【患者への対応について】

▼医師もナースも他のスタッフも患者やその家族から信頼され、よきコミュニケーションが取れるようにすべき。以前はその土地の言葉で話すことがよいとされたが、今はほとんどが標準語を理解できるようになった。地元言葉はきつい印象がある。なるべく丁寧な言葉遣いに心がけてもらいたい。

→ **言葉遣いにつきましては相手の方により受け止め方が異なるためデリケートな問題であると感じていますが、常に相手の立場に立った言葉遣いをするようスタッフに徹底していきます。**

▼やさしい人、柔和な人、暖かい人が望まれる。ただでさえ患者は弱っている。患者の権利を尊重し、患者の視線でよい病院を目指してほしい。働き

やすい病院ももちろん目指すべきだが、自分もかかりたい、入院したい病院にしてほしい。

→ **ご指摘のような病院を目指し努力します。**

【情報発信】

▼コミュニケーションの向上は新しい空間や建物や機会が提供されたからといって即座に図られるものではない。設計段階からコミュニケーションの向上を目指すなら新病院の屋上庭園・食堂・エントランススペース・デイコーナー・会議室等が、役割肩書きを超え、時を選ばず、多様な利用ができる空間であることをアピールする。利用者市民各人が新病院環境の維持向上の担い手であることを告知していくことなどの情報発信と、現在の通院入院患者や他の多くの市民からの要望の取り込み方の効率化など相互情報伝達を深めることを今から推進するべきであると考え。

→ **ご指摘のように、コミュニケーションはハード面の整備だけでなく、情報発信を含めたソフト面が相まってはじめて機能するものだと考えます。新病院にどのような施設を作って、どのような運営をしていくのかを今の段階から情報発信していきたいと思えます。**

【危険予知訓練（KYT）】

▼「人間はミスをする動物」です。リーダーが、この認識を腹の中に抱えているか否かで、その集団の出力が異なると思っています。特に、「思い込み」をどう排除するか、これは、訓練しかない。「KYT」を取り入れてください。

→ **現在の市民病院には「危機予知訓練」についてのノウハウがありませんので、ご教授いただければと思います。**

(B) スタッフ間コミュニケーションについてのご意見・ご提案

【日常的なコミュニケーション】

▼コミュニケーションを顧客、スタッフ、地域連携の3つに分類し、課題の洗い出しと、目標設定を行なったが、先ずは病院スタッフ間の意識向上をもったコミュニケーションが重要で、それが出来てこそ、患者さんや市民の皆さんとのコミュニケーション、ひいては市内医療機関、福祉施設等のコミュニケーションに繋がると思いました。

▼職員同士で意見を言い合えるためには、日頃から会話の数が多くなければいけない。たとえ雑談でも人間関係構築のためには必要な会話といえる。でも部外者から見たとき「仕事をさぼっている。」と映ることも。時と場所をわきまえた行動も教育の一部。

▼職員食堂の充実を！人間はおいしいものを食べるとき警戒心がゆるむ。『梅ちゃん先生』でも相談事は職員食堂でしていた。グループワークでは職員食堂のスペースが浸食されそうな雰囲気だった。食堂は職員間コミュニケーションの大切な場所です。

→ **ご指摘のように職員食堂は職員同士のコミュニケーションの場として重要であると考えていますので、その点に配慮した職員食堂まわりの配置計画を行っていきます。**

【スタッフ間の情報の伝達・共有】

- ▼目的意識の共有をしっかりと。某病院で診察開始時間直前のこと、市のあいさつ週間にあわせて玄関前に白衣の病院職員（たぶん役付）がずらっと並んで「おはようございます。」を連呼していた。小学生が校門前で声を張り上げれば「元気があってよろしい。」と思うけれど、早朝から必死で順番取りをしている患者にとっては「さっさと診察の準備をしろよ！」と怒りを覚えた。むしろ、診察室に入る時『おはようございます、〇〇さん、と大きな声で呼びかけることを義務化する』とでもした方がよほど患者の心がほぐれる。何のために何をするのか、職員全員に周知するシステムがあるのだろうか。
- ▼100人会議やワークショップに病院職員の役付の方々に何度も参加していただき、市民の声を聞いていただいた。そのことが平職員の皆さんにどの程度伝わっているのか。患者の声を集めるために意見箱が設置されているが、良いことも悪いことも、職員全員で情報を共有できる体制があるのだろうか。
 - ご指摘のように病院の幹部の経営方針や取組の目的を職員全員に周知したり、職員全員で共有したりすることは組織としてとても重要な事であると考えます。現病院でも全部門の職員を対象とした朝礼や、看護部の師長会・主任会、医局会議や病院幹部による管理会議などを行ってはいますが、現段階ではそれらで十分行えていると自信をもって言える状態にはありませんので、今後は現在の取組みを改善したり、その他の体制を考えていくなどスタッフ間の目的意識や情報の伝達、共有に努めていきたいと思っております。

【カウンセラーの拡充】

- ▼精神科や心療内科が新設されれば心理カウンセラーも数名補充されるであろうが、見込まれない場合スタッフ間や患者とスタッフの橋渡しを補完できるカウンセラーやケースワーカー等の充実が必要であろう。常勤非常勤は別にして病院や学校には今後ますますの需要が考えられるので市政県政で拡充を計画されることを望む。
 - ご指摘いただいたようなカウンセラーやケースワーカー等の充実につきましては今後検討していきます。

【電子カルテの導入について】

- ▼電子カルテになると医師がパソコン入力に目が向き、患者との会話が乏しくなることを懸念する。医療秘書を活用できれば解消するが、人件費との絡みで難しいかもしれない。
- ▼新病院では電子カルテが導入され、医師がPCの画面ばかり見ていることが心配だから、医療秘書をつけて負担を軽減し患者と話す時間を多くする、という意見があった。すでに電子化が進んでいる某病院では、最初のうちこそ画面とにらめっこだったが、若手から順に慣れて、今ではけっこう会話もできるようになった。むしろデータの整理や予約などがスピーディーで待ち時間の短縮になっている。医師の事務仕事軽減には賛成なので、予算の許す限り、医療秘書の導入を進めてもらいたい。
 - 新病院においても電子カルテの導入は検討していますが、ご指摘のような弊害がないよう、運用でカバーします。医療秘書については予算

との兼ね合いはありますが前向きに検討したいと思います。

【チームを組んでの新人教育】

▼新人看護師の教育で、常にベテランとペアで行動させることによって細かい技術までを教えるとともに、2組の目で動作を確認することによってヒヤリハットの件数を半減させた、という報道があった。常滑市民病院でも看護師はチームを組んで新人教育をしているが、不規則勤務なので特定のペアは組めないという。でも、新人にとって何でも相談できる先輩の存在は大切だと思うので、常時行動を共にできなくても特定の教育責任者をつけたらいいと思う。

→ 「パートナーシップ・ナーシングシステム」という先進的な新人研修の報道ではないでしょうか。報道後採用する病院も増えてきてはいますが、現病院のスタッフ数では難しいという事情もあります。当院ではオリエンテーション研修からはじまり、職場内のローテーション研修などきちんとした目標を立て、また部署ごとに教育担当者をあてて新人教育を行っています。新人教育以外にも、看護師を対象とした多くの研修を行っております（詳細につきましては市民病院の看護部のページにも掲載しております。）。

(C) 地域連携コミュニケーションについてのご意見・ご提案

【地元企業との連携】

▼トイレ・調理実習の調理台は最新のものを市内の企業に提供してもらえたら嬉しい。

▼新病院の設備納入業者選定では地元企業にがんばってほしい。常滑には陶器の専門企業があるし、メンテナンスも近いと便利だ。

→ ご提案のような設備を扱う地元企業への投げかけを行っていきたいと思います。新病院建設にあたっては、地元企業と良い協力関係ができればと考えます。

【セントレアに学ぶボランティアのマナー】

▼セントレアは中小規模空港の利用者満足度世界一だ。病院の職員やボランティアにマナー講習の講師派遣を頼めないだろうか（もちろんボランティアで）。ついでに感染症病室や救急医療の現場を見てもらって、病院の宣伝とともに人脈も作ろう。

▼空港との連携として、マナー講座を出前してもらおうとよい。市民病院は公務員色が強い。企業の良さを学んでほしい。また、ボランティアには接客の基礎を学ぶ必要がある。

→ セントレアは顧客サービス部門で世界一となっており、マナーをはじめ病院として学ぶところが多々あります。ご提案の講習・講座につきましては一度セントレアと相談をしてみたいと思います。

グループワークの反省や今後の改善点

- ▼日本一をめざすための具体的手立てや指標、期限をさだめ定期的に評価することは大事なことだと感じた。そのためのアイデアはまだ無限に出てくるのではないかと思う。
 - グループワークの中でもご指摘のように「見える化」をして評価することが重要であるとの意見がありました。「コミュニケーション日本一」の指標を定めることは大変難しい課題ですので、今後お力を貸していただければと思います。

ご感想など

- ▼「コミュニケーション日本一の病院」づくりは、とてもむずかしいと思うが、しかしやりがいがあり又魅力ある活動でぜひチャレンジすべきと思う。そしてその活動の結果、ミスコミュニケーション、コミュニケーションエラーが原因で起こる医療過誤やインシデントは無くなり、病院収支は大幅に改善されると確信する。
- ▼コミュニケーションに関しては、ソフト部分に関わるが多かったように思うが、時間が足りなくなるくらいさまざまな意見が出た。
- ▼子育て協議会での「もしもしナース」のとりくみに注目していただけうれしかった。
- ▼スタッフ・コミュニケーション改善、考えられることを今日から始めよう。失敗したっていいじゃない。新病院ができるまでに試行錯誤を重ねよう！
- ▼都合により当日参加できませんでしたが、思いはひとつ新病院になっても現在のとおり、小さいからこそできる病院全体が温かみのある誰とでも挨拶・声掛け・相談・受診・入院・治療のできる信頼・安心を持てる雰囲気継続して下さい。お金もかけずに今の陣容・体制で十分可能です。スタッフ間の件も信頼しています。対地域についても現状をさらに発展させましょう。
- ▼はじめに進行役の犬飼さんより討議の視点が示されたことでスムーズに意見交流できた。
- ▼予防の推進として、医療講座・検診・調理実習をすすめるに当たり、コーディネートするスタッフと市民の要望をどう集めるのかが課題となる。今後も100人会議の様に、市民がわが病院を応援するんだという気持ちを持ち続ける必要がある。

当日のワークシート

ページの都合上次頁に掲載いたします。

コミュニケーション日本一の実現を目指して!!

基本構想	顧客コミュニケーション (患者・市民)	スタッフ間コミュニケーション (医師・看護師・スタッフ)	地域連携コミュニケーション (福祉施設・行政など)
<p>◇ニーズに答える</p> <p>◇情報提供</p> <p>◇予防の推進</p> <p>◇医療提供</p> <p>◇健全な病院運営</p>	<p>◇ペテランと新人がペアで対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力をきめて教育できるし、対応も学べる <p>◇ペアで患者と対応する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者との対話(コミュニケーション)に集中できる <p>◇医療設備の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドクターは患者と向き合うことが大事!!またそれがコミュニケーションである ・電子カルテを導入するのはいいが、画面ばかりは見ながら診察されることになるのでは <p>◇意見箱の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度の意見箱への当初は85件であり、お集めの書簿が18件であったことは皆精 ・クリニックを今後に活かすのもコミュニケーション ・新病院の基本設計ができたら、現場得合い博覧と一層に図面を展示して、患者の意見を集めてはどうか ・もちろん意見に対する事務医側の返答も欲しい ・現在の施設に対するフレームを新病院の建築に活かす必要があるのでは一度読み直す <p>◇医師は日頃から付き合いたい大事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師はペテランだが、対話が苦手な医師もいる ・看護師が「もしもしオース」に来てくれるように、日頃から患者とつながって欲しいは、患者もそれがわかり皆精が感るのではないかな <p>◇地域での出前講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民病院を「核」とした予防医学についての講座を開催する ・特に医師の話は市民に響くと思う 	<p>◇チーム力</p> <p>◇安全・質の向上</p> <p>◇努力・研鑽・学び・高め合い</p> <p>◇多様な知識・技術、豊かな人間性を備えた医療人の育成</p> <p>◇ペテランと新人がペアで対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人看護師の教育はもちろん、ペテラン看護師は「見られている」と意識することで反省したり気が引き締まりミスも減る ・早く育てることができると安心 <p>◇教育係がついて新人を教育</p> <p>◇ペアで患者と対応する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人が話している間に、もう一人が話の経過をリアルタイムでメモすることができるとため間違いも少ないし、作業時間も短縮 ・複数の目で患者見ることができ相談もしやすい <p>◇医療事務スタッフの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくらコミュニケーション日本一だからと言って、医師が話すことばかりに気を取られて、本来の診察業務がおぼろげになってはいけない ・話すことに集中しすぎると電子カルテの入力ミスがあるかもしれない <p>◇看護師が間に入る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロ下手なドクターがコミュニケーション日本一のために急に気さくなるのは難しい(努力は必要) 	<p>◇住民の健康維持・推進に寄与</p> <p>◇中部国際空との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港のワイドホランドテナアを講師に呼ぶ ・陸奥教室(マナーもコミュニケーション!!) ・セントレアは顧客満足度世界一 <p>◇地域の企業との連携で何かできないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業のLIXILやTOTOに衛生機器や外壁などで協力を得られないか? <p>◇保健センターの合辦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新病院では、保健センターが院内にできることで連携がとりやすくなる ・保健予防に関する出前講座を行う ・病院建設予定地の黒置台は核家蔵が多く、まわりは閑寂や家蔵があまりすず着てや健康のことで悩んでいる人も多いと思う ・現在行っているような相談の他に、健診や保健予防教室の時に保健センターではできないような、病院ならではのことができないか <p>◇どこなめホールでのコンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香人会ことも会にお願いでコンサートを行う ・病院に集まってもらう <p>◇病院接遇日本一みだいなコンテンツがあったら面白いと思う</p>
<p>行動・活動・何をするか</p>			

	<p>◇もしもしナーズの連続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでの「心無い一言に傷ついた」との意見から始まったものであり、例えば「夜勤は大変なんだ」などお互いを知ることで、コミュニケーションのあり方が全く違ってくる ・地域での出前講座も広く行う ・産後お母さんたちの声を聞けるいい機会 ・もしもしナーズで学んだことをリーフレットにまとめる ・市民の力で医療を守っていく <p>◇常盤ホールでの健康教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な人に向けた健康に関する講座を行うことは、保健予防になるうえ、病院のことを良く知ってもらおうチャンス!! <p>◇保健センターの合奏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院開設予定地の飛騨台は核家族が多く、まわりに親類や家族がおらず子育てや健康のことで悩んでいる人も多いと思う ・現在行っているような種類の他に、産科や保健予防教室の時に保健センターではできないような、病院ならではのことができないか <p>◇お互いを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いを知る機会が増えることで患者側もコンビニ受診を考慮するようになるのでは ・コンビニ受診をする人は医師や看護師の仕事の大きさを理解していないのだから <p>◇一緒に医療を食べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者はもちろん、健康な市民もきめて、医師や看護師と一緒に星真会を行ってはどうか 	活動指標		目標指標	◇子育て中の人が「子育てしやすいまち」と実感できる
--	---	------	--	------	---------------------------

②ボランティアの活躍のためには

ボランティアのグループは、磯村 智恵子さまの司会のもと、実際の大きさを測ってボランティアステーションを検討し、また募集を初め、今後の運用の仕方まで幅広い議論がされました。メンバーの檜尾さまより提案いただいたボランティアステーションの図面を最後に掲載いたします。

ご意見・ご提案

【今後の進め方について】

- ▼病院ボランティアの活動内容については、病院サイド、来院者サイドのニーズを受け取りその都度、選択しながら臨機応変に進めるのも一考では？
 - **ご指摘のとおりニーズに応じた活動内容を考える必要があると考えます。**

- ▼発展、安定させて行くためには、行政、病院などにおける所属、位置づけの明確化、組み入れられた中での意見交換、連絡調整、それぞれコミュニケーションを密にした一体推進が望まれる。
- ▼病院が本来の医療活動の他に地域活動に活発に参加するためには、外部からの要望を集約したり病院の人員を割り振ったりする専門のコーディネーターが必要なのでは。
 - **専門のコーディネーターの導入については予算の都合もありますが、ご指摘のとおり病院の職員の中にボランティアリーダーの方と連携していくことのできる人員が必要だと考えます。現在の病院職員はボランティアに関するノウハウが乏しいですので今後ボランティアに関する検討の中でボランティアを基礎から学ぶ機会が必要だと考えます。**

- ▼組織、処遇、企画運営などは市長のご挨拶のあったセントレア・スタイルをモデルに検討して見てはどうでしょうか。
 - **セントレアでは「顧客満足度世界 No. 1」の取組みの一つとして、地域の皆さまとセントレアが協力してお客さまにおもてなしの心を発信する案内ボランティアを初めたということです。空港内の案内ボランティアは全国の空港で初の試みでしたが、それでも開港前1ヶ月間だけのボランティアの募集期間には多数の応募があり、面接や研修を経て開港時には139名、現在は300人以上の規模となり、募集の再開を待つ方もみえるそうです。ボランティアの多くは知多半島の都市や名古屋に暮らすシニア世代の人たちや主婦の方で、ボランティアの活躍の場もアクセスプラザでの案内からはじまり、空港内の見学ツアーやスカイデッキガイドまで広がり、お客さまにもボランティアスタッフ自身にとっても大好評で、見事、顧客満足度世界 No. 1 を実現しています。またメンバーの方のご意見にもあったように、ボランティアと会社の橋渡し役となる専門の部署が社内にあるなど、新病院のボランティアのあり方を考えていくにあたって大変参考になるモデルだと考えます。**

- ▼ボランティアの役割やボランティアステーションの機能をどう規定（評価）するかで設計内容・規模も変わってくるので、今日の我々委員の意見を極

力尊重して欲しいと思う。

- 病院自体の建築面積には限りがあり、その中で病院機能として必要な面積を確保していく必要があります。ボランティアも病院にとって重要な機能の一つですので、グループワークでいただいたご意見等を出る限り反映したボランティアステーションとなるよう努めます。

▼ボランティアに積極的な立場で意見を出したが、ボランティアが集まるかどうか、開院までに意識的・体制的にどう準備するか、早々の課題になると思う。

- ご指摘のとおりだと考えます。新病院ではボランティアの方の活躍が不可欠ですので、今後ご協力をお願いいたします。

【設計や設備に関すること】

▼私たちのグループの意見として、「ボランティアステーション（ルーム）の他に、エントランスホールの情報ライブラリーの管理と併せて、コーナーを設置して欲しい。」との案は、大変良いと思われるので、是非実現していただきたいと考えます。

- 今後の実施設計の中でご意見を参考にさせていただきます。

▼常滑ホールの舞台（演台）を可動式で数パーツに分割できるものにすれば、エントランスホールでの演奏会の催し物でも活用でき、良い提案と思っています。

- ご提案の可動式で分割できる舞台につきましては製品を調査し、備品整備の中で検討いたします。

グループワークの反省や今後の改善点

▼今日のグループワークの目的は基本設計に我々委員の意見・考えを少しでも反映させることである。しかし、そこに至るまでの過程で、病院におけるボランティアの役割やボランティアステーションの機能等について十分討議する必要があると思うが、相変わらずの時間不足でそれが十分出来なかったことは、少し心残りであった。

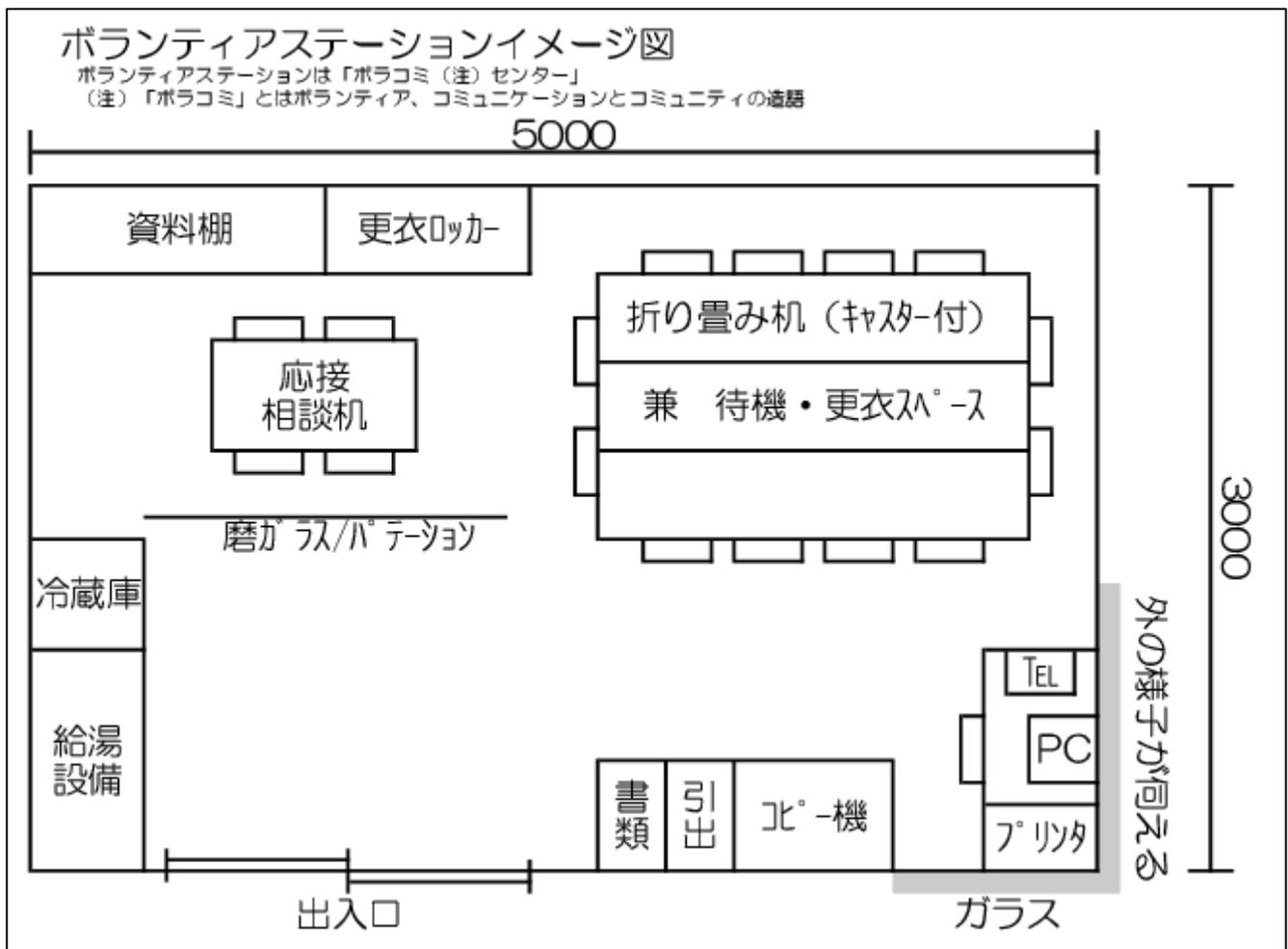
▼（細かいことではあるが今後のために・・・）10/3付けでワークショップの開催についての提案をした際にも下記のような要望を出しておいたが、今回の3つのグループの配席状況はあまりにも接近し過ぎであった。移動に要する時間的ロスも考慮してのことと思うが、せめて1室内であっても、出来るだけグループ間の席を遠くに離して配置することは可能な筈である。「グループごとの会場は、各委員がディスカッションに集中出来るように、極力独立した場所が好ましい。」我々のグループは少しでも討議に集中したいので自主的に席を移動させたが、本気でワークショップ、討議の成果を求めるなら、その辺の配慮まで考慮すべきである。

- 今回のグループワークでは配慮が足りずにご迷惑をおかけしました。ご指摘の点につきましては、今後の企画運営をしていく上で気を付けます。

ご感想など

- ▼メンバーの方々が事前に討議資料を準備してくださり大変役立ち、感謝しています。
- ▼グループ内で色々な意見を聞いて大変良かった。特に、樫尾さんより「ワークショップ討議資料」としてプリントを配布していただき、今後の方向付けの話し合いの資料として活用でき、大変助かりました。
- ▼進行役のリードが良かったおかげか、大変有意義な話し合いとなりました。
- ▼開院してからではなく、基本設計の段階からボランティアの位置づけがされていることを頼もしく思った。病院・行政・住民のコミュニケーション日本一の病院を目指して今後さらに具体的なボランティア活動の準備をしていかなければならない。道のりは大変そうであるが、市民の一人として出来る限り協力していきたい。
- ▼参加者も真剣に意見を述べ、受ける側も真摯に、また、迅速に対応されていて、まさに「協働」だと思った。

ボランティアステーションイメージ



③患者・来院者・地域住民等のアメニティ向上のためにはアメニティのグループでは、売店（コンビニ）や喫茶をエントランス周りやレストラン、病室・トイレなど設備から運用面までは幅広いご意見をいただきました。当日の日建設計または事務局との質疑の様子をメンバーの明壁 智代美さまに作成いただきましたので最後に掲載いたします。

ご意見・ご提案

【エントランス、中央待合、情報ライブラリー】

▼1 階の階段位置が前回と変わったため、情報ライブラリーの前に椅子がおけるのか確認できなかった。飲食をしない人の休憩、待ち合わせにやはり必要だと思う。でないと喫茶の部分へ座る人が増え、飲食したい人が困ると思う。

→ ご指摘のとおり現在の事務局の基本設計（案）では休憩や待ち合わせのスペースが少ないと考えますので、休憩や待ち合わせのスペースが確保できるよう考えていきます。

【売店（コンビニ）、喫茶】

▼前回までは南生協病院のような手作りパン屋さん魅力的でしたが、資料のアンケート結果を見て衛生面とか不安を訴える意見もあり、社内にホスピタルローソン推進部があるローソンならとコンビニ単独の意見に納得できました。ただし、買ったものを食べることのできるスペースはなるべく広くお願いします。窓際は外を向いて一人でも気軽に飲食できるように椅子を並べて欲しいと思います。

▼売店は職員の希望が多かったコンビニのほうが機能的にはよいかと思います。喫茶の機能が1階にあると、なかなか6階外来レストランには行ってもらえなくなるのではないかと思うので、コンビニと休憩スペースだけにしたほうがよいのではと考えました。

→ 今後の実施設計や業者選定の中でご意見を参考にさせていただきます。

【診察室・待合】

▼診察室の待合の椅子は、できたら背もたれに手すり付きのもので。さらに医事受付前の椅子は移動を想定してキャスター付きが良い。

→ いただいたご意見を参考に備品整備の中で検討します。

【職員レストラン、外来レストラン】

▼レストランは、タニタ食堂のようなカロリーや脂質や塩分に配慮した献立を提供できるような業者さんに入っただけの一番うれしいのですが、他の人の意見であったワタミのお弁当を・・・という意見もありだと思います。入院患者さんの付き添いの方や外来の患者さんも予約日時に来ている方が多いので事前の予約も可能だと思います。もちろん病院で働いている方も事前の予約は可能だと思います。事前予約無しでも食べることができればなお良いのですが・・・。病院食よりは良いのかなと思います。

▼レストランや売店について、たくさんの意見が出され、まとめるのも大変なくらいでした。その中でファミリーレストランや弁当店など大手チェーンの名前が挙がっていました。病院の最上階6階にあるレストランであり

集客にはかなり苦勞するだろうという意見もあり不安も大きくなります。病院の外からレストランへ直接行けるルートがなく、わざわざ院内のエレベーターで行く経路になり、だからこそ特色を出していく必要があると思います。

▼思いつきですが、先日げんきの郷（大府）に行った時、知多半島産の野菜を中心としたお惣菜店が大変盛況でおいしかったので、地元農協に協力していただき出店していただけたら嬉しいと思いました。提供するメニューも、内分泌医師監修のメニューを作るなど、週替わり（たとえば整形外科医師監修の骨太食、腎センター監修の健腎食！？・・・等々）の健康メニューを限定食で安く提供するなど魅力ある工夫ができるとよいかと・・・。できれば常滑産の食材を多く（生産者の名前も出すとか）使用してもらいたいです。

→ **給食業者の聞き取りでは、常滑市民病院の規模ではなかなか厳しい経営となると聞いております。とはいえ外来患者さんや病院で働く職員にとってレストランは必要ですので今後の業者選定の中で、業者の提案を受けながら検討します。**

【病棟、病室】

▼病室ですが、4床室は前回よりも改善されていて概ね良いのではないかと思います。ただ、どんなベッドや家具になるのか実際のモデルルームを見てみたかったです。

→ **予算との兼ね合いもありますが、今までにない形の4床室となりますので、モデルルームで実際の使い勝手などを検討したいと考えています。その際はメンバーの方にも見ていただける機会が企画できればと思います。**

▼私自身は入院生活で私物を置く場所に困っていましたが、収納が充分かとか壁等に下げることのできるフックのようなものが付くのか等、気になるります。

→ **備品整備の中で参考にさせていただきます。**

▼個室はグレードを何段階か設けていただけたらと思いますが、詳しいことを聞きそびれてしまったので心配です。あまり高価にならない程度でシャワー付きの個室をお願いします。

→ **個室料の設定は今後の検討課題ですが、ワークショップの中でもメンバーの方々からもご提案いただいた「シャワー付き個室」については整備いたします。**

【ファミサポによる院内託児】

▼アメニティのグループでは話し合われませんでした。院内の託児について、ボランティアのグループではどういう意見が出されたのか気になりました。既にファミリーサポートという既存システムがあり、ファミサポの会員が病院での託児を担当することになれば、会員登録者も増えるし、よいと思いましたが、どこで託児をするのか？スペースがあるか？わかりません。職員向けの院内託児の場のスペースが一部託児として使えるといいと思うのですが、当日の話し合いではどんな意見がありましたか？

- 当日メンバーの方からご提案はありませんでしたが、ファミサポの利用はとても良いとご意見だと考えますので、今後話し合っていきたいと思えます。

【内装や設備に関すること】

- ▼床の色は弱視の人でも困らない色を考えて欲しい。
- 弱視者は、動線と直交するような縞状の模様や床色の塗り分けがあると段差と誤認することがあるとのことですので、今後の実施設計で考慮いたします。

グループワークの反省や今後の改善点

- ▼最初にコンビニの討議をして時間が掛ってしまい、他の項目を満足に討議できなくなってしまいました。時間をくぎって進行するつもりでしたが、途中で打ち切る事ができませんでした。地域住民等の協議ができなくて残念でした。
- ▼時間がなくて全部が話し合えなかった気がする。残った部分としてはダイニングのレイアウト及び設置物、例えば図書棚を置くべきか、またパソコンは必要か・給湯機能の必要性など。
- ▼1階部分のコンビニ、喫茶の問題に時間がかかったので病室やトイレ等他の施設の意見交換があまりできなかったのが残念でした。
- ▼コンビニや喫茶等は入ってくれる業者さんの問題もあり、私たち一般の意見だけでは難しいので、堂々巡りの意見ばかりだった気がします。
- ▼カフェやレストランについて、くわしくお話が聞けましたが、それ以外の場所にまでなかなか行きつけなくて、残念でした。
 - 熱心にご討議いただきありがとうございます。時間が足らずに話し合えなかった点につきましても、ワークシートをはじめ様々な形で皆さまからさまざまなご意見をいただいておりますので、出来る限り実現していきたいと思えます。

ご感想など

- ▼アメニティは希望すれば限りがありませんが、患者さんはじめ利用する人の目線で常に考えて、より良い方法を取り入れていくところが大事だともいいました。
- ▼皆さんのお話を聞いていて、病院というのは、事細かくいろんな箇所に利便性が考えられているのだと、改めて思いました。

当日の質疑や意見交換の様子

「問/または意/」はメンバーからのご質問やご意見、「答/」は㈱日建設計または事務局からの回答となっています。

(1)売店(コンビニ)、喫茶、情報ライブラリー

病院内で実施されたアンケートも参考にしながら、A案(カフェ・売店コラボタイプ)、B案(コンビニ単独タイプ)のどちらが良いか聞いたところ、全員「B案が良い」とのことでした。

問/コンビニには、入院用品等病院で使用する物も揃っているか？

答/今回は“ホスピタルローソン”を例にしていますが、当然病院内の施設なので、入院用品を含め対応できるようにする。

問/コンビニと喫茶は一体が良いか？

答/コンビニと喫茶は別の方が良い(メンバー全員の意見)。

意/今日のレイアウトの、机・椅子の配置を、窓側はカウンターにした方が、迎え待ちやバス待ちの人は外を見る事ができ、一人でも気軽に利用しやすいと思うが？

答/改善できると思う。

意/エレベーターをもう少し南に移動して休憩場所を広くできないか？

答/エレベーターを移動すると、2階に上った所が広くなり、床面積が増えコストも増えるのでこのままでいきたい。

意/喫茶コーナーをコンビニと一体化して場所も移動できないか？

答/喫茶コーナー(コーヒーを作る場所)をコンビニと一体化し、通路側に移動できると思う。また、エントランスホールに椅子を置く等して休憩場所を広げたい。

意/コーヒーとパンを提供できる方が良い。手作りパンは入れないか？

答/手作りパンはコンビニが嫌がると思うが検討してみる。

問/コンビニの営業時間は？

答/7:30~20:00頃を考えている。

問/1階に自販機を置く場所はないか？

答/自販機もコンビニは嫌がるが、玄関ホールに一番遠い外来の所に設置を考えた方が良いのでは？検討する。

意/喫茶スペースには窓側を向いて1人でも座れるようなテーブルとイスの配置等、多くの人が座れるよう工夫して欲しい。

意/売店（コンビニ）と喫茶スペースとの仕切りはできるだけオープンとし、コンビニで購入した物を持って移動する際は、遠回りせずにコンビニから喫茶コーナーへ直接移動できるようにしたい。

意/売店（コンビニ）では、お湯を入れたり、温めたりするサービスがあると良い。

意/公共料金の支払いが可能であること、将来的に住民票も取り寄せできる等のサービスが提供できるコンビニの方が売店よりも良い。

意/喫茶コーナーには飲食しない人も座る可能性があるため、玄関ホール周辺に待合イスを増やして欲しい。

意/バスの時刻表を喫茶コーナー周辺に掲示して欲しい。

(2)患者給食、外来レストラン、職員レストラン

先回の意見を早速取り入れて頂き調理室が広がっていた。調理室は、糖尿病患者さんリハビリ患者さん等の食事改善指導や離乳食指導が行われるそうです。

意/調理室は 10 名～15 名が入れるようになっているが、もう少し広くならないか？

答/現在の保健センターと同じ機能を備えているのでこの案で良いと思う。

意/収納を考えると、今のシンク場所を収納スペースにして、窓側にシンクを移動できないか？

答/なるべく窓からの景観を楽しめる様にしたい。保健師と協議しながらベストな配置を考えたい。

問/外来・職員レストランは同業者を募集するのか？

答/現在職員は、事前に人数を把握して、患者さんと同じ病院食である。新病院は職員と外来レストランの同業者を募集する予定。

意/ワタミ、豆蔵、ガスト等をお願いしたらどうか？

答/引き受けてくれるかどうか心配だが、総務部長さんが聞いてくれるそうです。

意/調理台の下は、椅子に座っても足が入るようにして欲しい。

意/外来レストランのメニューには麺類が欲しい。

意/調理実習室には食器棚が配置できるスペースが十分なのか心配である。

意/調理実習室の窓側にシンクを設置した方が良いのではないか。加えて、現在のシンク側に食器棚を設置してはどうか。

意/調理実習室の中央のテーブルには、ガスや IH を使用しない時は作業台とし

て使用できるよう蓋を付けるなどの工夫が必要である。

(3)病室、トイレなど病院機能

病室は4床の図面を基に、すべてのベッドに窓が配置されている事を確認。更にモデルハウスの写真をみながら討議した。新・常滑市民病院でモデルハウスを行う場合、①マンションのような屋外のプレハブのモデルルーム、②新病院建設時に1部屋だけ内装の仕上げを早くする、③現市民病院の空いてる部屋を新病院の4床室に改装するなどの方法があるそうです。

問/トイレは室内に配置されているが、廊下から出入りするのなぜか？

答/匂い、音等を考えて室内での出入りではなく、廊下からの出入りにした。

問/クローゼットは作り付けか？

答/作り付けを考えている。(コストは掛るが努力したい)

問/靴はどこに入るか？

答/クローゼット内の下を考えている。

問/患者さん用以外に、見舞いの人用に椅子を各部屋に(1患者に2台程度)置いて欲しい。

答/出入り口のスペースを考えたい。

意/床頭台について、上には棚があった方がよい。

意/TVは患者の状態によって向きを変えられるように可動式が良い。

意/カーテンの上部は病室の光が入るように網目がよい。

意/エアコンは患者個々の状態に合わせて合わせることができるよう1患者に1台のエアコンが必要である。

意/テレビ等を置くキャビネットはクローゼットの色と統一して欲しい。その際明るい色にして欲しい。

(4)その他について

意/バス待ちの方のために、バス停のすぐ近くに雨よけ、暑さ、寒さ対策ができる部屋(電車のホームにある待合室のような部屋)が必要である。加えて、暑い時は窓が開閉できるように、窓を設けて欲しい。また、そこにはベンチが必要である。

4. 「新病院設計ワークショップ」を終えて

ご意見・ご提案

▼設計がどんどん変化するのが素晴らしかった。しかし、まだ足りない気がする。期限があろうが、ソフトでカバーできないところは、最初から設計に盛り込まねばならない。また、余裕を残さないと八千代病院のようになる。

→ 建設事業費の問題もあり、限られた予算とスペースの中で、将来を見込んで空きスペースを作っておくことは難しいため、将来の増築場所を考えての配置計画を進めています。またメンバーの方からご質問の多かった産科のように新たな診療科を始める場合は施設を改修することでの対応を考えています。

▼開院（それ以前の説明会）ではぜひボランティアによる病院説明ができるようがんばっていききたいという意見も出た。

→ ボランティアの方による病院説明につきましてはぜひお願いしたいと思います。

▼皆さんの意見を読ませていただき、今の段階から病院と保健センターの連携をしっかりと具体化していく必要を強く感じました。病院の糖尿病教室には既に参加させていただきましたが、保健センターで実施してきた教室とは対象者がかなり違い戸惑いました。ですがその違いこそ大切で、そこをよく理解し合った上で連携することができれば、よりよい事業が地域で展開していけるのではないかと思います。病院の職員の方々のご意見も聞きたいです。

→ 保健師の方には、病院と保健センターの連携の一環として、糖尿病教室での講義をいただきありがとうございます。病院側も開院までの間に保健センターとより緊密な連携を進めていきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

ワークショップの進め方や今後の改善点

▼事務局のまとめ方もとても上手で、次回に活かせるような会の進め方ができていた。今後も続けて欲しい。

▼できることならアメニティだけでもう一回細部にわたり行きたいと思いました。

▼テーマ別のワークショップがもう1回あるとよいと思った。

▼新病院のハード面はよく検討されて良い病院ができあがると思う。しかし、それに負けない中味（ソフト面）が課題となる。全組織をあげて「コミュニケーション日本一の病院」づくりに平成27年度を当面の目標としてこれから活動を始める必要性を痛切に感じる。

→ 今後も何らかの形でこのような議論の場を企画したいと考えております。メンバーの皆さまにもお声をおかけいたしますのでよろしくお願いいたします。

ご感想など

【ワークショップに参加して感じたこと】

- ▼前回の100人会議とは違って、少人数での話し合いに重点を置いたこのワークショップの企画は、参加者の一人として大変良かったと感じています。
- ▼今回、100人会議のメンバーは19名の参加でしたが、貴重な時間をさいて自分の家を設計しているかのように真剣に取り組んでいる姿にいつも感心していました。私もその一人だと思えると誇らしいです。
- ▼事務局、病院・行政メンバーの方々並びに市民メンバー全員がそれぞれの立場でその日のテーマに真剣に向き合い取り組まれ積み重ねられた日々でありそのなかの一員として貴重な時間を過ごせたものと感謝申し上げます。
- ▼立場はいろいろであったが、ひとりひとりが前向きに話し合いに参加できて有意義な会であったと思う。
- ▼昨年の100人会議で終わりではなく、このような場を設けていただきましてありがとうございました。参加メンバーの方々はしっかりとした意見をお持ちの方ばかりで、私は少し場違いな気がしていました。私のような素人の意見にも耳を傾けていただきありがたかったです。
- ▼このような機会を作っただけで、病院づくりそのものへの期待が高まったことはもちろんですが、回を重ねる毎にメンバーのみなさんとの親交が深められ会えることが楽しみになりました。
- ▼市民メンバーさんの新市民病院に対する思い、特に市民病院と患者さんや市民の皆さんの橋渡しをするボランティアとしての意識や病室、トイレ、レストラン、コンビニ等、患者さんや市民の皆さんの目線によるアメニティへのこだわりのレベルの高さに驚きました。
- ▼いち早く図面をみせて頂き、新病院が確実に建設に向けて動いている事を実感しました。
- ▼昨年の100人会議の後、日建設計に決まったことを広報で知りました。私にとっては全然知らない会社だったので、「何これ。大丈夫なの？」と失礼なことを思っていました。でもワークショップで何度も顔を合わせ、たくさん話し、病院の機能についてとてもよく理解していることがわかりました。また、市民の意見を取り入れて素早く設計変更をするなど、すばらしい市民病院を作りたいという熱意が伝わってきました。今、私は日建設計を信頼しています。「いい病院ができるよ。」と自信を持ってみんなに言うことができます。これもコミュニケーションの成果？
- ▼市民と一緒に病院づくりに参加出来たということは、とても素晴らしい取り組みだったと思います。
- ▼市民・病院・行政の各メンバーそして事務局員のみなさまの本当に熱心な論議に胸を打たれました。色んな立場の方々からのご意見を伺い、得した気分です。
- ▼ワークショップの市民参加者全員がPCメールができたので、事務局との情報のやりとりが素早くできました。毎回、参加者の意見をまとめて、回答までつけて返信して下さった事務局の丁寧な仕事に感謝します。このまとめを元に次回のワークショップに参加したので、とても有意義な議論ができたと思います。メールや投書などは多数の意見を集約するには便利かもしれませんが、直接顔を合わせて議論することが本音を引き出す上で不可欠だと感じました。面倒くさいことかもしれませんが、こういったコ

コミュニケーションスタイルをこれからも大事にしてほしいと思います。

【メンバーの意見の基本設計への反映について】

- ▼設計への意見の反映がワークショップのステップごとに確認できたのはよかった。その反映の結果をうまく情報伝達して今後の市民参加の意欲を形成して行って頂きたい。
- ▼常滑市は財政的には大変苦労しているそうですが、こんなにも優れた頭脳集団がいらっしゃることに頼もしく思いました。世間に多くありがちな「単に意見を聞き置く」といった立場でなかった事がうれしかったです。
- ▼素人の私たちが、様々な意見・要望を述べても、嫌な顔をしないで聞いてくださり、次に参加すると改善されている事もあり、うれしくなりました。
- ▼ワークショップでの各種意見に対しても洩れなく汲み上げ、文字どおりの『みんなで創ろう』を実践されたと実感しました。
- ▼いつも皆さんの視点や意見には感心させられる。多くの意見要望が設計に反映され市民に愛される新病院が誕生することを願っています。
- ▼去年と今年、三回手術し入院を4回もした私は休日の退屈さや細々と気づきがあり、その体験から意見を出せて建築などに役立たせてもらえそうな手応えをもてたので新・常滑市民病院に期待します。
- ▼熱心に参加されていたみなさんが、本当に詳しく、いろんな提案をされていて、お話を聞くだけでも勉強になりました。また、そういった市民の意見が計画に盛り込まれていくのを目の当たりにできる、大変有意義な取り組みでした。

【ワークショップの内容に関して】

- ▼石巻日赤病院のビデオは、非常に参考になりました。
- ▼毎回いろいろなアイデアと工夫がされており楽しく、有意義なワークショップでした。
- ▼「具体的な設計内容の説明」「昨年の3.11における石巻日赤のビデオ上映」6回目の最初に上映した「ドクターヘリの搬送ビデオ」など、視覚に訴えた良い方法など、色々な方策で我々に情報提供していただきました。皆様方のご努力に感謝します。
- ▼2回の病院視察も参考になり、また楽しかったです。

【今後に期待】

- ▼H27年5月が益々楽しみになりました、ありがとうございました。
- ▼市民病院に関心のある人が、新病院を積極的に応援する立場から意見を出し協力してくれていることは、たいへん有難いことであり感謝したい。こうした応援団を、大切に、そして継続していくことが、新市民病院の成功に繋がると思う
- ▼最終的にどのような設計になるのか楽しみです。
- ▼ずいぶん南生協病院で長年お世話になってますが市内に総合病院があれば代わりたい気持ちなので今後も新・常滑市民病院がオープンになるまで何かと関わりたいと思います。
- ▼議論するには、時間が足りません。我々の方は、時間を取れるとしても、医師・看護師さんは、これ以上、無理ですから、今までに出た議論の中から答えを見つけてください。
- ▼100人会議及び今回のワークショップへの参加を通して、市長が本気で

新市民病院を建設しようとしていること及びその過程で市民の意見を真剣に汲み取ろうとしていることを実感し、その姿勢を大いに評価すると共に、今後の準備段階はもちろんのこと、開設後の管理・運営面においてもその姿勢を貫き通して欲しいと思う。

【事務局へのご意見等】

- ▼とりわけ事務局トップの市長、副市長自らが先頭に立ってリーダーシップをとられたことに敬意を表します。
- ▼山田副市長さんはじめ事務局のご努力に敬意を表します。
- ▼最後に、院長先生初めスタッフの方々、市長、山田副市長はじめ行政の方々、日建設計さん、皆様のご努力に感謝いたします。今後私がお手伝いできること見つけていきたいと思っています。ありがとうございました。
- ▼院長、副院長はじめ関わったスタッフの熱心さに敬服。今までの良くないイメージが払拭された。
- ▼毎回、みんなの意見をよくまとめていただいて、ありがとうございます。
- ▼どんな小さな質問にも、きちんと答えがかえってきたのは嬉しかったです
- ▼事務局の方たちは準備から意見のまとめ、基本設計への反映・・・とお忙しかったことと思います。ありがとうございました。

5. 今後の新病院の建設に向けて希望すること

ご意見・ご提案

【交通アクセスについて】

▼交通アクセスの問題はできるだけ早急にお願いします。

→ **交通アクセスの問題については、メンバーの方々からもご意見の多かったバス**の問題も含めて、別途協議の場を設けていきます。

【小児科外来について】

▼小児科は1階フロアになる予定で、子ども連れの保護者にとっては助かると思いますが、子どもが風邪を引くと、耳鼻科にもかかる人が多くいるのではないかと思います。耳鼻科は2階フロアになっていますが、それはどういった理由なのか教えてください。

→ **耳鼻科や眼科については、聴力検査のための防音室や吸入を行う処置室、視力検査室や暗室など、内科外来や外科外来とは異なる面積や仕様の部屋が必要であるため、外来を2階フロアに計画しています。**

【外来レストラン・職員レストラン】

▼6階レストランは、職員用と外来用に場所が区切られていましたが、市長さんも職員の方も一緒に食事が出来る市役所のレストランの様にしたら、お互いを身近に感じられていいのではないかと思います。

→ **ご指摘はごもっともですが、一方でお昼時間は職員の息抜きの時間という面もありますので、その点を考慮して現在の計画となっています。**

▼職員の方は食事の時間も手短にするために、コンビニでパンを買ってすませていると聞きました。レストランは、食べ物の持ち込み可にするのか、また忙しい職員の方にも対応したメニューにするのか、計画が決まっていたら教えてください。

→ **現時点ではまだ計画しておりません。なお現在の市民病院では職員食堂へはお弁当やコンビニ弁当を食べる職員もいます。また営業時間外は休憩や打合せ場所として利用することを考えています。**

【ボランティアについて】

▼病院におけるボランティアの役割を、車いすの介助や院内案内、花壇整備だけで良いとする矮小化や、逆に何でも協力してもらえという過大期待も危険である。病院側とボランティア側が十分論議の上、適正なボランティアの役割決定と、それを保障するための条件整備（ボランティア・ステーションの充実等）が必要である。

▼市民も協働の主体者としての力量を高めるため、絶えざる研修、自己研鑽が求められる。

▼病院関係者と市民とのコミュニケーションの推進、病院と地域（コミュニティ）の関係で病院が市民や地域に開かれた施設（拠点）となるためには、ボランティアの存在が一番重要であり、協働の橋渡しの要になると考える。そういう意味で開設までの残された準備期間（2年半）は決して長

いとは思えない。ボランティア側としては、先ず有志を募り、それらのメンバーが中心となって、ボランティア・グループの組織化、一般市民対象の講演会や研修会の開催を始め、各種キャンペーンを企画する中でボランティアを徐々に集めて、病院経営、運営に貢献出来る組織作りを展開すべきであろう。もし、上記のような取り組みが始動する際には、病院側の積極的指導、協力を期待するものである。

- ▼新病院開院までに、市民が関わり、支える機能を確率するよう準備をして行かなければならないので、意識が高まっている今の時期を逃さず動き出していくと良いと思います。特にボランティアの組織の準備・募集など。
- ▼ボランティアの募集、コーディネートとまだまだすべきことがある。
- ▼新病院の建物ができる前からやることは山積みです。特にボランティア。
 - ご指摘はごもっともです。新病院の開院を待つことなく、ボランティアの方々と連携しながら、新病院でボランティアの方が活躍できる体制を一緒に作っていきたいと思います。なお、ボランティアステーションにつきましては、限られた面積の中で、グループワークでいただいたご意見等を出来る限り反映するよう努めます。

【広く意見を募集する】

- ▼今後は昨年100人会議以外の方、例えば、保育園・小中学校・高校、老人会、民生委員、地元の企業からもアンケート等協力して頂き意見を取入れたらどうでしょうか？
- ▼多くの市民から要望を集めるには、今の病院および公民館などに意見箱の設置をしたらよいと考える。「こんな病院にしてほしい。」「こんないやな思いをした」等、多くの意見を集めれば、進む道が示される。現意見箱にも苦情がたくさん寄せられているようだが、新病院に向け、随時決まったことを発表しつつ、苦情、意見・要望を集めてほしい。
 - ご提案のご主旨はごもっともですが、100人会議などでメンバーの方から有意義なご意見をいただけたのは、見学や勉強会をとおして一緒になって勉強してきたからという面もあります。どういった形での意見の収集が良いのかを含め実施を検討していきます。また新病院について決定したことは適宜お知らせしていきます。

【100人会議のサポーター企画の継続】

- ▼どこまで関われるか疑問だが、100人会議のメンバーはずっと関わり続けられる新しい組織がいるかもしれない。(例えば新市民病院をよくする会のような。)
- ▼建物が準備できたらいよいよ人の活躍ですね。運営面での問題は山積みですが、何かの形で市民も協力・参加できる場を作ってほしい。
- ▼建設までにまたこのような機会があるとうれしいです。
- ▼今後も「市民参加」の形態を続けられるよう希望します。
- ▼設計の段階の市民参加の意義成果をアピールし、病院ボランティアを含めた運用面での市民参加要請、運用に関する意見要望の集約反映の公表、改善に向けての議論の機会設定等市民が積極的に関われる環境作りを今後も推進していかれることを望む。
- ▼〇〇会議をやる時には、また呼んでください！
 - 今後も何らかの形でこのような議論の場を企画していきますので、ぜひ

ひご参加ください。

【医師会との交流会・研修会】

- ▼病院であり、安定運営には、市内に多くある診療所（医師会）との病診連携で、入院患者の安定確保できるかが課題。院長・副院長は医師会員であり、医師会内で病診連携を話題にして、協力・連携関係を深める時に来ていると思う。
- ▼新病院には保健センターが合築され、医師会・歯科医師会・薬剤師会の事務所や会議室もこれまで通り確保することや休日診療を病院に定点化すること等で、病院と診療所の医師等の顔見知りの関係を築き、病診連携にも繋げたい。この際、事前に、病院と診療所との交流会・研修会等を立ち上げ、新病院の開院までに連携関係を組織化できないか。
- ▼市民の皆さんが、健康を維持し、元気な体で長生きするには、保健予防事業を実施している保健センターと地域医療を担っている市民病院や、かかりつけ医である市内医療機関が、連携を図らなければなりません。そのためには、今後、市民病院と市内医療機関（医師会）が役割や機能を分担する仕組みをつくるのが重要です。
 - 現在、医師会との連携の取組の一つとして拡大医局会議を行っており、その中で11月からFAXによる放射線撮影予約を開始しました（受付は地域連携室で行っております）。今後は放射線撮影のみならずその他の検査も含めて市民病院での診察を行わなくても検査ができるような検査予約の仕組みを整えていきたいと考えています。また不定期で「地域連携ひろば」という地域のクリニック向けの広報を発行し、クリニックの待合などに掲示していただき病院からの情報を発信しています。コミュニケーション日本一の連携としてはまだまだですが、今後も医師会との連携を強化していきたいと思えます。

【コミュニケーションについて】

- ▼新病院の建設がスタートすると同時に「コミュニケーション日本一の病院」のしくみ（システム）づくりの活動をぜひスタートしてほしい。例えば、まず、①導入準備段階（コミュニケーションの勉強会・研究会、キックオフ宣言、目標設定、モデル活動、マスタープラン・アクションプラン作成）、②導入段階（活動体制づくり、サークル横展開、活動板による活動経過・効果の見える化など）。活動の指標・目標は、行動系と結果系に明確に分ける。
 - 具体的にどのように計画していくべきかも含めご支援・ご協力をお願いします。
- ▼行政サイド、病院スタッフサイドで行き詰りがみられる場合市民サイドに協力や援助を迅速かつ気軽に要請したり、市民サイドの問題を行政サイドに迅速かつ気軽に報告したりといった相互伝達のモデルを模索しながら、既存のツールの充実に加え新しいコミュニケーションツールの開拓（たとえばご意見専用フリーダイヤルとか街角掲示板とか）を検討してもらいたい。
 - ご提案のご意見専用フリーダイヤルをはじめとする新しいコミュニケーションツールを検討していきたいと思えます。

【現地の見学会】

▼現地が更地のうちにイベントか見学会をおこなってはどうか。(これから開けていく地域なので、現場に足を運ぶことによってぐっと期待感も高まると思います。)南医療生協での、内覧ボランティア養成や班会のとりのりくみなど参考になるかもしれません。

→ とてもよいご提案ですので南生協病院の取組も勉強しながら検討します。

【今後の情報の提供】

▼予算のことを考えず様々な希望を出しましたが、予算内でどの程度実現したか知りたいのでその後の設計図を見たいと思います。

▼コンビニ・レストランの決定状況も知りたいと思います。

▼たくさんの意見を述べてきたが、どのように生かされたか気になる。今後引き続き情報を得たい。

▼最終設計の公表や実際の建設において変更箇所が生じた場合、要望や意見が多い箇所に関しては、その理由と補完する運用面を示す迅速な情報公開を望む。

▼今後、この熱気をどうやって出席していない方々にも伝えていったらいいかと悩むところですが、大切なことだと思いました。

→ 設計をはじめ新病院に関して決まったことがあれば、適宜メンバーの皆さまにお知らせする機会を設けたいと思います。

【障がい者の対応と理解について】

▼新・常滑市民病院オープンにむけ、整形外科医に頸椎症とは異なる脳性マヒの二次障害を研究して理解するグループは出来ないでしょうか

▼また驚くほど一般的な医療関係者ですが、障がい者とみると幼児言葉や高齢者施設で耳にする言葉で話され不快に感じになるので、ほかの患者さんと平等な対応を願う。

▼とくに脳性マヒの者は知的障がい者と見られ幼児言葉で対応され、その症状を本人に聞かず同席の家族とかヘルパーさんに様子を聞かれることが多く困った経験がある。そこで発達障がいや精神障がい者など、様々な障害がある人達の声に耳を傾けるグループをつくる事を希望する。そういった事を“もしもしナース”などで話し合われるよう期待する。

→ 病院を利用される障がい者の方についてのご意見をたくさんいただきありがとうございます。事務局では気づかない点も多く大変参考になります。いただいたご意見の全てにお答えすることはできないかもしれませんが、できる限り対応していきます。

ご感想など

【メンバーの意見を基本設計に反映】

▼このワークショップでの意見を少しでも取り入れていただけたらうれしいです。

▼ワークショップを開催した意義があるような新常滑市民病院を期待します。

【今後もお手伝します】

▼またどこかでお役に立てればうれしいです。

- ▼ 私たちも病院に迷惑をかけない利用者となるため「雑誌・TVに氾濫している健康情報に惑わされて自己診断したり、病院のはしご、コンビニ受診したり、「患者様」と呼ばれて権利意識が高くなったりすることのないようお互いに戒め合っています。そして私たちの病院のよりよい発展のためにお手伝いを惜しみません。

【今後に期待】

- ▼ コミュニケーションについては現状況でも、できることを今以上に発展させていけば良いと思います。
- ▼ 開院に向けスタッフ・コミュニケーションの実践を期待しています
- ▼ 病院が核となって、常滑市が日本一住みやすいまちになることに期待します。そのためにも、地域のあらゆる人たちとコミュニケーションをとりながら、大きな力・小さな力、あらゆる力を借りてコミュニケーション日本一の病院づくりを成功させていきたいです。（まだまだ地域には眠っている力があるはず。）
- ▼ 出席者には病院の概要が分かり、期待もますます膨らんで大変よかったと思います。
- ▼ 建設後の運用です。一層の無駄の排除、改善活動の実践・充実をお願いします。今あるものは、もう、古い。「朝令暮改」は、あっても良いのです。この点、八千代病院の考え方は、ありがたい示唆と思います。
- ▼ 知多半島には「天使（看護師）のほほえむホスピタル」があり、そこには「おもてなしの心に溢れた天使と医師とスタッフとそして市民がいる」という活動にしようではありませんか。
- ▼ 私的意見としては、コンサート・絵画展示などは、あくまで「入院患者の癒し」の部分であって、市民が発表の場として、ホールを利用するのは、おかしいと思う。「レストラン」で名を売るのではなく、医療行為の質で名を売ってほしい。

【いい病院ができそう】

- ▼ 器は、日建設計さんで間違いなし。
- ▼ 現時点のチームなら、すばらしい新病院ができあがると思います。
- ▼ 昨年の「100人会議」そして今回の「ワークショップ」に参加させていただき、病院・行政の関係者、設計業者を含めての事務局の方々と親しく意見交換をする中で新病院建設に携わる皆さまにお任せして大丈夫との確信を持ちました。よろしく願いいたします。時々進捗状況を教えて下さいね。
- ▼ 関係者全員の積極的な姿勢を強く感じています。よろしく願いします。

【事務局へのご意見等】

- ▼ いつも私たち 100人会議のメンバーを大切にしてくださりありがとうございます。
- ▼ 100人会議からワークショップまでありがとうございました。

6. メンバーの声はここに反映!!

メンバーの皆さまからいただいたたくさんのご意見のうち基本設計の段階で盛り込んでいるものをご紹介します。内装、設備や備品、運用のことなど、今後、実施設計や備品整備などを進める中で参考にさせていただきご意見につきましてはこの項には掲載しておりませんのでご了承下さい。

凡例の紹介

【お手洗い関連】



【交通関連】



【病棟アメニティ関連】



【その他】



皆さまのご意見(要約)

【EV凡例】

-  外来用
-  寝台用
-  サービス用
-  保健センター、健診センター用
-  特定感染病床用

【配置計画・外構】



ロータリー

- ▼病院を訪れる多くの人たちがどう振る舞い、どう行動するかを想像したとき気になった点として玄関口、駐車場への出入りアクセス、朝の通院ラッシュ時の混乱から渋滞、事故など引き起こす恐れあり徹底した一方通行の動線に配慮していただきたい。
- ▼送迎車からゆっくり乗り降りできる安全なスペース（停車スペース）が欲し

駐車場

- ▼南生協病院のような屋根のある駐車場が希望ですがそれは資金的に無理なのでしょうか。
- ▼傘を差さずに病院に入れる駐車場
- ▼障がい者用の駐車場の場所は、考える余地がありそう。入口から遠ければ役にたたない。

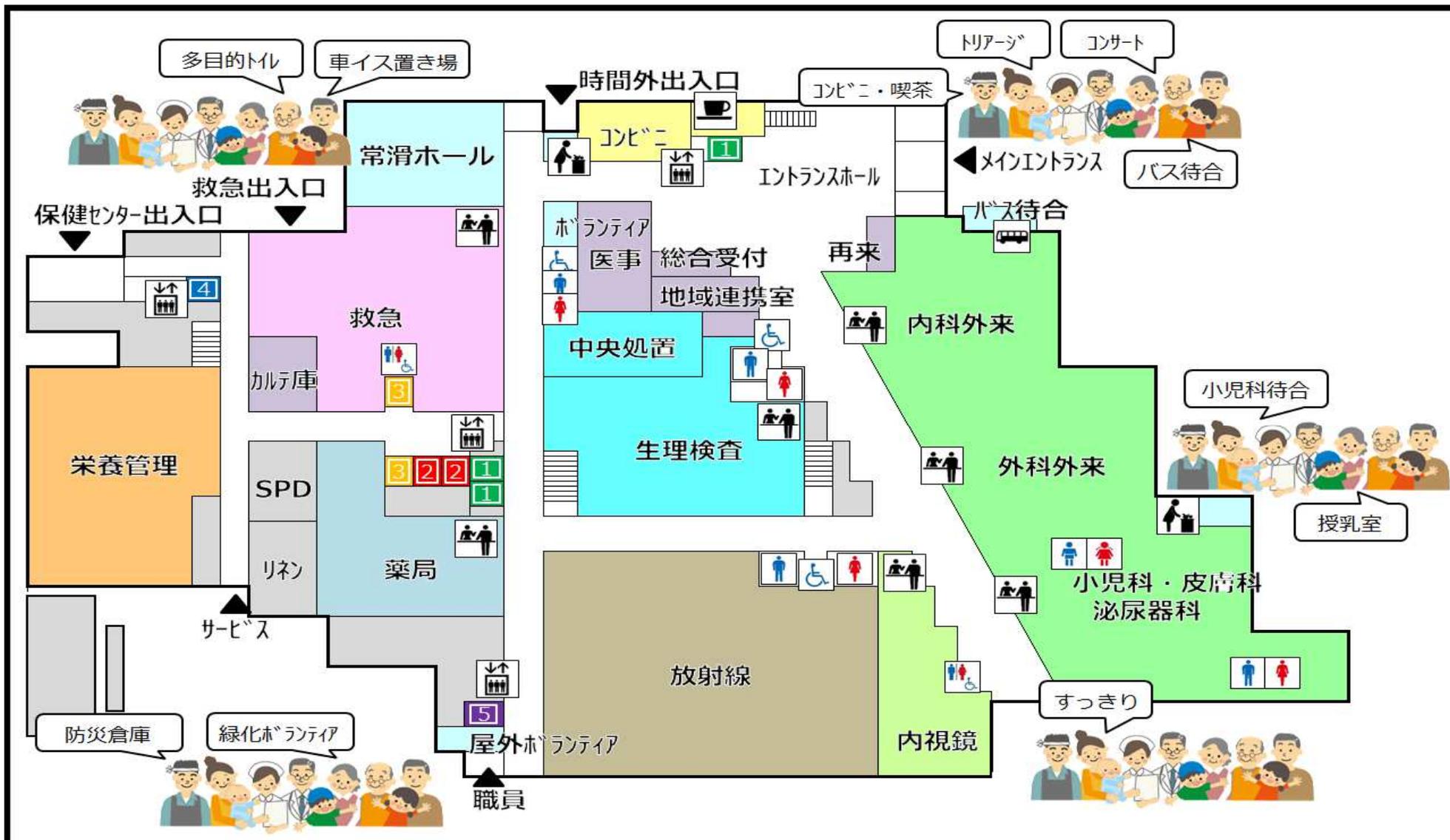
バスに関すること

- ▼八千代病院も南生協病院も玄関前にバス停があった。当然！今の常滑市民病院、患者をどれだけ歩かせるんだ！
- ▼バス待ちの方のために、バス停のすぐ近くに雨よけ、暑さ、寒さ対策ができる部屋（電車のホームにある待合室のような部屋）が必要である。加えて、暑い時は窓が開閉できるように、窓を設けて欲しい。また、そこにはベンチが必要である。

防災倉庫

- ▼建物西側の救急車入り口に大きな庇を付け、防風壁も設置する。災害時には庇と防風壁の間にシートやパネルで壁を造り、救護所として利用する予定。そのための資材を院内に保管するのは不可能。どうしたって屋外倉庫が必要だろう。

【1階フロア】



緑化ボランティア

- ▼緑化ボランティアの小道具は各自としても、大道具を入れるのはやっぱり屋外倉庫だろう。
- ▼また、植栽・花壇の手入れのボランティアには、屋外に道具入れとともに独立した休憩所があるとよい。

とこなめホール

- ▼体操やミニ講座など保健予防活動のできる場所
- ▼ホール利用者のうち車イスの方が利用するトイレがホールからかなり遠い。
- ▼分割使用できる会議室をつくり地域の方々も利用できるように

小児科外来

- ▼小児科待合の充実、子どもが飽きないよう絵本やおもちゃを用意するように。
- ▼ベビーベッド、授乳室、オムツ替え台の設置
- ▼（八千代病院は小児科に）感染用の待合を増築の際改められる。

メインエントランス

- ▼（八千代病院のように）時間外に総合受付のシャッターが閉まるのは、安全であり、またコンサートのときなどは雰囲気をよくすると思う。
- ▼エントランスホールでコンサートを開催ができるように
- ▼医事課受付カウンターにはシャッターを設置して、シャッターを閉じているときには病院らしくないような雰囲気作りを。
- ▼外来エントランスホールは、小イベントもできるように、外来受付はシャッターで閉める工夫が必要である。

車イス置き場

- ▼時間外出入口に車イスを置くスペースはないのか。

ホスピタルストリート

- ▼ロビーから各科が見渡せるつくり
- ▼メインエントランスから診察室など南側を望んだとき、各室の角があって見通しにくいとおもうが。
- ▼ホールから外来へのレイアウトが斜めになっており、斬新性がありますが、各室の出っ張りと柱などで見通しが悪くなり、閉塞感を抱くのではとやや気になります。

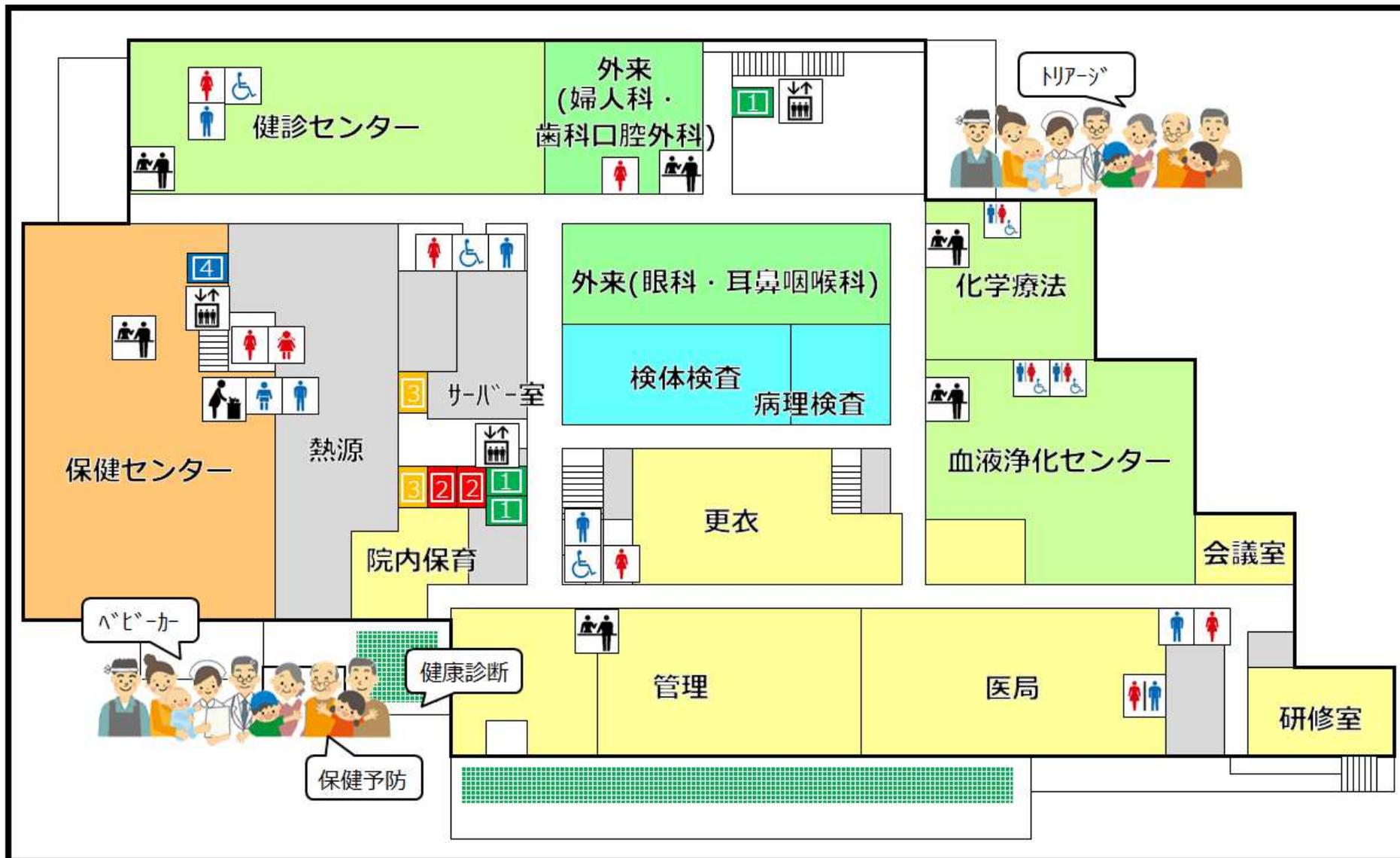
コンビニ・喫茶

- ▼コンビニで買ったものを食べるスペースを確保して欲しい。
- ▼喫茶コーナーでは、喫茶店としてのスペースではなく、院内コンビニやベイシアで購入した物を食べることができるスペースとして利用したい。例えば、コンビニと喫茶コーナーの壁を取り払う等。ただし、喫茶を利用したい方のために、6階の外来レストランでは喫茶を兼ねた運用ができるとよい。
- ▼喫茶が単独での募集が難しいようであれば、コンビニとの壁を無くして店ではなく、自由に食べられるスペースとしてはどうか。

その他

- ▼救急患者に迅速な処理が出来るよう配慮（設計の分野でも）
- ▼予防診療と急患との仕切り
- ▼（八千代病院の）病院臭のない空調、

【2階フロア】



保健センター

- ▼保健センターの入り口付近にベビーカーを数台（たたんで5台くらい）おけるスペースがあるとよいと思いました。

健診センター

- ▼健康診断など気軽に受けられる体制作り
- ▼地域住民の健康を守る、治療だけではない健康維持・増進の機能を持つ市民病院を望みます。

防災関係

- ▼災害時にエントランスホールがトリアージエリアとなるのであれば2階の吹き抜け部分から見下ろせる形になると良いと思う。

【4・5階病棟フロア】



デイコーナー

- ▼談話室は出来る限り広くし、**各フロアの中央に配置**する。
- ▼（八千代病院の）各病棟**通路端にあるデイコーナー**。
- ▼病棟について、デイコーナー等の具体的なスペースが確定していないようですが、**広い場所よりも狭くても良いので何箇所か、できれば明るい窓際に**設けて欲しいです。
- ▼各階、廊下の端は窓にすると明るいので、**椅子と小さなテーブルを置いて、簡単な談話コーナー**にすると良い。
- ▼（八千代病院は）病棟の突き出た奥が大きな窓になっていて、そこに、外を観渡たせるように**机と椅子が配置**されていた。

家族宿泊室

- ▼私の体験から、完全看護とはいえ術後の数日間は24時間付き添ってあげたいし、でも**体を休める場所**があることは本当にありがたい。
- ▼（南生協病院の）緩和病棟に**ご家族が泊まる部屋**があったこと

屋上緑化

- ▼（八千代病院は）**屋上庭園**があることによって外に出られない患者さんも風を感じることができる。
- ▼**屋上緑化**は今や必須と感じた。
- ▼（八千代病院では）窓からは絶えず緑が見え、また、全体的に明るく、院内環境の良さが目立った。
- ▼（八千代病院のように）どこの階からも**緑が見える**というのは、とても心が安らぎ、病気も早く治りそうな気がします。退院を渋られる方の気持ちも分かる気がしました。
- ▼（八千代病院の）**あちこちの窓から、植物が見える**ような癒やしの工夫▼（八千代病院では）各階ともに**屋上庭園**が楽しめて

ステキだった。

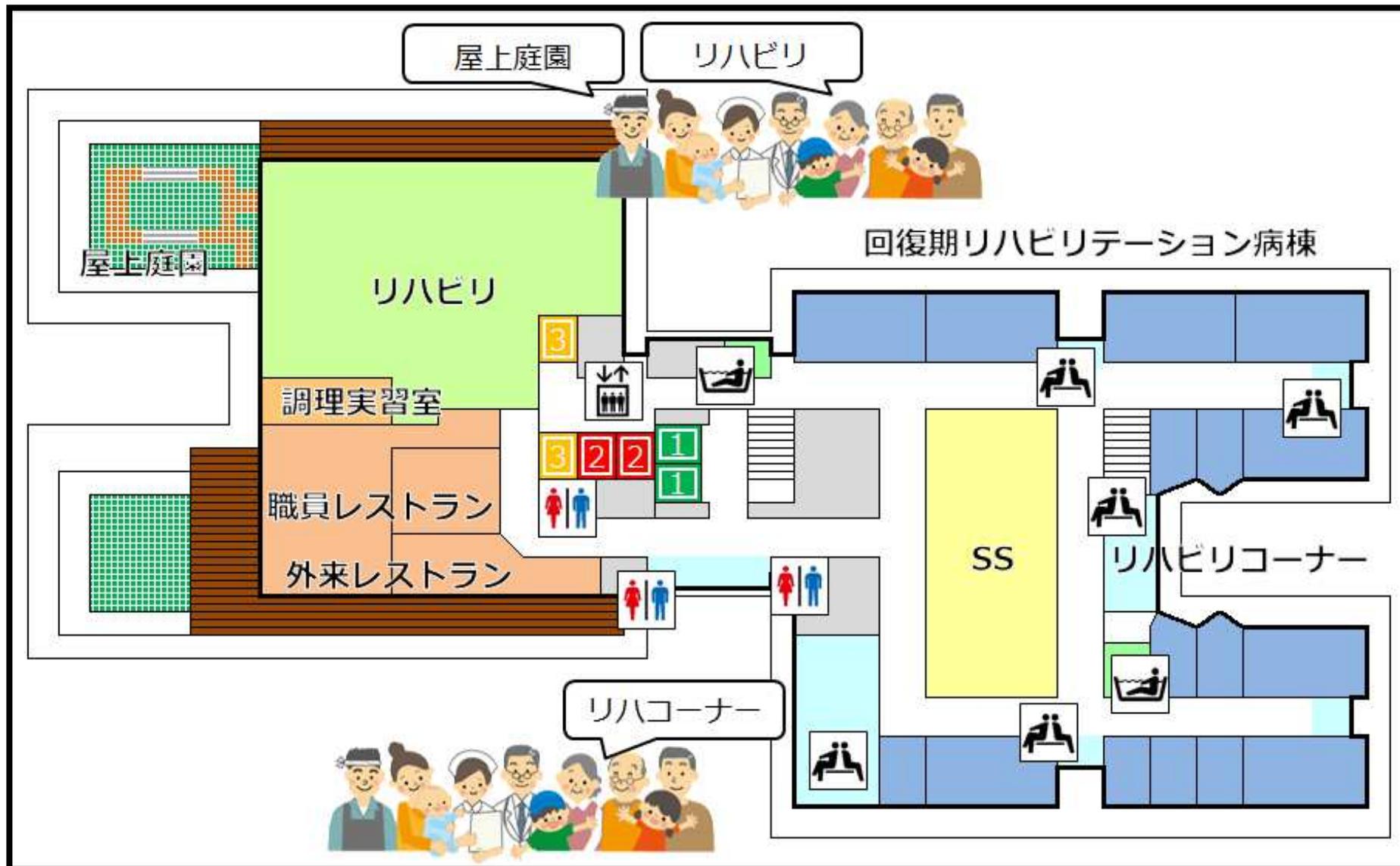
シャワー付の個室

- ▼（八千代病院を見て）**個室にシャワースペースが必要**と痛感した。最近の若い方はシャワーが必要です。特に女性には必須であると強く感じた。
- ▼**シャワー利用可能な数が不足している**と思った。
- ▼病室の問題ですが、**シャワー付きの個室が少ない**と思います。個室のグレードを何段階か選択できるように増やして欲しいです。
- ▼病室、**シャワーのある個室**があった方が良くと思う。特別室ではなく、一般の個室に。
- ▼**シャワー有の個室**を設けて欲しい。

病室のトイレ

- ▼（八千代病院は）**どのトイレも車イス可能**。ドアも開閉が簡便そうだった。
- ▼**男性が立って用を足せる手すり付き便器**まであった、（八千代病院の）多目的トイレ

【6階フロア】



リハビリ

- ▼（八千代病院では）隅っこだったが日差しにあたるデイコーナーで、理学療法士と軽くリハビリをやっていたところ。
- ▼（八千代病院の）病室の窓からは、庭園が眺められ、リハビリ室から庭園のウォーキングができるなど、独自の癒しの空間の工夫が感じられた。
- ▼（八千代病院では）緑化スペースがリハビリに有効利用されていることは素晴らしいと思う。
- ▼（八千代病院の）地域ボランティアの管理によるリハビリ施設を兼ねた屋上庭園、など、患者さんに対するアメニティ重視の姿勢がうかがわれた。

7. 資料の紹介

(1) 開催前資料

- 【資料A】 基本設計ワークショップ募集案内
- 【資料B】 基本設計ワークショップ開催要領
- 【資料C】 基本設計ワークショップ参加申込書

(2) ワークショップ当日資料

- 第1回【資料①】 プログラム
 - 【資料②】 ワークショップ(趣旨・進め方)
 - 【資料③】 ワークショップシート①
- 第2回【資料④】 ワークショップシート②
 - 【別紙①】 南生協病院さんのご案内
- 第3回【資料⑤】 ワークショップシート③
 - 【別紙②】 八千代病院さんのご案内
- 第4回【資料⑥】 プログラム
 - 【資料⑦】 ワークショップシート④
- 第5回【資料⑧】 プログラム
 - 【資料⑨】 ワークショップシート⑤
 - 【資料⑩】 第6回テーマ紹介
- 第6回【資料⑪】 プログラム
 - 【資料⑫】 ワークショップシート⑥
 - 【資料⑬】 ①コミュニケーション グループワーク資料
 - 【資料⑭】 ②ボランティア グループワーク資料
 - 【資料⑮】 ③アメニティ グループワーク資料

平成 24 年 7 月 30 日

100 人会議に参加して頂いたみなさまへ
(100 人会議に 3 回以上出席の方にご案内しています)

常滑市長 片岡憲彦

「新・常滑市民病院の基本設計に関するワークショップ」 の参加者募集について

昨年で開催させていただきました「みんなで創ろう！！新・常滑市民病院 100 人会議」につきましては、皆様のご理解とご協力により大変すばらしい会議となり、誠にありがとうございました。

皆様のおかげをもちまして、現在は新病院の基本設計作業を進めておりますが、ようやく皆様のご意見等が伺える「設計素案」がまとまりつつあります。

そこで、新病院の基本理念であります「コミュニケーション日本一の病院」を目指した取り組みの一環として、「新病院の基本設計に関するワークショップ」を開催したいと考えております。

つきましては、ご参加いただけるメンバーを募集いたしますので、別紙の「ワークショップ開催要領」を一読いただき、ワークショップ参加申込書に必要事項を記入の上、下記の方法によりお申込み（ご参加）くださいますようお願い申し上げます。

市民病院のことを真剣かつ熱心に考えてくださっている皆様と再会できることを願いつつ、多数のご参加をお待ちしております。

記

募集人数：約 25 人（申込み多数の場合は事務局で抽選）

開催内容：別紙の「ワークショップ開催要領」を参照ください。

申込期限：平成 24 年 8 月 10 日（金）17:00 までに必着

申込方法：別紙の申込書に必要事項を記入の上、①～④のいずれかの方法で提出して頂くか、⑤のお電話でも受け付けいたします。

① 電子メール：byoinsinbyoin@city.tokoname.lg.jp（新病院建設室宛）

※申込書の内容を記載してメールしてください。

② ファックス：0569-34-8526 市民病院内 新病院建設室宛

③ 郵送（郵送料：自己負担⇒ご協力をお願いいたします）

〒479-8510 常滑市鯉江本町 4-5 常滑市民病院 新病院建設室宛

④ 持参：市民病院内 新病院建設室まで

⑤ お電話：新病院建設室まで（執務時間：平日の 8:30～17:15）

電話 0569-35-3170 内線 515

※ただし、第 1 回ワークショップ開催時に申込書を提出願います。

「新・常滑市民病院の基本設計に関する ワークショップ」開催要領

1. ワークショップの開催日時及び内容

新病院の設計内容について、より具体的なご意見等をいただくため、先進病院を視察した後、意見交換等を行います。

番号	日程	時間	内容
①	8月18日(土)	14:00~16:00	オリエンテーション(常滑市民病院内)
②	9月1日(土)	13:00~17:00	先進病院視察(南生協病院:名古屋市)
③	9月8日(土)	13:00~17:00	先進病院視察(八千代病院:安城市)
④	9月22日(土)	14:00~16:00	設計素案の意見交換1(常滑市民病院内)
⑤	10月6日(土)	14:00~16:00	設計素案の意見交換2(常滑市民病院内)
⑥	10月20日(土)	予備日	予備日

※②、③の視察は、常滑市民病院 南駐車場からバス(市公用車)を利用。

2. 「新病院設計ワークショップ」シートの提出

各回のワークショップ終了後、100人会議において提出して頂きました「私ならこう創る 常滑市民病院」シート等と同様に、皆様のご意見などを書いていただく「新病院設計ワークショップ」シートを提出していただきます。

3. ワークショップの参加者募集について

募集人数：約25人(申込み多数の場合は事務局で抽選)

申込資格：ワークショップ開催日(上記の①~⑤)にご参加いただける方。

※複数回のご参加にご配慮いただきますようお願いいたします。

申込期限：平成24年8月10日(金)17:00までに必着

申込方法：別紙の申込書に必要事項を記入の上、①~④のいずれかの方法で提出して頂くか、⑤のお電話でも受け付けいたします。

① 電子メール：byoinsinbyoin@city.tokoname.lg.jp (新病院建設室宛)

※申込書の内容を記載してメールしてください。

② ファックス：0569-34-8526 市民病院内 新病院建設室宛

③ 郵送(郵送料：自己負担⇒ご協力をお願いいたします)

〒479-8510 常滑市鯉江本町4-5 常滑市民病院 新病院建設室宛

④ 持参：市民病院内 新病院建設室まで

⑤ お電話：新病院建設室まで(執務時間：平日の8:30~17:15)

電話 0569-35-3170 内線 515

「新・常滑市民病院の基本設計に関する ワークショップ」参加者申込書

私は、以下のとおり「新病院の基本設計に関するワークショップ」に参加の申込みをします。

住所 〒

フリガナ
氏名

連絡先 固定電話

携帯電話

eメールアドレス

※個人情報は、「新病院の基本設計に関するワークショップ」以外の目的には使用いたしません。

○お問合せ：常滑市民病院 新病院建設室
電話 0569-35-3170 内線 515 FAX0569-34-8526
電子メール：byoinsinbyoin@city.tokoname.lg.jp

本日のプログラム

平成24年8月18日（土）
常滑市民病院5階大会議室

• 開会（14：00）

（1）オリエンテーション（45分）

- 市長あいさつ
- 院長あいさつ
- 参加メンバーの自己紹介
- ワークショップの趣旨説明と進め方の概略説明

（2）情報提供（10分）

- これまでの経過及び病院の現状説明

（休憩 5分）

（3）病院（建築）の構成（50分）

- 病院に必要な機能（部門）の説明及び質疑

（4）まとめ（10分）

- 次回予告

- 「ワークショップ」シート記入・提出

• 閉会（16：00）

～100 人会議サポーター企画～

「新・常滑市民病院の基本設計に関するワークショップ」

の趣旨説明及び今後の進め方

1. ワークショップの開催趣旨

新病院の基本理念であります「コミュニケーション日本一の病院」を目指した取り組みの一環として、昨年で開催いたしました「みんなで創ろう！！新・常滑市民病院 100 人会議」にご参加いただいたメンバーを対象に「新病院設計ワークショップ」を開催します。

ワークショップでは、病院（建築）の構成・要素などをご紹介するオリエンテーションから始まり、先進病院の視察等を踏まえ、新病院の設計内容について話し合い、ご意見を出していただきます。

将来にわたり、全市民から「本当にあってよかった」「私たちが支えていこう」と思ってもらえるような新病院づくりにご協力をお願いいたします。

2. ワークショップの開催日時及び内容

オリエンテーション（①）及び意見交換（④・⑤）は、市民病院内 5 階大会議室で行います。意見交換は、少人数のグループワークを想定しています。

視察（②・③）は、市民病院南駐車場からバス（市公用車）をご利用いただきます。

番号	日程	時間	内容
①	8月18日(土)	14:00～16:00	オリエンテーション(常滑市民病院内)
②	9月1日(土)	13:00～17:00	先進病院視察(南生協病院:名古屋市)
③	9月8日(土)	13:00～17:00	先進病院視察(八千代病院:安城市)
④	9月22日(土)	14:00～16:00	設計素案の意見交換1(常滑市民病院内)
⑤	10月6日(土)	14:00～16:00	設計素案の意見交換2(常滑市民病院内)
⑥	10月20日(土)	予備日	予備日

3. 「新病院設計ワークショップ」シートの提出（意見反映）

各回のワークショップ終了後、100 人会議において提出して頂きました「私ならこう創る 常滑市民病院」シート等と同様に、皆様のご意見などを書いていただく「新病院設計ワークショップ」シートを提出していただきます。

提出していただいたシートは、今後の設計やワークショップの運営等の参考にさせていただきます。

総合病院 南生協病院さんのご案内

新病院ワークショップ資料2012.9.1

理念：私たちは、ともにあゆむ医療で、笑顔と「ありがとう」がふれる病院をめざします。
所在地：名古屋市緑区大高町（イオン大高ショッピングセンター隣接、JR南大高駅隣接）

項目	南生協病院さん	新病院（常滑）の計画
開院	平成22年3月末現病院としてスタート	平成27年5月
救急病院	第2次医療機関	第2次医療機関
病床数	313床 うち、個室数170床（54%）	270床 うち、個室数80床（30%）
診療科目	26診療科 総合・循環器・呼吸器・消化器・神経・腎臓・呼吸器外科・外科・消化器外科・乳腺・肛門・小児外科・脳外・整形・小児・精神・産婦人・皮膚・眼科・耳鼻咽喉・放射線・リハビリ・泌尿器・麻酔・病理診断・リハ	23診療科 総合・循環器・呼吸器・内分代謝・消化器・血液・神経・腎臓・心療・外科・血管外科・脳外・整形・泌尿器・小児・婦人・皮膚・眼科・耳鼻咽喉・放射線・リハ・麻酔・歯科口腔
常勤職員数	約370人 うち、常勤医55人（研修医含む）	約300人 うち、常勤医30人（研修医含む）
構造・階数	S造（一部SRC造、RC造）制振構造 7階建	SRC造 免震構造 6階建
敷地面積	17,878㎡	30,000㎡
延床面積	23,000㎡（病院棟）	22,000㎡
付随施設	カフェ&レストラン、パン屋、交流館、フィットネス、健診センター	保健センター、健診センター
外来診察	1, 2, 3階に配置	1, 2階に配置
総合待合	吹き抜けのある総合待合	吹き抜けのある総合待合
病棟（4床室）	全てのベッドに窓がある	全てのベッドに窓がある個室の4床室
アメニティー	カフェ、ショップ、旅行カウンター	コンビニ（売店）、オートインコーナー
ボラントリー	ボラントリーアステーション整備	ボラントリーアステーション整備
ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインに配慮された設計	ユニバーサルデザインに配慮された設計
その他	情報ライブラリー、相談コーナーなど	情報ライブラリーなど

「新病院設計ワークショップ」シート②

※9月8日（土）の第3回ワークショップ（視察）時までに提出してください。

氏名	
----	--

1. 南生協病院さんの施設見学や説明を通して感じたこと、印象に残ったことを書いてください。

2. 今後のワークショップに望むことがあれば書いてください。

社会医療法人 財団親和会 八千代病院さんのご案内

新病院ワークショップ資料2012.9.8

理念：私たちは地域の皆様の健康を守り、より良い生活を送っていただくために最善の医療を提供します。

所在地：安城市住吉町（名鉄新安城駅徒歩8分、敷地内に安城市コミュニティバスの停留所あり）

項目	八千代病院さん	新病院（常滑）の計画
開院	平成17年5月 現在の場所に新築移転	平成27年5月
救急病院	第2次医療機関	第2次医療機関
病床数	320床のうち、個室68床（28%）	270床のうち、個室数80床（30%）
診療科目	29診療科 総合内科・循環器・呼吸器・内分泌代謝・消化器・神経・腎臓・外科・血管外科・消化器・脳神経・乳腺外科・肛門・整形・呼吸器・泌尿器・小児・産婦人科・皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線・リハ・人工透析・麻酔・ペインクリニック外科・臨床検査・病理診断・救急科	23診療科 総合・循環器・呼吸器・内分泌代謝・消化器・血液・神経・腎臓・心療・外科・血管外科・脳外・整形・泌尿器・小児・婦人科・皮膚科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線・リハ・麻酔・歯科口腔
常勤職員数	約601人のうち、常勤医48人（研修医含む）	約300人のうち、常勤医30人（研修医含む）
構造・階数	RC造 耐震構造 6階建	SRC造 免震構造 6階建
敷地面積	18,670㎡	30,000㎡
延床面積	22,989㎡	22,000㎡
付随施設	不妊センター、健診センター	保健センター、健診センター
外来診察	1、2階に配置	1、2階に配置
総合待合	入院患者向けに日曜ニコサートを開催	吹き抜けのある総合待合
病棟（4床室）	どの病室からも屋上庭園が見える4床室	全てのベッドに窓がある個室の4床室
アメニティー	売店、喫茶&レストラン	コンビニ（売店）、オートインコーナー
ポランティア	ポランティアアステーション整備	ポランティアアステーション整備
ユニバーサルデザイン	「人によさしい街づくりの賞」を受賞	ユニバーサルデザインに配慮された設計
その他	屋上リハビリガーデン、患者様ライブラリー、屋上ガーデンなど	屋上リハビリ庭園、情報ライブラリー、屋上庭園など

「新病院設計ワークショップ」シート③

※9月14日（金）までに提出してください。

氏名	
----	--

1. 八千代病院さんの施設見学や説明を通して感じたこと、印象に残ったことを書いてください。

2. 今後のワークショップに望むことがあれば書いてください。

本日のプログラム

平成24年9月22日（土）
常滑市民病院5階大会議室

• 開会（14：00）

（1）オリエンテーション（5分）

- 市長あいさつ
- 院長あいさつ
- 本日の進め方

（2）病院の基本設計（H24.9.5 現在案）の説明（20分）

（3）グループワーク（90分）

（途中休憩 5分程度）

（4）まとめ（5分）

- 次回予告

• 閉会（16：00）

「新病院設計ワークショップ」シート④

※9月28日（金）までに提出してください。

氏名	
----	--

1. 新・常滑市民病院の設計（案）の説明を聞いて、どう思われましたか。あなたのご意見をお書きください。

2. 次回のワークショップの進め方について、ご意見があればお書きください。

例)「今回のようなグループワークがしたい」「テーマ別又はフロア毎にグループワークがしたい」「グループワーク後、意見発表がしたい」など

本日のプログラム

平成24年10月6日（土）
常滑市民病院5階大会議室

• 開会（14：00）

（1）オリエンテーション（5分）

- 本日の進め方

（2）「3.11 東日本大震災」初動の記録～石巻赤十字病院～（ビデオ上映：10分）

- 「災害時におけるライフラインの確保」(株)日建設計 砂田竜男氏（講話：10分）

（質疑：10分）

（3）グループワーク（60分）

（途中休憩 5分程度）

（4）グループワークの意見発表（15分）

（5）まとめ（10分）

• 閉会（16：00）

第6回ワークショップ グループワークテーマ紹介

今回のワークショップでは、3つのグループに分かれて意見交換を行います。各グループのテーマは次のとおりです。

1. 「コミュニケーション日本一の病院」

「私たちは、小さいからこそできる『コミュニケーション日本一の病院』を実現します。」これが新病院の基本理念です。しかし、一言にコミュニケーションと言っても、患者さんと職員とのことなのか、職員同士、はたまた地域と病院のことなのかと、たくさんのコミュニケーションのあり方が考えられます。

このグループでは、特に皆さんの患者目線（市民目線）から見たコミュニケーションのあり方や、コミュニケーション日本一の実現のため新病院の機能を使ってどんなことができるかについて話し合います。

【図面のここがポイント!!】

コミュニケーションラウンジ、とこなめホール、保健センター など

2. 「ボランティアの活躍のためには」

病院敷地の花壇の手入れからはじまり、院内の案内役、患者さんの手助けまで、八千代病院でも、南生協病院でもたくさんの『ボランティア』の方が活躍されていました。病院はボランティアの皆さんに支えられて成り立っており、もちろん新病院も例外ではありません。

このグループでは、新病院においてボランティアの皆さんにどのように活躍していただくか、また、そのためには設計段階において、どんなことを考えておかなければならないかを話し合います。

【図面のここがポイント!!】

ボランティアステーション、メインエントランス、屋上庭園 など

3. 「患者・来院者・地域住民等のアメニティ向上のためには」

南生協病院の視察ではパン屋さんやフィットネスジム、保育所など附属施設に対する感想をたくさんいただきました。病院の印象は、喫茶や売店(コンビニ)や食堂はもちろん、授乳室やトイレにいたるまで病院のもつ『アメニティ』によって大きく左右されると言っても過言ではありません。

このグループでは、患者が満足し、新病院のファンとなってもらい次回も新病院を利用しようと思ってもらうためにはどんなアメニティが考えられるのかについて話し合います。

【図面のここがポイント!!】

「新病院設計ワークショップ」シート⑤

※10月12日（金）までに提出してください。

氏名	
----	--

1. グループワークを終えて、新・常滑市民病院設計（案）に対するあなたのご意見をお書きください。

2. 第6回ワークショップにおいて意見交換したいテーマを、次の

①～③の中から第1希望、第2希望の順に選択してください。

■想定テーマ

- ① 「コミュニケーション日本一の病院」
- ② 「ボランティアの活躍のためには」
- ③ 「患者・来院者・地域住民等のアメニティ向上のためには」

第1希望： _____ 第2希望： _____

本日のプログラム

平成24年10月20日（土）
常滑市民病院5階大会議室

• 開会（14：00）

（1）オリエンテーション（5分）

- 本日の進め方

（2）ドクターヘリの搬送（H24.10.2）～常滑市民病院～（ビデオ上映：5分）

（3）テーマ別グループワーク（80分）

- 想定テーマ

- ① 「コミュニケーション日本一の病院」
- ② 「ボランティアの活躍のためには」
- ③ 「患者・来院者・地域住民等のアメニティ向上のためには」

（途中休憩 5分程度）

（4）グループワークの意見発表・講評（25分）

（5）まとめ（5分）

- 市長お礼の言葉

• 閉会（16：00）

①コミュニケーション日本一の病院

▼新常滑市民病院の基本理念（新・常滑市民病院基本構想より）

私たちは、小さいからこそできる
「コミュニケーション日本一の病院」
を実現します。

① 顧客コミュニケーション

患者さんはもとより、健康な常滑市民のみなさんにも「顧客」として目を配り、「顧客とのコミュニケーション日本一」を目指し、顧客のニーズにこたえる、適切な情報提供、予防の推進、医療の提供及び健全な病院運営を実現します。

② スタッフ・コミュニケーション

医療にかかわるすべての「スタッフ間のコミュニケーション日本一」を目指し、病院全体が、一つのチームになって、安全で質の高い、人間的な医療を実践します。また、たゆまぬ努力と研鑽、学び合いと高め合いを通じ、高度な知識と技術、そして豊かな人間性を備えた、質の高い医療人を育成します。

③ 地域連携コミュニケーション

地域の他の医療機関、福祉施設や行政などとの「地域連携コミュニケーション日本一」を目指して、適切な役割分担を実現し、地域住民の健康の維持・増進に寄与することで、常滑市の魅力向上と発展に貢献します。

【参考資料】

資料①もしもしナース、看護だより（資料②病院祭、資料③消防ふれあい見学会、資料④子育て支援フェスタ）資料⑤接遇大賞、資料⑥糖尿病教室のお知らせ

②ボランティアの活躍のためには

はじめに

「ボランティア」の原則（原点）に対する確認

ボランティア活動とは、個人が自発的に決意、選択するものである。

(世界ボランティア宣言 1990)

1. 病院におけるボランティアの役割

- ・病院を利用する患者の満足に役立つ～安心と安らぎの存在
- ・病院と市民の橋渡しをする～コミュニケーションの推進
- ・病院と地域（コミュニティ）の橋渡しをする～開かれた病院作り

2. 病院ボランティアの活動内容

期待される役割	具体的活動内容	必要備品等
要支援者の介助、補助	障害者、高齢者、妊婦等の支援を必要とする 外来患者への車いす介助等	ユニフォーム (エプロン等)
外来患者の案内、手続き支援	外来患者への院内案内、新患・再来患者への 受付手続き等の支援	
入院患者のQOL維持 向上支援	入院患者の話し相手、傾聴、散歩付添い、読 み聞かせ、図書の整理、音楽療法の補助等	
環境整備	花壇の整備等	
コミュニケーションの推進	打ち合わせ・連絡調整	
コミュニティ活動の推進	同上、ミコサート等の開催、作品展示	ピアノ・エレクトーン

3. ボランティアステーションの機能

- ・ボランティア活動の拠点～休憩、更衣、情報交換、ボランティア活動の調整、ボランティア専
属事務
- ・コミュニケーションの拠点～情報交換、連絡調整
- ・コミュニティの拠点～情報収取・発信、連絡調整

4. ボランティア・ステーション（仮称）等の必要調度品、備品

- ＜ステーション＞ 給湯設備、更衣ロッカー、冷蔵庫、事務机、PC、プリンタ、
書類入れ、応接机（相談兼用）、事務机、折畳み椅子、書棚
- ＜屋外倉庫＞ 手洗い設備、ホース等水遣り用具一式、掃除道具一式、
- ＜その他＞ 特設舞台、展示用レール

5. ボランティア・ステーション（仮称）等の必要規模と設置場所

- ＜ステーション＞ 最低_____㎡、エントランスホールの入口に出来るだけ近い
場所
- ＜屋外倉庫＞ 最低_____㎡、_____
- ＜その他＞ 舞台_____㎡、メイン・エントランスホールの一角

6. その他

この資料はワークショップメンバーの樫尾治良さまにご提案いただきました。

③患者・来院者・地域住民等のアメニティ向上のためには

(1) 売店(コンビニ)、喫茶、情報ライブラリ

(2) 患者給食、外来レストラン、職員レストラン

(3) 病室、トイレなど病院機能

(4) その他

【参考資料】

資料⑦～⑨個室の4床室レイアウト、資料⑩院内アメニティアンケート、資料⑪(株)光洋(売店・喫茶資料)、資料⑫(株)ローソン(コンビニ資料)

「新病院設計ワークショップ」シート⑥

※10月26日（金）までに提出してください。

氏名	
----	--

1. あなたのグループのテーマは何でしたか。
2. グループワークを終えて、今日のテーマに対するあなたのご意見を書いてください。
3. 「新病院設計ワークショップ」を終えて、感じたことやご意見を書いてください。
4. 今後の新常滑市民病院の建設に向けて希望することを書いてください。

事務局（常滑市民病院事務局 新病院建設室）

〒479-8510

愛知県常滑市鯉江本町4 丁目5 番地

電話0569-35-3170（内線515）

FAX0569-34-8526

e-mail byoinsinbyoin@city.tokoname.lg.jp